

# リアホナ



リーハイの夢に  
自分の姿を見いだす, 26ページ

巧みなステップで危機を脱したことや,  
そのほかのミュニャルの思い出, 32ページ

すべての年代に一致を呼びかける,  
14, 22, 40, 56, 60ページ





教会座主美術部の画「エルの悲劇」

### 「このような時のため」 エルスペース・ヤング画

エステルはいとこのモルデカイに育てられました。王が王妃選びを始めたとき、乙女が集められました。エステルは王の宮殿に招かれ、王はついに彼女を王妃に選びました。

しかし、ユダヤ人モルデカイは大臣ハマンから敵視されるようになりました。やがてハマンは王国内のすべてのユダヤ人を殺す陰謀を企てます。ユダヤ人はこの布告に嘆き悲しみ、断食をしました。モルデカイはエステルに次のような伝言を送りました。「あなたがもし、このような時に黙っているならば、……あなたとあなたの父の家とは滅びるでしょう。あなたがこの国に迎えられたのは、

このような時のためでなかったとだれが知りましょう。」(エステル4:14)

エステルは次のように返答しています。「……すべてのユダヤ人を集め、わたしのために断食してください。……そしてわたしは法律にそむくことですが王のもとへ行きます。わたしがもし死なねばならないのなら、死にます。」(エステル4:16) エステルはその陰謀を王に伝え、自分もユダヤ人であることを告げました。エステルの勇気ある行動により、ユダヤ人は自分たちの命を守ることを許されました。

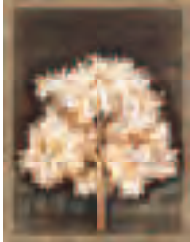


リアホナ 2010年 8月号

メッセージ

- 4 大管長会メッセージ——  
神殿の祝福  
ディーター・F・ワークトドルフ管長
- 7 家庭訪問メッセージ——  
神殿の礼拝に  
ふさわしくなるという、  
わたしたちの責任

表紙  
表紙——「命の木」魚田一人  
裏表紙——絵/ロビン・ルーチェ



特集

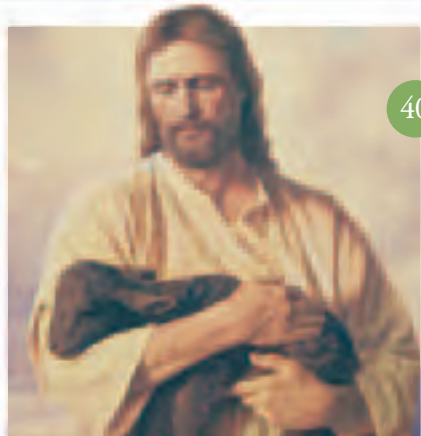
- 22 違いがあっても一致する  
アダム・C・オルソン  
バスケス家族は悲劇に見舞われましたが、一致協力して強さを保っています。
- 26 リーハイの夢に  
自分の姿を見いだす  
ボイド・K・パッカー会長  
リーハイの夢にはわたしたち全員  
にとって特別な意味があります。
- 32 互いに益となる  
教会指導者たちが忘れられない  
青少年時代のミューチャルの活動について語っています。

シリーズ

- 8 小さな、簡単なこと
- 10 教会での奉仕——  
優れた説教をする  
マーカス・シェリダン

- 12 わたしたちが信じていること——  
神殿に入るふさわしさを保つ
- 14 福音クラシック——一致  
マリオン・G・ロムニー管長
- 17 キリストについて語る——  
主はわたしの名前を  
知っておられる  
シェリー・クルル
- 18 わたしたちの家庭、  
わたしたちの家族——  
聖文から子供に教える  
チェリル・C・ラント
- 36 末日聖徒の声
- 72 教会のニュース
- 80 また会う日まで——  
結び目を作って  
しっかりつかまっていなさい  
カレン・ポール





40

**40** わたしたちに対する  
指導者の言葉——  
自分とは違う人  
マーリン・K・ジェンセン長老

**43** 生活の中の福音——  
家族の一員  
レーチェル・ニール



こんげつごう なか  
今月号の中に  
かく  
隠れている  
リアホナを  
さが  
搜しましょう。  
ヒント——家族



50

**44** 質疑応答  
「教会員であること、また自分の  
標準を守ろうとしていることで、  
あざけられたときには、どのよう  
に対応すればよいでしょうか。」

**46** ポスター——おはよう

**47** 教えに教え——  
教義と聖約 1:38

**48** 伝道地より——  
主は彼をわたしたちが通る道に  
置かれました  
ジョニ・ラーセン・マーシャル

**50** セミナリーを取る？  
それともスポーツ？  
カロリーナ・テノリオ・ピカード  
宿題と、スポーツと、セミナリーの  
ための時間がありませんでした。  
何をあきらめることができるで  
しょうか。

**52** 一人のために、みんなのために  
デビッド・A・エドワーズ  
ドイツの青少年はユースカンファ  
レンスを通して互いの証を強め  
合っています。



70

**56** ぼくたちは みんな  
くつを はいている  
サラ・カトラー、ライアン・ジョンソン  
あたらしい友達たちとぼくは、思っ  
ていたよりも似ていました。

**58** 10才の先生  
パービー・ミランダ、ジョージ・ミランダ  
初等協会しよとうきょうかいで学んだことを分  
かち合うときに、宣教師になることが  
できます。

**58** 救いの計画  
聖句と絵えを使って、救いの計画  
をだれかに教えましょう。

**60** 一つに結ばれた心  
ヘンリー・B・アイリングかんちやう管長  
神の子には相違点さうい てんよりも共通点  
の方が多くあります。

**62** 分かち合いの時間——  
イエス・キリストは  
かみの おん子、  
そして きせきの かみです。  
サンドラ・タナー、  
クリスティーナ・フランコ

**64** エホバの たみを すくった  
おうひ エステル  
ダイアン・L・マンゲン  
おそらく エステルは このよう  
なときのために えられたのです。

**66** だきしめられた ジェニファー  
ジェニファー・リックス  
おいのりをすると、なきたい 気  
もちはどこかへ とんで行って  
しまいました。

**67** わたしたちのページ

**68** ちいさな おともだちへ



リアホナ 2010年8月号

第12巻8号 (09288 300)

末日聖徒イエス・キリスト教会公式国際機関誌(日本語版)

大管長会: トーマス・S・モンソン, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウーグトルフ

十二使徒定員会: ボイド・K・パッカー, L・トム・ベリ, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホルランド, デビッド・A・ベドナー, クエンティン・L・クック, D・トッド・クリストファーソン, ニール・L・アンダーセン

編集長: スペンサー・J・コンディ

顧問: キース・K・ヒルビッグ, 菊地良彦, ポール・B・バイパー

実務運営ディレクター: デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター: ピンセント・A・ボーン

編集主任: ラリー・ヒラー

グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーク

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ジェニファー・L・グリーンウッド, アダム・C・オルソン

共同編集者: ライアン・カー

編集補佐: スーザン・パレット

編集スタッフ: デビッド・A・エドワーズ, マシュー・D・フリットン, ラリー・ポーター・ガント, アニー・ジョーンズ, キャリー・カステン, ジェニファー・マディー, メリッサ・メリル, マイケル・R・モリス, サリー・J・オデカーク, ジョシュア・J・パーキー, チャド・E・ファレス, ジャン・ピンボロ, リチャード・M・ロムニー, ドン・L・サルム, ジャネット・トーマス, ポール・ハンデンバーグ, ジュリー・ワデル

主任秘書: ローレル・トイチャー

実務運営アートディレクター: J・スコット・クヌーセン

アートディレクター: スコット・パン・カンペン

制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ: カリ・R・アロヨ, コレット・ネベカー・オーヌ, ハワード・G・ブラウン, ジュリー・バーデット, トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, キム・フェンスターマカー, キャスリーン・ハワード, エリック・P・ジョンソン, デニス・カービー, スコット・M・ムーイ, キニー・J・ニルソン

製版: ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター: クレグ・K・セドウィック

配送ディレクター: ランディ・J・ベンソン

日本語版翻訳課長: ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 1,000円(送料共)

普通号/大会号 150円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は下記の連絡先にお送りください。  
Rm. 2420, 50 E. North Temple St.,  
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA  
電子メール: [liahona@dscchurch.org](mailto:liahona@dscchurch.org)

「リアホナ」は、[www.liahona.lds.org](http://www.liahona.lds.org)に様々な言語で掲載されています。「リアホナ」(モルモン書)に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アルバニア語, アルメニア語, ビスマラ語, ブルガリア語, カンボジア語, セブアノ語, 中国語, クロアチア語, チェコ語, デンマーク語, オランダ語, 英語, エストニア語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ドイツ語, ギリシャ語, ヒンディー語, ハンガリー語, アイスランド語, インドネシア語, イタリア語, 日本語, キリバス語, 韓国語, ラトビア語, リトアニア語, マダガスカル語, マーシャル語, モンゴル語, ノルウェー語, ポーランド語, ポルトガル語, ルーマニア語, ロシア語, サモア語, シンハラ語, スロベニア語, スペイン語, スウェーデン語, タガログ語, タミル語, テルグ語, タイ語, トンガ語, ウクライナ語, ウルドゥー語, ベトナム語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2010 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷: 日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的に使用する場合は複写することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St, Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール — [cor-intellectualproperty@dscchurch.org](mailto:cor-intellectualproperty@dscchurch.org) にご連絡ください。

**For Readers in the United States and Canada:** August 2010 Vol. 34 No. 8. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431) POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

# インターネットで得られる追加情報

Liahona.lds.org (英語)

## 成人



今月号には一致についての記事が多く掲載されています(14, 22, 40, 56, 60 ページ参照)。一致についてさらに読みたい場合は、[www.gospeltopics.lds.org](http://www.gospeltopics.lds.org) (英語) にアクセスしてください。

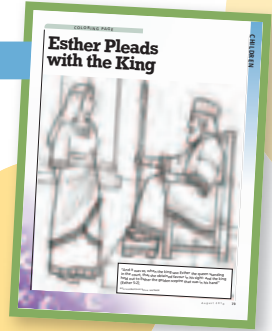
## 青少年



「違いがあっても一致する」という記事では(22 ページ)、サクサイワマンというインカの遺跡から学べる幾つかの事柄について語っています。さらに写真を見たい場合は、[www.liahona.lds.org](http://www.liahona.lds.org) にアクセスして、さらに写真を見てください。

## 子ども

71 ページにある エステルと おうの むりえをしてください。それから、[www.liahona.lds.org](http://www.liahona.lds.org) で もっと おおくの むりえを みつけてください。



## あなたの言語で

[www.languages.lds.org](http://www.languages.lds.org) で、「リアホナ」やその他の教会の資料を多くの言語で入手できます。





大管長会第二顧問  
ディーター・F・  
ウークトドルフ管長

# 神殿の祝福

**両**親に連れられて、建てられたばかりのスイス神殿に家族で行ったときのことを今でも覚えています。永遠の家族となるために、ヨーロッパで最初の神殿に行きました。わたしは4人きょうだいの末っ子で、当時16歳でした。わたしたちは聖壇にひざまずき、地上で神権の力によって結び固められ、永遠と一緒にいられるというすばらしい約束を受けました。その崇高な瞬間を、わたしは決して忘れないでしょう。

少年だったわたしの心に深く残ったのは、家族として結び固められるために国境を越えて行ったことです。わたしにはそれが神殿の業を象徴しているように思えます。地に住むすべての人に永遠の祝福をもたらすために、神殿の業はこの世の垣根を越えるのです。末日聖徒イエス・キリスト教会

の神殿はまことに、国籍や文化、政治的信条に関係なく、全世界の人々を益するために建てられているのです。

神殿は地上に善が広がっていくことを証する揺るぎないしるしです。大管長会第一顧問を務めたジョージ・Q・キャンノン管長（1827 - 1901年）は、かつて次のように述べています。「神殿建設のために礎石が置かれるとき、また……神殿が完成するときにはいつも、地上のサタン力は弱まり、神と神を敬う人々の力が増[します。]」<sup>1</sup>

それぞれの神殿が地上で義の影響を増す一方で、最大の祝福はもちろん、実際に神殿に参入する人々にもたらされます。神殿でわたしたちはより豊かな光と知識を受け、神聖な聖約を交わします。そしてそれらの聖約に従うとき、弟子としての道を歩むことができます。つまり、神殿は人生の神聖な

目的について学ぶ所であり、物理的な面でも霊的な面でも真に進むべき方向を知ることでできる場所なのです。

しかし、神殿に参入するのは自分自身のためだけではありません。これらの神聖な建物に入る度に、わたしたちは人に救いをもたらす神聖な贖いの業に貢献することになります。御父の独り子の贖罪により、この救いは神のすべての子供たちに開かれています。神殿参入は聖なる無私の奉仕であり、参入するわたしたちは死すべき者でありながらシオンの山の救う者となるという輝かしい業に携わるのです。

現在何らかの理由で神殿に参入できない皆さんには、有効な神殿推薦状を持つためにあらゆる努力をするように勧めます。神殿推薦状はわたしたちの忠実さと、主に仕える決意の象徴です。主への愛の象徴です。イエス

右—フォートラスベラス、シオン、スコット、ナドセン、合盛寺、アーク、クレク、タイムズ、チャールズ、W、カーター  
左—神殿の写真、スイス、ベルン、神殿、クリス、ミルス、中国香港、神殿、クレク、タイムズ、ガナ、アラバマ、神殿、マッシュ、タイムズ、ライアー





が次のように教えておられるからです。「わたしのいましめを心にいだいてこれを守る者は、わたしを愛する者である。わたしを愛する者は、わたしの父に愛されるであろう。わたしもその人を愛し、その人にわたし自身をあらわすであろう。」(ヨハネ 14:21)

主に奉献されたこれらの神聖な建物で世界の景色がどんどん美しくなっています。そのような時代にあって、わたしたちが神殿推薦状を持つにふさわしくあり、また推薦状を使うことによって、天を地に近づけるために自分たちの役割を果たすように祈ります。そうするとき、わたしたちの生活や家庭においてだけでなく、地域社会や全世界において、義が確かに増すことでしょう。■

注

1. ジョージ・Q・キャノン, "The Logan Temple," *Millennial Star*, 1877年11月12日付, 743

### このメッセージから教える

**考**えを述べる時、単に話すだけでなく視覚資料を用いると、聞いている人はメッセージをよりよく理解し、長く記憶にとどめることができます(『教師, その大いなる召し』[1999年] 181 参照)。レッスンの間、神殿の写真を見せるとよいでしょう。記事を読んだ後、ワークドルフ管長にとってなぜ神殿が大切なのかについて話し合ってください。幼い子供たちには、神殿にいる自分の家族の絵を描くように勧めてください。

『教師, その大いなる召し』には、「生徒に、あなたの教えてきた原則に従って生活するうえで役立つ目標を、一つもしくはそれ以上定めるように促す」とあります(159)。ワークドルフ管長のメッセージを家族と一緒に読み、神殿推薦状を持つにふさわしくあり、また推薦状を使うようにするのに役立つ個人の目標を書くといよいでしょう。

## 青少年

### 高台からの眺め

ミンディ・レイ・ホームズ

**青**少年のころ、カリフォルニア州サンディエゴ神殿で死者のためのバプテスマを行う機会が何度もありました。いつも良い経験をしました。あるときのこと、特に心に残っています。

16歳のときでした。妹は12歳になったばかりで、初めて死者のためのバプテスマを行いに神殿を訪れていました。妹が初めてだったので、わたしたちは儀式を終えた後、神殿の外を散歩することにしました。

神殿の敷地の一方に見晴らしの良い場所が何か所かあるので、そこに歩いて行きました。サンディエゴ神殿は交通量の多い幹線道路の隣に位置しているため、見晴らしの良い場所に立つと、実際にその道路を見下ろすこととなります。

その日、わたしは神殿の高台に立ったことで、人生を新しい見地から眺めることができました。わたしはこの世を見下ろしていました。疾走する車、混雑したショッピングセンター、落書きがいっぱいの道路標識。

そのとき、次のような思いが心に浮かんだのです。「そんなものにはかかわらなくていい。人生はそんなもののためにはあるのではないから。」人生の目的は天の御父のもとに戻って御父とともに住み、御父のようになることだと、わたしはずっと教わってきました。その目的を成し遂げるために、この世のものは必要ないのだということが分かりました。

わたしは振り返って美しい神殿を眺め、福音を知っていることと、福音が教えてくれる物の見方に感謝しました。無秩序で不安定な世界のただ中であって、自分が立つべき高台を見いだしたことを知りました。

その日神殿でわたしは天の御父に、いつでも世の側ではなく主の側に立つことを約束しました。この世が何を投げつけてこようと、わたしたちは自分が交わしている聖約を守り、聖なる場所に立つことによって、打ち勝つことができるのです(教義と聖約 87:8 参照)。



## こども

### せかいを もっと うつくしくする

**ウ**ークトドルフかんちょうは、しんでんが たつと、地上での <sup>ちじょう</sup>かみの力がまし、せかいが もっと うつくしい ばしょに なる と言いました。下の絵に <sup>いろ</sup>色を ぬりましょう。しんでんの <sup>した</sup>下にある <sup>どがい</sup>土台の石には、しんでんが <sup>ひとびと</sup>人人に もたらしてくれる <sup>い</sup>すばらしい <sup>い</sup>しゅくふくが <sup>か</sup>書かれています。しんでんに <sup>い</sup>いつか <sup>い</sup>行くために <sup>せいかつ</sup>ふさわしく <sup>ひと</sup>生活するとき、これらの <sup>ひと</sup>しゅくふくの <sup>ひと</sup>一つ一つが <sup>い</sup>あなたのものになるのです!



あいの ある うつくしい ばしょ

生きている間に <sup>あいた</sup>バプテスマを <sup>ひと</sup>うけなかった <sup>ひと</sup>人のための <sup>い</sup>バプテスマ

えいえんに つづく <sup>い</sup>けっこん

りょうしんと <sup>こ</sup>子どもの <sup>い</sup>えいえんの <sup>い</sup>むすびかため

天のおん父と <sup>ちち</sup>イエス・キリストについて <sup>まな</sup>学ぶばしょ

ふさわしい、じゅうじゅんな <sup>せいかつ</sup>生活





信仰・家族・救助

## 神殿の礼拝に ふさわしくなるといふ、 わたしたちの責任

この資料を学び、必要に応じて訪問先の姉妹と話し合ってください。質問を使うことによって、訪問先の姉妹を強め、あなた自身の生活の中で扶助協会を生かすようにしてください。

**「神** 殿で儀式を受ける際に交わす聖約は、神の御前に行く資格を証明するものとなります。そのような聖約によって、わたしたちは自分の限られた力や物の見方を超えて高められます。わたしたちは王国を築くために献身すると聖約します。神と聖約を交わすとき、聖約の民となります。聖約に忠実であるなら、約束されたすべての祝福はわたしたちのものとなります。……

教会の女性は、神殿の祝福を受けるために何ができるでしょうか。

まだ神殿の祝福を受けていない人に対しては、それを受けるふさわしさを身に付けるために必要なことは何でも行うようにと、すでにその祝福を受けた人に対しては、頻繁に戻って来てその喜びを再び味わい、主の永遠の計画に関する視野を広げ、理解を増すようにと、主は預言者を通じて招いておられます。

今手にしている神殿推薦状にふさわしくありましょう。家族を永遠に結び固めるために神殿に行きましょう。状況が許すかぎり頻繁に参入しましょう。亡くなった親族が昇栄に必要な儀式を受ける機会を得られるようにしましょう。神殿に定期的に参入することによって受けられる、霊的な強さと啓示を味わいましょう。忠実であり、神殿の聖約を交わし守ることによって、あがな贖いの全き祝福を受けましょう。」<sup>1</sup>

中央扶助協会会長会第一顧問 シルビア・H・オールレッド

### 何ができる でしょうか？

1. 担当の姉妹が神殿に備え、参入するのを助けるために、どのような手伝いができるでしょうか。
2. 神殿の祝福を受けるために犠牲を払った初期の姉妹たちから受け継いだものを、どのように行いで示すことができるでしょうか。
3. 神殿の祝福を受けるために何ができるでしょうか。

詳しくは  
[www.reliefsociety.lds.org](http://www.reliefsociety.lds.org) [英語] を  
ご覧ください。

### わたしたちの歴史から

ゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910 - 2008 年）は、神殿で礼拝したいという姉妹たちの望みから扶助協会は生まれたと教えています。

「カートランド神殿を建設していたとき、女性たちは自分の磁器を砕いて細かい粒にするようにとの呼びかけを受けました。神殿の壁に使用するしっくいに粒を混ぜると、太陽や月の光を捕らえて反射し、建物の外観が美しくなるのです。

当時、金銭はほとんどなくても信仰は豊かにあった時代に、作業する人々は自分たちの力と技能を主の宮の建設にささげました。女性たちは作業する人々のために、自分たちに準備できる最高の食事を提供しました。エドワード・W・テューリッジの報告によれば、女性たちが神殿のとばりを縫っていたとき、ジョセフ・スミスは彼女たちを見て次のように述べました。『姉妹の皆さんはいつも備えができています。姉妹たちはどんなときも、すべての善い業において先駆けとなってきました。マリヤは復活の最初の証人となりました。そして今皆さんは、神殿の内装に取り組む最初の人となるのです。』……

ノーブーでも、神殿を建設していたとき、作業する人々のために数名の女性が協力してシャツを作りました。このような出来事を経て、1842年3月17日木曜日、預言者の店の階上の部屋に20名の女性が集まりました。」<sup>2</sup> ■

### 注

1. シルビア・H・オールレッド「聖なる神殿、神聖な聖約」『リアホナ』2008年11月号、113、114
2. ゴードン・B・ヒンクレー、「Ambitious to Do Good,」*Ensign*, 1992年3月号、2

聖文から——イザヤ 2:2 - 3;

教義と聖約 109:22 - 23; 110:8 - 10



# 小さな、簡単なこと

「小さな、簡単なことによって大いなることが成し遂げられるのである。」  
(アルマ 37:6)

## 語り継がれる偉大な生涯

### マリオン・G・ロムニー管長 (1897-1988年)

マリオン・G・ロムニー管長はメキシコの末日聖徒の町コロニアアファレスで生まれ、15歳ごろまでその地に住みました。しかし、1910年に始まった政治革命のため、ロムニー一家やそのほかの人々はすべてを後に残して合衆国への逃亡を余儀なくされました。「暮らしていくのが大変でした」とロムニー管長は回想します。「がむしゃらに働いて自活していかなければなりませんでした。」<sup>1</sup>

そのような困難な時代、アイダホ州オークレーに住んでいたころ、マリオンの父親とおじは共同で家計を切り盛りしていました。ある月のこと、2家族17人に必要なものを賄うのに80ドルちょうどしかありませんでした。今すぐ什分の一<sup>じゅうぶん</sup>を納めなくても、主は理解してくださるのではないのでしょうか。この問いへの答えとして、ある冬の寒い日、彼らは若いマリオンをビショップのもとに遣わし、什分の一を届けさせました。それ以降、什分の一を納めることがそれほど難しかったことは一度もなかったと、マリオンは述べています。

マリオン・G・ロムニーは、貧しさも熱心に努力することも経験して知っていました。1918年に高校を卒業し、リックスカレッジに2年間通った後、マリオンはオーストラリアで伝道しました。伝

14ページの福音クラシックでは、  
ロムニー管長の「一致」が紹介されています。



道後、1924年にアイダ・ジェンセン姉妹とソルトレーク神殿で結婚しました。働きながらプリガム・ヤング大学に通い、その後、弁護士として開業するため、1929年に司法試験に合格しました。

大恐慌のどん底にあった時期にソルトレーク・シティーでビショップを務めたマリオンは、教会の福祉制度の構築に深くかかわるようになりました。後に、十二使徒定員会補助として、そしてその後に使徒として、引き続きそのプログラムの改良と監督を手伝いました。

1972年から1985年まで、ロムニー管長はハロルド・B・リー大管長とスペンサー・W・キンボール大管長の顧問として大管長会で働きました。90歳で亡くなったとき、ロムニー管長は十二使徒定員会会長を務めていました。■

#### 注

1. マリオン・G・ロムニー、1974年10月18日にソルトレーク宗教インスティテュートで行った説教

#### 実りあるミューチャル活動 のためのアイデア

- 活動の内容にかかわらず、必ず開会の祈りをします。
- 指導に当たる青少年が活動を計画し実行するのを助けます。
- 出席者全員が参加できているように気を配ります。
- ミューチャルの活動が福音の原則に関連したものとなるように努めます。
- 活動後は、片付けを手伝うように全員に呼びかけます。





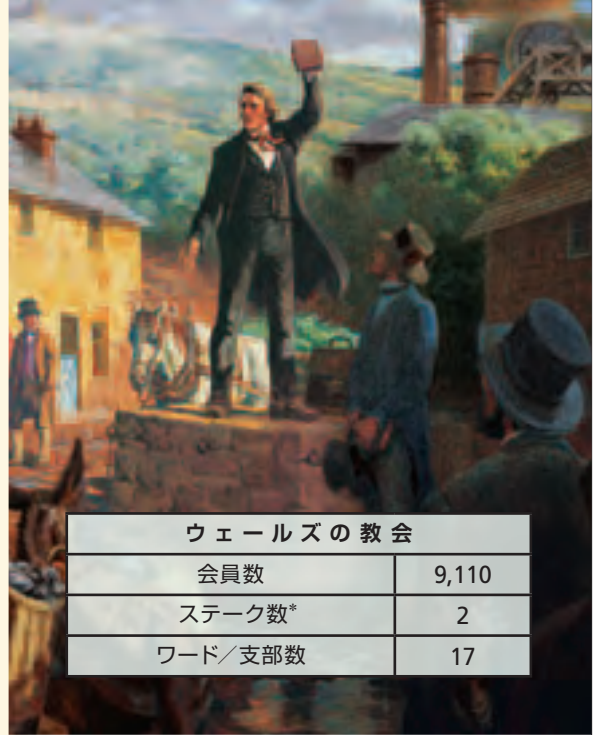
## ウェールズ

ウェールズに宣教師が初めて到着したのは1840年のことで、4か月後に北ウェールズでは150人が集う集會が行われるようになりました。南ウェールズでは、当初宣教師は教える人を見つけるのに苦勞していましたが、15年後にはウェールズの改宗者の8割をウェールズ南部の人が占めるようになりました。

1845年1月、合衆国で教会に入ったウェールズ人のダン・ジョーンズ兄弟が、宣教師としてウェールズに戻りました。ダンは教会の機関誌や印刷物の出版を開始し、教会を強めるのを助けました。1846年、ウェールズ語の賛美歌集が英語以外で最初の末日聖徒の賛美歌集として出版されました。1849年にはウェールズで最初の末日聖徒の集會所が建てられました。当時、ウェールズには3,600人を少し超える改宗者がいました。

初期のウェールズの改宗者は多くがユタに移民しました。その中には、モルモンタバナクル合唱団の前身となった聖歌隊を設立したジョン・バリーもいました。1975年、ウェールズで最初のステーキであるマーサーティドビルステーキが誕生しました。

\*イングランド・チェスターステーキにもウェールズの5つのワード/支部が含まれています。



ウェールズの教会	
会員数	9,110
ステーキ数*	2
ワード/支部数	17

### 喜びを得る鍵

「喜びを得る真の鍵は奉仕することにあります。人類の進歩のために、金銭や代償もなしに、この世的な報酬を期待することなく働くときに、まことの純粋な喜びが心にわいてきます。」

ヒーバー・J・グラント大管長  
(1856 - 1945年)  
『歴代大管長の教え——ヒーバー・J・グラント』(2002年) 86 - 87

## 祝福は従順の後にもたらされる

2か月間教会について学んだ後、宣教師から什分の一の律法について教わり、教会に入ったから什分の一を納めるように勧められました。わたしの限られた収入では不可能に思えましたが、自分の気持ちを伝える前にレッスンが終わってしまいました。

その日曜日、教会で支部会長が出迎えてくれました。什分の一について尋ねると、集会后に個人的に会う約束をしてくれました。

支部会長と会ったとき、わたしは説明しました。「会員になったら収入の10分の1を教会に納める必要があると宣教師から言われました。わたしにはできるかどうか分かりません。」

わたしの不安に耳を傾けた後、支部会長はモルモン書を開き、第3ニーファイ第24章10節を読みました。「『什分の一をすべてわたしの倉に携えて来なさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、受け入れる余地がないほどの祝福を、あなたがたに注ぐかどうかを見なさい』と、万群の主は言う。」その後、こう言いました。「コー兄弟、主が『これをもってわたしを試み……なさい』と言っておられる箇所に注目してください。主はあなたを招いておられるのです。来月真っ先に什分の一を納めて主を試み、主が祝福してくださるかどうかを確かめてみましょうか。」

その後間もなくわたしは什分の一を試し始め、教会に入りました。それ以来、金銭管理について新たな考え方をするようになりました。何よりも、神が祝福を注いでくださっていて、受け入れる余地がないほどであることを自ら学んできました。神の祝福を期待する前に、まず神の戒めを守らなければならないということ学んだのです。

コー テクワン  
葛 徳光 (台湾)



# 優れた説教 をする

マーカス・シェリダン

**教**会に来て、ただ座って話を聞いているだけでは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として不十分です。救い主は靈的に成長する機会をわたしたち全員に与えるため御自身の教会を組織されました。教会で話をする機会がその一つです。靈的に満たされ、精神を活気づける経験とすることができます。

話を最大限に生かすため、効果的な話者は、熱意を込め、物語や自身の経験を紹介し、引用や聖文を活用し、聖靈の力を通して話します。

## 熱意を込める

わたしたちが福音に対して熱心になればなるほど、人々はその熱意を感じ、同じ気持ちになりたいと思うようになります。一方、話の中で、特に出だしの部分で、言い訳や消極的な言葉ばかりが口をついて出ると、

それは自身の信用を落とし、メッセージの価値を下げ、御霊の怒りを買うこととなります。自信にあふれる話者は、自分のメッセージ、つまり主のメッセージを、胸を躍らせながら熱心に話すことによって、ほかの人々に祝福をもたらします。

## 物語や自身の経験を紹介する

力強い物語や自身の経験を分かち合うことによって、聞く人の心に強い印象を残すことができます。人は物語を聞くのが大好きなので、わたしたちが物語を話すときに、聞き手は頭を起し、注意を集中させます。

だれにも忘れられない経験があります。物語を興味深くするには、独創性とエネルギーが必要です。自身の体験から適切な例が見つからなければ、いつでも教会機関誌の中から物語を紹介することができます。

自身の経験を紹介するとき、効果的な話者は——

- 原稿を読むのではなく、会衆と目を合わせて話せるように、物語を話す練習を事前によくしておく。
- 物語を簡潔で、興味深いものにする。
- 声の調子を変えて、感情を伝える。
- 適切であれば、詳しく説明する。
- 時にはユーモアを交えるが、すべての話に冗談が必要ではないことを理解する。
- 一つ一つの物語の最後で要点を明確にする。

## 引用や聖文の活用

主と主の僕たちの言葉は、教え、鼓舞し、導き、動機づけを与えるものとなります。話の中で彼らの言葉に息吹を与えることができれば、前向き



話を聞き手に伝わりやすくするために、熱意を表し、聞き手の目を見て、ほほえみを浮かべましょう。



で、強い影響を人々に及ぼすことができます。

聖文や引用文を読むとき、優れた話者は――

- 聞き手がその大切さを理解できるように、聖文や引用文の背景と歴史を紹介する。
- ごくわずかの聖文や引用に集中する。
- 大切な部分を強調する。

### 聖なる御霊の力を通して話す

思いを伝えるときに最も大切なことは聖霊の力を通して話すことです。ニーファイはこのように説明しています。「人が聖霊の力によって語るときには、聖霊の力がそれを人の子らの心に伝える。」(2 ニーファイ 33 : 1)

断食し、祈り、話を念入りに準備するとき、聖霊の力を受けることができます。正しく準備を整えていれば、恐れる必要はありません(教義と聖約 38 : 30 参照)。

聖霊を伴<sup>はんりよ</sup>とし、熱意を持ち、筋のある話をし、聖文と引用文を読むことにより、そしてそれから、話した真理に対する自分の証<sup>あかし</sup>をつけ加えることによって、聞き手の気持ちを高め、奮い立たせることができますでしょう。■



### モンソン大管長の模範

**ト**ーマス・S・モンソン大管長の話は力強く、聞く人の心を揺さぶります。話し方や最近の総大会の説教を分析してみると、大管長が優れた話者の能力を備えていることがわかります。<sup>1</sup>

モンソン大管長は教会員に話すことは特権であることをしばしば強調し、話す機会に感謝していると語ります。さらに、説教の冒頭部分で必ず、熱意を込めてその感謝を表します。

冒頭の言葉に続いて、モンソン大管長は聖文を引用して、話の方向性を明確にし、テーマを紹介します。さらに中央幹部やそのほかの人々の言葉を引用して、テーマをいっそう浮き彫りにします。

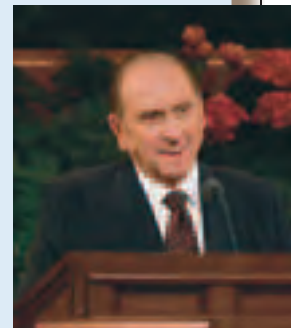
モンソン大管長はその生涯から個人的な経験を紹介することでよく知られています。そうすることで聴衆が関心を持ち、各自の経験に結びつけることを知っています。また、人生で何を学んだかを紹介することが人々に教える最も優れた方法であることを知っています。

物語を話すとき、モンソン大管長は詳しく説明することによって人々の関心を引きつけます。しばしばメッセージを強調するために詩を引用することもあります。

最後に、モンソン大管長は証を述べることの大切さを理解していて、頻繁に力強く証します。

#### 注

1. 例として、トーマス・S・モンソン「最高の自分になる」『リアホナ』2009年5月号、67；「元気を出しなさい」『リアホナ』2009年5月号、89；「勇気を持てるように」『リアホナ』2009年5月号、123 参照



# 神殿

に入るふさわしさを保つ

**神**殿は文字どおり主の宮です。わたしたちは神殿において、天の栄光の最高の階級で神とともに住むために必要とされる神聖な聖約、すなわち約束を神と交わします(教義と聖約 131:1-4 参照)。神殿の聖約はイエス・キリストを通して得ることのできる大いなる祝福へと導いてくれます。

神殿に入るために完全さを求められているわけではありません。むしろ、神殿で学ぶこと、神殿で交わす聖約はわたしたちが完全になるよう助けてくれます。けれども、神殿に入るにはふさわしくなければなりません。

神殿推薦状は、ビショップリックの一員または支部会長による面接、そしてステーク会長会または伝道部会長会の一員による面接を経て、わたしたちがふさわしいと認められたことを表します。神殿推薦状の面接は、わたしたちが自分のふさわしさを確かめる機会です。

それぞれの面接において、神権指導者は個人の行動と信仰について尋ねます。神権指導者はこれらの面接の内容を他人に漏らすことはありません。

神殿に入るにふさわしいことが神権指導者によって認められたら、神殿推薦状を受けます。わたしたちが推薦状に署名するのは、神殿に入る自分のふさわしさを確認するためです。神権指導者も、わたしたちのふさわしさについてのさらなる証人として推薦状に署名します。本人がふさわしければ、この推薦状によってそれから2年間神殿に入ることを許されます。■

『福音の原則』(2009年) 222 - 223;  
『真理を守る』(2004年)「神殿」112  
- 116 参照。

大管長会は神殿推薦状の面接での質問事項を定めています。全員が同じ質問を受けます。



主は神殿に入るためのふさわしさを標準を定められました。詩篇の作者はそれを次のように述べています。

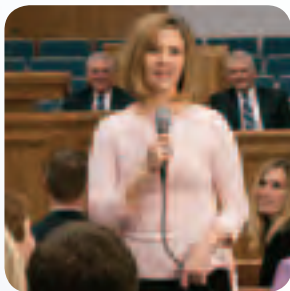
「主の山に登るべき者はだれか。その聖所に立つべき者はだれか。

手が清く、心のいさぎよい者……こそ、その人である。」  
(詩篇 24:3-4)



神権指導者は以下を含む事項について  
あなたに尋ねます。

1. 天の御父、イエス・キリスト、  
および聖霊<sup>あかし</sup>に対する証。



2. 教会の大管長を支持してい  
るか。



3. 純潔の律法を守り、<sup>じゅうけつ</sup> 什分の一を  
納め、他人に対して正直であり、知  
恵の言葉を守っているか。



4. 教会に出席し、交わした聖約を  
守り、福音の戒めに添った生活を  
するために努力しているか。



12歳になると、死者のためのバプテスマを行うため神殿に入  
ることができます。(若い男性は神権者でなければなりません。)  
推薦状を受けるには、ビショップまたは支部会長との面接の予定  
を組みます。

## 青少年

### あなたの神殿推薦状

**青**少年のための推薦状は限定推薦状と呼ばれてお  
り、グループ用と個人用の2種類があります。  
ワードまたは支部として神殿に入る場合はグループ推薦  
状にあなたの氏名が書き加えられます。この推薦状は  
1回限り有効です。もし神殿の近くに住んでいて、死者  
のためのバプテスマに定期的に参加できるのであれば、  
ビショップまたは支部会長に頼んで個人用の推薦状を  
交付してもらうことができます。あなたがふさわしくあ  
り続ければ、この推薦状は1年間有効です。

# 一致

大管長会第一顧問  
マリオン・G・  
ロムニー管長  
(1897 - 1988年)



マリオン・G・ロムニー管長は1951年10月11日に使徒に聖任され、1972年から1985年まで大管長会の顧問として働きました。そして、1985年11月10日に十二使徒定員会会長となり、1988年5月20日に

90歳で死去しました。この説教は1983年4月の総大会で行われたものです。

.....

**イ** エス・キリストの福音において中心となるテーマの一つは一致です。聖文は教会員の間で平等と一致が広く行き渡らなければならないと説いています。

皆さんも記憶しているように、最後の晩餐ばんさんの夜、救い主は使徒たちと会い、主が御父と一つであるように、彼らも主と一つになるように祈られました。そのとき主は使徒たちのためだけでなく、「彼らの言葉を聞いて〔主〕を信じている人々のためにも」祈られました。

「それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります。」(ヨハネ17:20 - 21)

キリストの教会の会員は常に、一致、一つとなること、そして平等を目指してきました。その一例として、エノクの記録に注目していただきたいと思います。そこには、世が争いのただ中にあるときに、エノクとその民がどのようにして一致に到達したかが記されています。

「そして、神に逆らって戦ったすべての民にのろいが下った。

そのときから、彼らの中に戦争と流血があった。しかし、主は来て、主の民とともに住まわれた。そして、彼らは義のうちに住んだ。

主への畏おそれがすべての民族にあった。それほど主の民のうえにある主の栄光は大いなるものであった。主はその地を祝福され〔た。〕.....

主はその民をシオンと呼ばれた。」なぜでしょうか。「彼らが心を一つにし、思いを一つにし、義のうちに住んだからである。そして、彼らの中に貧しい者はいなかった。」(モーセ7:15 - 18。強調付加)

イエスは地上での務めの間、弟子たちに同じ教義を教えられました。イエスが昇天された後、「一同は聖霊に満たされて、大胆に神のことばを語り出した。

信じた者の群れは、心を一つにし思いを一つにして、だれひとりその持ち物を自分のものだと主張する者がなく、いっさいの物を共有にしていた。」(使徒4:31 - 32)

救い主が復活後にニーファイの民を訪れたとき、彼らは「ニーファイ人もレーマン人も





ともに皆、地の全面で主に帰依した。そして、彼らの中にはまったく争いがなく、論争もなく、皆、互いに公正に振る舞った。

また、彼らはすべてのものを共有したので、物持ちも貧しい者も、束縛された者も自由な者もなく、皆自由となり、天の賜物にあずかる者となった。」(4 ニーフай 1:2-3。強調付加)

今日、わたしたちはキリストの教会であって、主はわたしたちにこの同じ一致に到達するよう望んでおられます。主はわたしたちに対してこのように言われました。「一つとなりなさい。もしもあなたがたが一つでなければ、あなたがたはわたしのものではない。」(教義と聖約 38:27)

しかし中には福音の精神を十分に理解し、教会で親しく交わりながら、一方で、教会の指導者や、彼らを与えた勧告や指示に従わなく

**わたしたちが  
一致できる方法は  
一つしかありません。  
それは主と主の義を  
求めることです。  
一致は  
天からの光に  
従うことによって  
もたらされます。**

でもよいと考えている教会員がいます。そのような考えはまったく矛盾しています。なぜなら、この教会は記録された言葉だけでなく、絶え間ない啓示によっても導かれているからです。そして主は、御自身が選ばれた預言者を通して教会に啓示を与えておられるのです。したがって、福音を受け入れていると公言しながら、同時に預言者の勧告を批判し、拒む人は、言い逃れのできない立場に自分を追い込んでいるのです。このような精神は背教につながります。これは今に始まったわけではなく、イエスの時代にも、預言者ジョセフ・スミス の時代にもよく見られました。

救い主がニーフай人の間で務めを始めたときに彼らに教えられた偉大な教えを忘れてはなりません。主はこのように言われました。

「これまであったような論争が、今後は決してあなたがたの中にあってはならない。また、わたしの教義の要点について、これまでにあったような論争が、今後決してあなたがたの中にあってはならない。

まことに、まことに、あなたがたに言う。争いの心を持つ者はわたしにつく者ではなく、争いの父である悪魔につく者である。悪魔は互いに怒って争うように人々の心をおり立てる。」(3 ニーフай 11:28-29)

わたしたちが一致できる方法は一つしかありません。それは主と主の義を求めることです(3 ニーフай 13:33 参照)。一致は天からの光に従うことによってもたらされます。世の混乱からは生まれません。人々が主の導きを受けずに自らの知恵に頼り、自分勝手な道を歩んでいるときは、一つとなって生活することはできません。また靈感を受けていない者に従ってはいは、一致に到達することはできません。

一致するには、主の御心<sup>みこころ</sup>を学び、実行することが必要です。この基本的な原則が理解され、守られなければ、地上に一致と平和が訪れることはないでしょう。義に向かわせる教



会の力は、わたしたち教会員がこの原則を守る度合いに応じて、全地に及ぶのです。

今日世の中に起きている問題のおもな原因は、人々が主の御心を知ることを求めず、また御心を行うことを求めないことにあります。それどころか、人々は自分の知恵や自分の方法で問題に対処することを求めているのです。主は、戒めの書の序文として啓示された教義と聖約第1章の中で、このことを指摘し、地上の民に下る災いの一つの原因になると述べておられます。主はこの災いを予見しておられました。その厳しい御言葉に耳を傾けてみましょう。

「彼らはわたしの定めから離れ去り、わたしの永遠の聖約を破った。

彼らは主の義を打ち立てるために主を求めようとせず、すべての人が自分の道を……

**一致するには、  
主の御心<sup>みこころ</sup>を学び、  
実行することが  
必要です。……  
義に向かわせる  
教会の力は、  
わたしたち教会員が  
この原則を  
守る度合いに応じて、  
全地に及ぶのです。**

求めて歩む。」(教義と聖約1:15-16)

兄弟姉妹の皆さん、人の忠告や肉の腕に頼らず(教義と聖約1:19参照)、主の義を打ち立てるために主を求めてください(教義と聖約1:16参照)。

この教会の会員であるわたしたちが福音の原則をより正しく理解し、世の現状や傾向についての理解を共有しているならば、わたしたちは一つとなり、一致に到達して、過去に経験したことのない大きな力を得ることでしょう。これは生ける預言者を通して与えられる勧告を含め、主の言葉を祈りによって研究するときに実現します。

これが一致に到達する方法です。標準聖典と生ける預言者の指示を通して与えられる主の言葉を研究し、心をかたくなにせず、謙遜になり、自分の置かれている環境でそれらを活用する方法を理解したいという心からの望みを育ててください。それから、与えられると信じて、信仰をもって主に願い求めてください(教義と聖約18:18参照)。そして主の戒めを熱心に守り続けるならば、従うべき道が示されて、わたしたちは固く一致してこの世に立ち向かうことができるのです。

わたしたちが生きていくこの時代に、わたしたちはこの一致とこの力を確かに必要としています。わたしたちには、天に上げられ、これまで経験したことのない福音の精神を得るという素晴らしい機会が与えられています。この機会にあずかるには、日の栄えの王国の律法で求められている一致をわたしたちの中に築かなければなりません。……

わたしたちは主の業に従事しているので、もし互いに一致するならば、主が求めておられるすべてを成し遂げることができると確信しています。■

原文〔英語〕においては、句読点、大文字は標準用法に修正。



# 主は わたしの名前を 知っておられる

シェリー・クルル

2007年にわたしはワシントン大学から、女性スポーツ選手の栄誉をたたえる晩餐会ばんさんかいに出席してほしいという招待を受けました。44年前の在学中にわたしはテニスをしていました。仲間とダブルスを組んで全米北西大学選手権で優勝したことがあったのです。晩餐会ではそのときの成果で表彰されることになっていました。

晩餐会へ向かう途中で、主人とわたしはリンダも乗せて行きました。学生時代からの友達であり、わたしが33歳のときに末日聖徒イエス・キリスト教会を紹介してくれた人でもあります。わたしたちは一緒にかつて過ごしたキャンパスを見て回り、旧友との再会を楽しみました。

ところが、晩餐会の始まる前に案内の封筒と名札を受け取りに行ったわたしは、ひどくがっかりしました。袋にも名札にも、「シェリー・クルル」ではなく、「シャロン・クルル」と書いてあったからです。「仕方がないわ」と思ったわたしはシャロンに線を引いて消し、シェリーと書き直しました。しかし、そのミスは一晩中続いたのです。晩餐会の後半で、主催者側が受賞者の名

前を呼ぶときにも、わたしは「シャロン」と紹介され、受け取った盾にも同じ間違いがあったのです。

でも、それは大きな問題ではありませんでした。わたしは晩餐会に招待されたことに感謝していましたが、主催した人々も、正しい名前を刻んだ盾を改めて贈ると約束してくれたからです。

翌日は復活祭の日曜日でした。主人とわたしは、金曜日を神殿で過ごし、その週は多くの時間を費やして救い主の地上での最後の日々について深く考えていました。しかし、その年の復活祭で最も心を打たれたのは、聖餐会せいさんかいでビショップがこう言ったときのことです。「わたしは、主がわたしの名前を知っておられることに、心から感謝しています。」

わたしは大きな喜びに包まれていきました。前の晩、わたしは十分に楽しんでいましたが、ビショップの語った真実に対して感じた幸福感は、「人の誉れ」を受けるよりもはるかに大きなものだったのです。

わたしも主がわたしの名前を知っておられることに感謝しています。しかし、もっと大切なことは、わたしが33歳で主の名を知ることになったことを喜んでいる



主がわたしの名前を知っておられることに感謝しています。しかし、もっと大切なことは、わたしが主の名を知ることになったことを喜んでいるということです。

ということです。二人の宣教師がだれか訪問できそうな人を知りませんか？リンダに尋ねたとき、わたしの名前を出すことでわたしが気分を損ねるのではないかと恐れることのないリンダに、永遠に感謝しています。

わたしは救い主あかしを証するモルモン書を読むことで、救い主が確かにおられることを知ようになりました。そして、救い主を知ることによって救い主の教会に加わり、わたしは主にあって新しい人となりました。

わたしの人生はバプテスマと確認の儀式のときに変わりました。そして、感動を与えてくれたあの復活祭の朝、天の御父と救い主はほんとうにわたしたちの名前を知っておられるという証を得たとき、わたしの人生は再び変わったのです。天の御父と救い主を知ること、そして、御二人がわたしを知ってくださることを知ること、その喜びはどんなに言葉を尽くしても表せるものではないのです。■



チェリル・C・ラント

2005年4月から2010年4月まで  
中央初等協会会長として奉仕

# 聖文から 子供に教える

子供は福音の原則を理解する驚くほどの能力を持っています。



## 色分けした聖典の物語

ワードの初等協会の会長だったころ、わたしが聖典の物語の話をして、どの聖典にある話か分からない子供たちがいて心配したものです。例えば、ノアのことを描いた絵だということは分かって、そのノアの話が旧約聖書にあることを知らなかったのです。そこで、わたしは絵を色画用紙にはることにしました。モルモン書の物語には黄色を使い、ほかの聖典にはそれぞれ別の色を使ったのです。その時点から、子供たちは物語とその出典を簡単に識別できるようになりました。

リンダ・ジャーディン（アメリカ合衆国ユタ州）

**最**近、わたしはほかの宗教団体の人々と会う機会がありました。その人々は、わたしたちの教会の会員が進んで時間と才能を提供して人を助けようとするにととても感心していました。そして、子供たちにどう教えたらそのようなのか、方法を知りたがったのです。

わたしは、天の御父の計画では家族が中心であって、子供を教え訓練する第一の責任は親にあると説明しました。指導者や教師は、ただその親の努力を支えるだけなのです。

さらにこう説明しました。わたしたちが教える最終的な目標は、預言者ジョセフ・スミスの言葉を実践することにあります。教会をどう導いているのかと尋ねられたときにジョセフが言った言葉で、つまり「わたしは人々に正しい原則を教えて、自らを治めさせ[る]」<sup>1</sup>ということです。

「では、その原則というのはどんなことですか。どこかに書いてあるのですか。」彼はそう尋ねました。

「キリストの御言葉の中にあります。」わたしはそう答えました。

## キリストの言葉をよく味わう

ニーファイはわたしたちに「キリストの言葉をよく味わうように……言った。見よ、キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げるからである」と強く勧めています（2ニーファイ32：3）。

神の言葉は聖文の中にあります。もしわたしたちが子供を霊的に強めたいと望むなら、聖文から子供に教え、そうした神聖な言葉の数々から子供自身が養いを受けられるよう、助ける必要があります。

子供は福音の原則を理解する驚くほどの能力を持っています。幼いころから聖文に親しむ子供は、教わった原則に従おうという決意が心の中に生まれるのが普通です。そのために、子供には自分専用の聖典が必要になります。天の御父がどんなことを知ってほしいと思っておられるのか、どんなことを行ってほしいと思っておられるのか、子供も聖文から直接知る必要があります。







## 聖文の壁

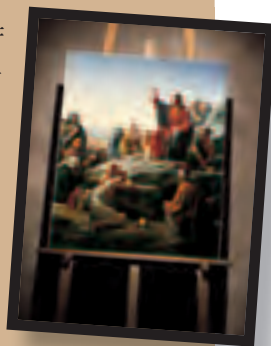
「あ、い、う、え、お」や「1、2、3」など、わたしの子供たちは、幼いころから学ぶことが好きでした。そのために、わたしはいつも、家庭で学校教育の手助けをしようと努力していました。ポスターをはったり、単語を書いてはったり、たくさん本を読み聞かせたり、あらゆる教育の機会を求めています。ところがある日、わたしは、福音を教えることに同じように注意を払ってはいなかったと気づいたのです。

我が家の壁は、学校教育のためにすでに十分活用されていたので、わたしは壁をもう少し活用してみようと考えました。子供たちが遊びに使っている部屋の壁が、子供たちの描いた絵や教会の承認した視覚教材といった福音の絵を飾るのに完璧な場所のように思えました。壁にはる前に色画用紙で裏打ちをして、それぞれの絵の下に、年齢に合った説明を簡潔に書きました。子供たちが呼ぶ、我が家の「聖文の壁」は、すぐに家の中でも大好きな所になりました。わたしはモルモン書の中から14の重要な物語を選び出し、年代順に並べました。おかげで、子供たちは質問するときも、どんな場面を描いた絵か話し合うときも、重要な出来事や教えを簡単に把握できるようになったのです。息子がある絵の出来事を遊び仲間に正確に説明している様子を偶然聞いたとき、この聖文の壁が良い影響を与えていることが分かりました。

親としてわたしたちは、多くの時間を費やして、学校で良い成績を修めるために必要な知識を子供に与えます。もっと重要で記憶しておくべきことは、子供が福音を学び、福音の中で成長できるように助けることです。

キャサリン・バリッシュ・スミス  
(アメリカ合衆国ユタ州)

このアイデアを実行に移すためには、教会機関誌から絵を切り取るか、[www.gospelart.lds.org](http://www.gospelart.lds.org) から印刷することができます。または、新しい『福音の視覚資料集』(カタログ番号 06048 300) を注文することも可能です。137 枚の絵が入っています。福音に関するほかの視覚教材も、地元教会の教会配送センターから入手するか、[www.ldsacatalog.com](http://www.ldsacatalog.com) からオンラインで入手することができます。アメリカ合衆国とカナダに在住の場合には、配送センターに電話することも可能です (1-800-537-5971)。



がたに勧めたい。もしキリストを信じながら、誠心誠意問うならば、神はこれが真実であることを、聖霊の力によってあなたがたに明らかにしてください。」

次に、先ほど述べた4つのステップを通して家族を教えます。

**教義を明確に教える。** 母親はこう尋ねます。「この聖句で天のお父様はわたしたちにどんなことをするように望んでいらっしゃるのかしら。そして、もしわたしたちが天父の望まれることを行ったら、どんな祝福が約束されているのかしら。」 家族は提示された質問について話し合い、天の御父はわたしたちに聖文を読むよう望んでおられる、そして、読んだことが真実かどうか誠心誠意で、信仰をもって祈り尋ねるよう求めておられる、といった結論に至ります。天の御父は、わたしたちの祈りにこたえたと約束しておられます。聖霊を通じて、それが真実であるとの証を下さるのです。

**教義を理解する。** 次に母親はジョセフ・スミスの話をします。ジョセフは聖書を読んで「願い求める」ことを決意し(ヤコブの手紙1:5)、どの教会に加入するべきかについて祈ります。ジョセフには、自分の祈りはこたえられるという信仰がありました。ジョセフが祈ると、天の御父と御子が御姿を現されたのです。そこで母親は家族にこう言います。「もちろん、天のお父様とイエス・キリストは祈る人すべてに御姿を現されるわけではないわ。」



でも、天のお父様は、真心からの祈りには御自身が最善と考える方法でおこたえになるのよ。」

**教義を応用する。**子供はこう尋ねます。「天のお父様はぼくの祈りにもこたえてくださるってことなの？」母親はこう答えます。「そうよ。モロナイ10章4節には、わたしたちは研究と祈りによってすべてのことの真理を知ると書かれてあるでしょう。」こうして家族は、モロナイの約束を実際に試してみるにはどうしたらよいかをはっきりと分かります。

**証を求める。**母親はここで証を述べ、この聖句がどうして真理であると知っているか、話をします。そして、モロナイが言っているように、真実かどうか知りたいという強い願いを抱いて福音の原則を研究するならば、御霊の証によって真理であるという心地よい確信が与えられると家族に断言してレッスンを閉じます。

### 主によって教えを受ける子供たち

子供に、聖文を愛し、聖文から学ぶよう教えるとき、わたしたちは子供の心と手の中に、生涯にわたって強さと導きのすばらしい源泉となるものを植え付けているのです。そして、やがて第3ニーファイ第22章13節に書かれている次の約束が成就するのを見るに違いありません。「あなたの子孫は皆、主によって教えを受け、あなたの子孫の平安は深い。」■

注

1.『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』284

### 就学前の子供たちと毎日聖文について考える

幼い子供を持つ母親として、子供が何を学ぶ必要があるのか知りたいと願い、毎日祈るようになりました。その結果、教えるべき最も大切なことは、基本的な福音の真理と、努力を惜しまないことだという答えを頻繁に受けました。毎朝、主人とわたしはまだ幼い子供たちと霊的な話をし、証を伝え合っています。毎週日曜日30分ほどで、その週にふさわしい教材を準備することができました。福音の視覚教材、初等協会の歌、『旧約聖書物語』、教会機関誌に載っているアイデアなどが特に役立ちます。

- **福音の視覚資料。**絵を使って教えると非常に効果があります。そこで、わたしは [gospelart.ids.org](http://gospelart.ids.org) から必要な絵を印刷することで、とても助かっています。このようにすると、子供たちに絵を渡すことができます。目に映るものについて話し合いながら、子供たちは眺めたり触れたりすることができます。
- **初等協会の歌。**時には新しい初等協会の歌と一緒に練習するようにしています。特に体の動きを伴うような歌は効果的です。
- **『旧約聖書物語』。**我が家では1日に1ページだけ読みます。読む前に、通常は視覚教材を使ったり、具体的なものを使ってレッスンしたりして、以前話し合った物語を思い出させます。例えばあるときには、水に食紅を加えて、聖典の中で主が水を赤く変えられたときのことを覚えているか子供たちに質問しました。
- **教会機関誌。**時には、福音に関連した活動を通してメッセージを伝えることもあります。例えば、あるとき、お年寄りに敬意を表している子供たちの絵を数枚印刷したことがあります。一緒に「おじいちゃんやおばあちゃん」を大切に、よくお手伝いをするのが重要だと話し合いました。当時1歳になる子にその絵にちょっと落書きをさせ、もう一人の就学前の子供にはその絵に隠されたものを探させました。

霊的な話をするにはほんのわずかな時間しかかかりませんが、その影響力ははるかに長く続きます。就学前の子供は、時々教会機関誌を持って来ては、これまで学んだ物語や福音の原則を要約してみせて、わたしを驚かせたものです。子供たちは大きくなりましたが、朝食のときに霊的な話の時間を持つことは続けています。どんなに忙しくても、朝食を食べ終わるまでに、よく短いメッセージを伝えるようにしています。

教会が質の高い教材を数多く用意してくれていることに感謝しています。おかげで、子供たちがいつも御霊に近くあるよう助けることができます。毎週準備をするとき、子供たちを教えるためにもたらされる個人的な啓示を受けています。子供たちが天の御父に近づく最も良い方法を尋ね求めるとき、わたしたちも天の御父に近づくことができるのです。

アレハンドラ・アダムズ (アメリカ合衆国ユタ州)





# 違いがあっても一致する

教会機関誌

アダム・C・オルソン

永遠に  
一緒にいるためには  
今から  
一致する必要があります  
あります。

**デ**イアナ・バスケスは父親に最期の別れを言えませんでした。それが最期になるとは知らなかったからです。2007年6月9日、デイアナが二人の弟と登校するときは元気そうだったのに、彼女が学校にいる間に、ひと休みしようと横になった父親は、そのまま二度と目を覚ますことはありませんでした。

「ほんとうに突然でした」と、当時16歳だったデイアナは言います。「最初は父の死が受け入れられませんでした。」

家族は永遠に一緒だと知っている人々でさえ、時には家族のありがたさを忘れることがあります。もちろん、きょうだいが気に障ることもあれば、親子の意見が一致しないことも、友達と一緒にいる方が楽しく思えることもあります。

しかし、デイアナの家族のように何の前触れもなく悲劇に見舞われるとき、家族のような最も大切なものが重要になります。


デイアナの家族にとって幸いだったのは、そのときすでに、家族が今も永遠にわたっても一つになれるように努力していたことです。つらい経験で家族がばらばらになりそうなときにも、皆で力を合わせられたことで、この世では平安と幸福を得ることができ、そして次の世でも家族がともにいられるという希望が持てました。

## 一致とは何でしょうか

デイアナと家族はペルーのアンデス山脈の高地にある町、古代インカ帝国の首都クスコに住んでいます。

父親が亡くなる数年前、デイアナの家族は家





ディアナ・バスケスは  
父親を亡くした後、ペルーにある  
500年前に築かれたインカの要塞  
サクサイワマンの石の城壁から  
一致について  
大切なことを学びました。

から程近い所にあるサクサイワマンというインカの要塞の遺跡の中に、ピクニックに格好な場所を見つけました。インカ人が築いた城壁は強固で、500年以上の歳月と無数の地震に耐えてきました。

ディアナにとって、家族はその城壁のようなものです。困難によって揺さぶられても、崩れ落ちることはありません。

サクサイワマン遺跡の城壁は、大きさも形も異なる石で築かれています。背の高い石や低い石、四角い石や驚くほど巨大な石もあります。しかし、一つ一つの石が異なっているからといって城壁がもろくなることはありません。むしろ、異なる大きさの石を適切に組み合わせることによって、構造が堅固になります。実際、それぞれの石の違いが共通の目的を達成する



### 一致をはぐくむ

「一致の賜物はイエス・キリストの福音の律法と儀式に従うことによってもたらされます。主の御名を受け、いつも主を覚え、すべての戒めに従うという聖約を守るとき、主の御霊を伴侶として受けるのです。それによって心は和らぎ、わたしたちは一つとなります。」

大管長会第一顧問 ヘンリー・B・アイリング管長  
「わたしたちが一つになれるように」  
『聖徒の道』1998年7月号, 72

のに役立っているのです。

同じことがわたしたちの違いいにも言えます。

「わたしたちは皆、それぞれ違った賜物と才能を持っています」とディアナは言います。「人を助けるためにそれを使うべきです。」(1コリント12章参照)

ディアナの父親が亡くなってから、彼女と母親と二人の弟はそれぞれの才能と能力に合った異なる役割

を果たしましたが、互いに助け合うという共通の目的の下に働きました。そうするとき、「互いに和合し、愛し合って結ばれた心を持つ[つ]」ことができました(モーサヤ18:21)。

大管長会第一顧問のヘンリー・B・アイリング管長はこう説明しています。「天の御父はわたしたちが心をつつにするように望んでおられます。この愛における一致は、単なる理想ではありません。必要不可欠なものなのです。」<sup>1</sup>

### どうしたら一致することができるでしょうか

インカの人々はその最高の石組みを築くのにモルタルを使いませんでした。注意深く組み合わせられた石には一枚の紙が通る透き間もありません。このように並外れて緻密な仕事が達成できたのは、優れた石工たちが一つ一つの石の納まるべき場所と、全体の計画に合うように石の形をどのように整えるべきかを見抜くことができたからです。

偉大な設計士であり、建築士である主に自身をゆだね、その御手によって形作っていただくなら、わたしたちは互いに一つになれるだけでなく、主とも一つとなることができます。<sup>2</sup> アイリング管長は、一致の賜物は福音の儀式と聖約に対して従うときにもたらされると教えています。<sup>3</sup>

福音の儀式を受け、聖約を守ることによ

て、ディアナの家族には劇的な変化がもたらされました。教会に入ったのはディアナと弟のエマニュエルが最初でした。その前は、家族に口論が絶えなかったとディアナは言います。自分たち子供のことを思えばこそと知ってはいましたが、両親は厳しかったのです。

「わたしたちは父に対して愛よりも恐怖を感じていました」と彼女は言います。

ディアナがバプテスマを受けてから数か月後、父親と兄のリカルドが教会に入り、それから1年と少しして母親がバプテスマを受けました。

「父は変わりました」とディアナは父親の改宗について言います。「わたしたちが間違ったことをすると、父はそのことについて言っ聞かせるようになりました。口論は少なくなり、家庭にはもっと調和が生まれました。」

イエス・キリストに従うという聖約を結ぶことで主に近づくことができ、お互いに親密になれたのです。彼らには永遠の家族になるという共通の目標がありました。ディアナの母親がバプテスマを受けてから1年後、家族は神殿で結び固めを受けました。

「ほんとうにすばらしい経験でした」とディアナは言います。「きょうだいと一緒に結び固めの部屋に入って両親の姿を見たときの気持ち



右——  
ディアナ、母のドゥッパリー、  
兄のリカルドと  
弟のエマニュエル(上)の  
結びつきは、  
助け合って  
戒めを守ることによって  
強まりました。



は言葉では言い表せません。その場を離れたくありませんでした。』

その後、家族は永遠の家族になれるように、よりいっそう戒めを守りたいと思うようになりました。亡くなる数日前、ディアナの父親は家庭の夕べのレッスンで、永遠と一緒にいられるように一致して聖約を守るように教えました。「明日も生きられるという保証はだれにもない」と彼は言いました。「備えておく必要があるよ。そうしたら、家族のだれかが死んだとしても一緒にいることができるのだから。」

### 聖約を守れば心が変わる

ディアナは福音の聖約を守るようにともに努力することによって家族が一致できることを学びましたが、それが遅すぎなかったことを感謝しています。

ディアナの父親が亡くなった日、学校へ出かけようとしていた彼女に父親が言った最後の言葉は“*Te quiero mucho, Dianita*”（「とっても愛しているよ、かわいいディアナ」）でした。

聖約を守り続ければ家族は再び結ばれるという主の約束をディアナは信じています。

「わたしは、救い主に従うことで家族が親しく結ばれるという天の御父の業をこの目で見てきました」と彼女は言います。「ですから、主は、戒めを守れば永遠に結ばれるという約束も守ってくださいと信じています。

主の計画のおかげで、わたしたちが真の永遠の家族になれると知っています。

天の御父が約束された永遠の栄光を実現できることを知っています。最後まで堪え忍び、神にかかわる事柄に真心を尽くして、互いに助け合うことによってのみ、永遠の家族になるという目標を達成できるのです。」■

### 注

1. ヘンリー・B・アイリング「一つとなりなさい」『リアホナ』2008年9月号, 2
2. トーマス・S・モンソン「天の家——永遠の家族」『リアホナ』2006年6月号, 66 参照
3. ヘンリー・B・アイリング「わたしたちが一つとなれるように」『聖徒の道』1998年7月号, 70 参照

## 一致の模範

**周** 囲の人が皆それぞれ異なる個性を持っているとき、一致するのは必ずしも簡単ではありません。しかし、一つになることは戒めです。

ディアナ・バスケスと、ペルー・クスコ・インティライミステークの別のワードのヨナサン・ヘレラ・バラは、友人や家族、同級生あるいは定員会の会員同士など、あらゆる人間関係において一致を生み出す規範となる大切な原則について話し合いました。

二人が同じ水平線上の両端にいると想像してみてください。二人間の距離は二人が一致していないことを表します。二人が一つになるためには、片方または両者が相手に向かって近づかなければなりません。しかし、一致が必要だと分かっているとしても、多くのことがそれを妨げる可能性があります。両者とも自分が正しいと感じているかもしれませんが、プライドや怒りがじゃまするかもしれません。誤解は多くの場合、あつれきを生みます。

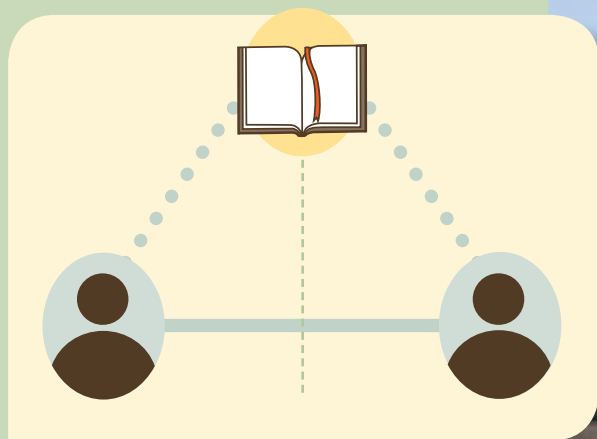
この水平線上で相手との距離を縮めるには譲歩が必要なことがよくありますが、それがさらなる対立を生み出すこともあります。どこが中間地点か合意できなければ、中間地点まで歩み寄ることは困難です。

それでは二人の上に第三者がいて、三角形を形成していると想像してみてください。この人物は救い主を表しています。

わたしたちが主に近づけば近づくほど、互いの距離も縮まることに気づくはずですが。

「イエス・キリストが中間地点なのです」とディアナは言います。「皆が主のもとに近づけば、皆の距離も縮まります。」

ヨナサンは言います。ふさわしい状態で「<sup>せいさん</sup>聖餐を受けて聖約を新たにし、奉仕し、神殿に参入して、世のものを顧みなければ、それが実現できます。清くなければ主とともにいることはできないし、<sup>みたま</sup>御霊も離れてしまいます。」







十二使徒定員会会長  
ボイド・K・パッカー会長



# リーハイの夢に 自分の姿を見いだす

リーハイの夢には、末日聖徒が人生の試しを理解するために  
必要なことがすべて含まれています。

**教**会には大学生の年代の若い人々が何人いるか教会の記録部に尋ねると、「197万4,001人」という回答でした。わたしはこう思いました。「そうですか。では、その1人に話しましょう。」

わたしが大学生活を始めたのは、第二次世界大戦の直後でした。わたしたちの年代の男性の大半は軍隊を退役したばかりでした。たいいてい人は、今の大学生より成熟していました。戦争をくぐり抜け、いろいろな出来事が記憶に残っていました。いつまでも覚えていたいこともあれば、早く忘れたいこともありました。<sup>こんにち</sup>今日の大学生よりまじめで、遊びやゲームに興じることはあまりありませんでした。くじけずに人生を歩みたいと思ひ、そのためには教育が重要なことを知っていました。

軍隊生活の中心はもっぱら破壊することでした。戦争とはそういうものです。わたしたちは愛国心という気高い徳に鼓舞されていました。自分が精神的にも道徳的にも滅ぼされないようにしながら破壊に献身することが人生の試しでした。

皆さんも戦争の時代に生きています。決して終わりのない霊的な次元の戦争です。今や人類は戦いの渦に巻き込まれています。戦いにまみれた世は清さを失ってしまいました。どんなに粗野で価値のないものであっても、映画や演劇、音楽や会話に受け入れられないものは何もありません。この世は混乱の極みのように思われます(2ペテロ2章参照)。

格式や品位、尊厳、権威に対する敬意が侮られています。服装や身なりは慎みや清潔感がなおざりにされ、だらしなく、汚らしいものになっています。今は正直や誠実、基本的な道徳の規律が無視されています。会話の中で下品な言葉がよく使われています。芸術や文学、演劇や娯楽にもその傾向が見られ、洗練されたものに代わり、粗悪なものがあふれています(1テモテ4:1-3; 2テモテ3:1-9参照)。

皆さんはほとんど毎日、世の傾向に従うかどうか決断を迫られています。また、前途には多くの試しが待ち構えています。



### 鉄の棒につかまる

ニーファイ第一書第8章には、リーハイの夢について書かれています。リーハイは家族にこう述べました。「見よ、わたしは夢を見た。別の言葉で言えば、示現を見た。」(1ニーファイ8:2)

リーハイの夢すなわち示現は、皆さんにとって何ら特別な意味はないと思われるかもしれませんが、そうではありません。その示現は皆さんに、そしてすべての人に当てはまるのです。

ニーファイはこう述べています。「すべての聖文を自分たちに当てはめて、それが自分たちの利益となり、知識となるようにする……。」(1ニーファイ19:23)

鉄の棒についてのリーハイの夢、すなわち示現には、末日聖徒が人生の試しを理解するために必要なことがすべて含まれています。

リーハイは次のものを見ました。

- 大きく広々とした建物 (1ニーファイ11:35 - 36; 12:18 参照)

鉄の棒につかまっているなら、  
聖霊の賜物によって、  
人生の道を手探りで  
前進することができます。  
鉄の棒につかまり、  
離さないように  
してください。



- 流れのそばを通る道 (1ニーファイ8:20 - 22 参照)
- 暗黒の霧 (1ニーファイ12:17 参照)
- 暗黒の霧の中を導く鉄の棒 (1ニーファイ11:24 - 25 参照)
- 命の木「その実は人を幸せにする好ましいものであった」(1ニーファイ8:10。1ニーファイ11:8 - 9, 21 - 24も参照)。

この夢、すなわち示現を注意深く読み、その後にもう一度読み直してください。

皆さんが鉄の棒につかまっているなら、教会員として確認されたときに授けられた聖霊の賜物によって、手探りで前に進むことができます。聖霊は皆さんを慰めてくださいます。皆さんはニーファイが感じたように、天使の導きを感じることができます。そして、人生の道を手探りで進むことができます。

モルモン書はわたしの鉄の

棒となってきました。

リーハイは、命の木に向かって「押し進んでいた」無数の人々を見ました(1ニーファイ8:21)。

大きく広々とした建物は、「老若男女を問わず人々でいっぱいであった。この人々の衣服の装いは、非常に華やかであった。そして彼らは、その木の所までやって来てその実を食べている人々を指さし、あざけり笑っている様子であった。」(1ニーファイ8:27)

この夢すなわち示現に出てくる一つの言葉が、若い末日聖徒たちにとって特別な意味を持つはずです。その言葉は「後に」です。人々が恥ずかしく思い、世の人々にあざけり笑われて去って行ったのは、命の木を見つけた後でした。

「それでその木の所までやって来た人々は、その実を味わった後にあの人々にあざけり笑われたので恥ずかしく思い、禁じられた道に踏み込んで姿が



見えなくなりました。……

あの奇妙な建物の中に入った人々の数は非常に多かった。彼らはその建物に入〔った後に〕、わたしやほかにその実を食べていた人々を指さしてあざけり笑った。」それが試でした。リーハイは次にこう述べています。「しかしわたしたちは、彼らのことを気に留めなかった。」(1ニーファイ 8:28, 33, 強調付加)

リーハイの息子ニーファイはこう記しています。

「わたしニーファイもまた、聖霊の力によってこのようなことを見聞きし、また知りたいと思った。聖霊とは……およそ神を熱心に求めるすべての人に神が与えられる賜物である。……

熱心に求める人は見いだすであろう。神の奥義は聖霊の力によって、昔の時代のみならず今の時代にも、またこれから先の時代のみならず昔の時代にも、同じようにその人々に明らかにされる。したがって、主の道は一つの永遠の環である。」(1ニーファイ 10:17, 19)

リーハイの夢に登場する象徴はすべて息子のニーファイに説明されました。そしてニーファイはそれについて書きました。

皆さんはバプテスマと確認の儀式を受けたときに、鉄の棒につかまりました。しかし、それだけでは決して安全ではありません。あの実を食べた後に、試しがやって来るのです。

わたしは時折、級友の一人のことを考えます。とても優秀で容姿も良い、忠実な教会員で、豊かな才能と能力に恵まれていました。幸せな結婚をして、すぐに出世をしました。ところが、世の人々や周囲の人々を喜ばせるために妥協をするようになりました。人々におだてられて、彼らのような、この世的な生き方をするようになったのです。

時々、身なりの整え方や服装などのささいなことがきっかけになることがあります。若い女性が無造作な印象を与えるために逆毛を立てることだったり、若い男性が流行を追ってだらしない格好をすることだったりします。

わたしの級友はささいなことがきっかけで、鉄の棒を握る手を少しゆるめてしまいました。級友の妻は片手で棒につかまり、もう一方の手で夫につかまっていた。とうとう、夫は妻のもとからそっと立ち去り、鉄の棒を離してしまいました。リーハイの夢、すなわち示現が予言したように、禁じられた道に踏み込んで姿が見えなくなりましたのです。

おもにテレビの影響により、わたしたちはあの広々とした建物を外から眺めているのではなく、実際にはその建物の

中で生活しています。これが今の世代の宿命です。皆さんはあの大きな広々とした建物の中で暮らしているのです。

この途方もない示現を書いたのはだれでしょう。類似のものは聖書には見当たりません。ジョセフ・スミスが作り上げたのでしょうか。彼がモルモン書を書いたのでしょうか。だとすれば、天使と金版よりも信じ難い話です。モルモン書が出版されたとき、ジョセフ・スミスは若干24歳だったからです。

普通の末日聖徒のような服装や身なり、行動をしていれば、皆さんは安全です。慎み深い服装をして、集会に出席し、<sup>じゅうぶん</sup> 十分の一を納め、<sup>せいさん</sup> 聖餐にあずかり、神権を尊び、両親を敬い、指導者に従い、聖文を読み、モルモン書を研究し、常に祈ってください。鉄の棒につかまっているなら、目に見えない力が皆さんの手を取って導いてくれるでしょう。

このようにすれば、皆さんの問題はすべて解決するのでしょうか。もちろん、そうではありません。それではこの地上に來た目的に反することになります。しかし、人生を築くための堅固な基が与えられるでしょう(ヒラマン5:12 参照)。

時折、暗黒の霧がとても深く、一寸先さえ見えなくなることもあるでしょう。視界が悪くても、聖霊の賜物により、手探りで人生の道を前進することができます。鉄の棒につかまり、離さないようにしてください(3ニーファイ18:25; 教義と聖約9:8 参照)。

## 靈的な戦いの時代

現代は戦争、すなわち決して終わることのない靈的な戦いの時代です。モロナイはガデアントンが始めた秘密結社が「あらゆる民の中にあ〔る〕」と警告しています。

「おお、あなたがた異邦人よ〔モルモン書のこの箇所の異邦人は現代のわたしたちを指す〕、これらのことがあなたがたに知らされるのは、神の知恵にかなっている。それによってあなたがたが罪を悔い改めることができるようにするためであり、また……これらの殺人結社に支配されることのないようにするため……である。……

そこで、主はあなたがたに、これらのものがあなたがたの中に起こるのを見るときに、自分たちがひどい状態にいるという意識に目覚めるようにと命じておられる。」(エテル8:20, 23-24)

無神論者や不可知論者は宗教を信じておらず、信仰や信念を攻撃するために、今日これまでにない方法で組織を結

成しています。今や組織的に活動し、政治的な権力を追い求めています。皆さんもそのような人々のうわさを聞いたり、彼らから話を聞いたりするでしょう。彼らの攻撃の大半は、忠実な人々や宗教を間接的にあざけるものです。

シーレムやニーホル、コリホルのような人々は、今日わたしたちの身近にもいます（モルモン書ヤコブ7：1－21；アルマ1：1－15；30：6－60参照）。彼らの主張はモルモン書に出てくる人たちの主張とさほど違いません。

若い皆さんは、皆さんの勇気と信仰を試す多くのことを目にするでしょう。あざけりはすべて教会の外から来るとは限りません。繰り返します。あざけりはすべて教会の外から来るとは限りません。あざける者の仲間にならないよう注意してください。

主はこのように約束しておられます。「備えていれば恐れることはない。」（教義と聖約38：30）

モロナイでさえ同じような困難に直面しました。モロナイは書く力が弱いために、

「異邦人がわたしたちの言葉をあざけるのではないかと心配〔した〕」と述べています。

「〔主は彼に言われた。〕愚か者はあざけるが、後に嘆き悲しむ。わたしの恵みは柔和な者に十分であり、彼らがあなたの弱さに付け込むことはない。

もし人がわたしのもとに来るならば、わたしは彼らに各々の弱さを示そう。わたしは人を謙遜にするために、人に弱さを与える。わたしの前にへりくだるすべての者に対して、わたしの恵みは十分である。もし彼らがわたしの前にへりくだり、わたしを信じるならば、そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう。」（エテル12：25－27）

## キリストにあって喜ぶ

リーハイの夢、すなわち示現の本質は「高価な真珠」です（マタイ13：46）。

リーハイとニーファイは次のものを見ました。

- 腕に幼子を抱いたおとめ（1ニーファイ11：15－20参照）
- 道を備える者——バプテスマのヨハネ（1ニーファイ11：27参照）
- 教え導く神の御子（1ニーファイ11：28参照）
- メシヤに従う12人の人（1ニーファイ11：29参照）
- 天が開き、天使たちが人の子らを教え導く姿（1ニーファイ

11：30参照）

- 祝福され癒された多くの人々（1ニーファイ11：31参照）
- キリストが十字架につけられてお亡くなりになる姿（1ニーファイ11：32－33参照）
- 主の業に対抗する世の人々の知恵と高慢（1ニーファイ11：34－36参照。1ニーファイ1：9－14も参照）

リーハイとニーファイはこれらすべてを夢、すなわち示現の中で見ました。わたしたちが今まさに直面している事柄です。

では、200万人の一人である皆さんへ申し上げます。昔の預言者や使徒たちと同じように、「わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、……どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせ〔ます〕。」（2ニーファイ25：26）。

「天使は聖霊の力で語る。したがって、天使はキリストの言葉を語る。さて、わたしは、キリストの言葉をよく味わうようにあなたがたに言った。見よ、キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げるからである。」（2ニーファイ32：3）

そして、次にニーファイはこう付け加えています。

「さて、わたしがこれらのことを述べても、あなたがたが理解できないとすれば、それはあなたがたが求めもせず、また、門をたたきもしないためである。それゆえ、あなたがたは光の中に導かれず、闇の中で滅びてしまうに違いない。

見よ、わたしは、もう一度あなたがたに言うておく。あなたがたがその道によって入り、聖霊を受けるならば、聖霊は、あなたがたがなすべきことをすべてあなたがたに示されるであろう。」（2ニーファイ32：4－5）

## 聖霊の導き

皆さんは興味深い時代に生きており、試しの絶えない生活を送ることでしょう。聖霊の導きに従うことを学んでください。聖霊の促しは皆さんにとって盾となり守りとなり、教師となります。福音の教義や、教会で教えられている標準について、決して恥ずかしく思ったり、当惑したりしないでください。忠実な教会員であるなら、皆さんは必ず、世の人々とはかなり異なる者となるでしょう。

皆さんはあらゆる決断において必ず導きを受けられるという有利な立場にいます。皆さんはこれから先、多くの決断





に迫られるでしょう。例えば、進学、生涯の伴侶を見つける、職業や住居を選択する、混乱を極める世の中で子供を育てるなどです。皆さんの子供たちは、わたしたちの世代よりもさらに多くの問題に遭遇するでしょう。

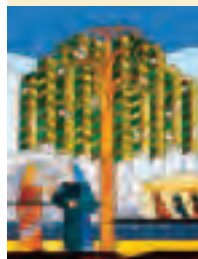
わたしたちは各地の教会を訪問し、若人が以前よりも強くなっていることに気づいています。大会や聖餐会で話す若者は、聖文を引用し、標準を擁護しています。忠実さや真の改心に欠ける者がよく口にする、皮肉なあざけりの言葉を聞くことはありません。

わたしたちは会員が1,300万人を超え、さらに会員数が増加している教会を管理しています。教会は世界に広がっています。今や大部分は合衆国以外の国々にあります。多くの教会員は大学へ行く機会に恵まれていませんが、福音に従って生活しています。彼らに会い、ともに歩むことはすばらしく、心強いことです。

若い末日聖徒である皆さんを

思い、モルモン書や、リーハイが見た夢、すなわち示現を思うと、皆さんの生活に特に当てはまる預言がそこに書かれていることが分かります。ニーファイ第一書第8章からもう一度読み始め、そこに書かれている勧告を読んでください。モルモン書には死後の生活、すなわち霊がどのような状態になるか（アルマ40：11－12参照）、霊界ではどんなことが起きるか（2ニーファイ2：29；9：10－13参照）が書かれています。皆さんが知る必要のある事柄がすべて書かれています。モルモン書を読み、生活の一部としてください。そうすれば、教会員に対する世の人々の非難やあざけりは、わたしたちにとって何のかわりもないと同様、皆さんにとっても何のかわりもないものとなるでしょう（1ニーファイ8：33参照）。わたしたちはただ、行うように言われたことを行いながら前進しましょう。そうすれば、主が導いておられることが分かるのです。

リーハイの夢、すなわち示現は、皆さんにとって何ら特別な意味はないと思われるかもしれません。しかし、そうではありません。その示現は皆さんに、そしてすべての人に当てはまるのです。



皆さんの働きのうえに主の祝福がありますようお祈りします。今、皆さんが迎えている人生の夜明けから、わたしに差し迫る人生の夕暮れに向かって前進するときに、主の祝福が注がれ、イエス・キリストの福音が真実であると分かるようお祈りします。皆さんは人生の中で多くの異常な騒乱と困難に満ちた事柄に直面しながらも、大きな導きと喜びを見いだすことでしょう。

皆さんはわたしたちの若いころよりも優れています。必ずやって来る試しと与えられた預言に対して、主の教会と王国が世にあって守られ前進するように、主はこの時代に送り出す特別な霊を取っておかれました。わたしは主の僕として、皆さんのうえに主の祝福がありますよう祈るとともに、福音が真実であることを証します。■

2007年1月16日にブリガム・ヤング大学のデイポーショナルで行われた説教から。全文（英文）は、<http://speeches.byu.edu>をご覧ください。

**指**導者は「今週は何をしますか」という質問をよく受けます。青少年が効果的なミューチャル活動を計画し実行するのを助けようとする指導者にとって、どきっとする質問かもしれません。また、何をするかという質問の答えは分かっている、「今週行くことを通して、何を達成しようとしているのですか」という問いはさらに難しいものです。

最近、トーマス・S・モンソン大管長は、青少年の指導者に向けた話の

中で、「青少年が選択を迫られたとき正しいことを選べるよう助けるといふ基本的な責任は、これまでずっとそうであったように、今日、非常に重要な規範です」と勧告しました。

「永遠に携えて行ける思い出を与えてください。そうするなら、皆さんの名前は主に祝福されるでしょう。」大管長はそう語り、いつもしばしば繰り返すように、主は御自身が召された人々に靈感を与えてくださることを強

調しました。<sup>1</sup>

『リアホナ』では、教会指導者に呼びかけ、大きな影響を受けたミューチャルやほかの青少年の活動を思い起こし、活動から得られたことを分かち合ってもらいました。恐らく今日の青少年指導者の皆さんは、このような経験に慰めを見いだし、自分たちの献身的な努力が、大切な思い出や永遠に続く<sup>あかし</sup>証を築く助けになっていることに気づくでしょう。

指導者と青少年が  
活動を計画し  
実行するとき、  
永遠に携えて行ける  
思い出と証を  
築くことができます。



# 互いに 益となる







## たぐいまれなものに 属するということ

十二使徒定員会

ニール・L・アンダーセン長老



1967年の春の終わ  
りごろ、わたしの  
ワードは、教会の全  
米ダンスフェスティ  
バルに参加する青  
少年を16人選出す

るよう依頼されました。アイダホの小さな田舎町にとっては一大事でした。フェスティバルはユタ大学の巨大なスタジアムで開かれ、何千人という人が集うことになっていました。わたしはダンスが苦手だったので、練習が始まったころはあまり乗り気ではありませんでした。しかしすぐに、気のいい若い男性や若い女性とダンスフェスティバルに向けて練習するのが楽しくなりました。ソルトレーク・シティーという大都市に行ってプール付きのホテルに泊まると考えただけで、大いにやる気がわいてきました。

指定された日にソルトレーク・シ  
ティーに到着したわたしたちは、  
演技に備えて着替え

始めました。そのとき突然、わたしは社交ダンスのときに着る予定の黒いズボンが手もとにないことに気づきました。家に置き忘れたのです。店に買いに行けばかなりの出費になると分かっていたので、それはみんな考えてもみませんでした。わたしは途方に暮れてしまいました。

若い男性指導者のロー兄弟が解決策を与えてくれました。自分の濃い色のズボンをはいてはどうかと勧めてくれたのです。借りたズボンをはいてみると、幸い長さはちょうど良かったのですが、すぐに問題があることに気づきました。ウエストが10センチ以上も大きかったのです。わたしは「どうしよう」と頭を抱えました。ロー兄弟の親切には感謝しながらも、ぶかぶかのズボンを身に着けるのは恥ずかしくてたまりませんでした。ロー兄弟や友人たちは、だれも気づかないと請け合いました。ズボンはほとんど上着で隠れてしまうし、ベルトでしっかり締めれば大丈夫だと言うのです。

スタジアムに到着して、何百人もの若い男性や若い女性を見たときの気持ち、わたしは今でも覚えています。全国から集まった彼らは皆、わたしと同じ信仰や確信を持った若人でした。それほど大勢の人にとって、教会がいかに大切なものであるかを実感した特別な瞬間でした。

出番になったのでグラウンドに移動し、ダンスが始まったときのことです。だぼだぼのズボンがずり落ちてきたのを感じて、わたしの心臓は縮み上がりました。ベルトを締め直す時間はありません。音楽はすでに始まっています。このジレンマのせいで、わたしの社交ダンス技能に新たなステップが加わりました。教えられたステップをすべて思い出すだけでなく、ズボンがずり落ちないように新たな動きを考え出す必要があったのです。ダンスの得意なパートナーはわたしの新た



なステップに時折戸惑っているようでしたが、そのステップのおかげで、もっとひどい結末を迎えずに済みました。

はらはらしながら社交ダンスを踊ったほんのつかの間の経験を、わたしは忘れたことはありません。それよりもっと大切に、決して忘れたことがない思いがあります。それは、自分たちは皆、単にダンスフェスティバルに参加しているのではなく、たぐいまれなもの、つまり回復された教会とイエス・キリストの福音に属しているのだと感じたことです。

## 日の出とともに得た証

七十人

ポール・B・パイパー長老



わたしは教会員として育ちました。両親から福音の原則を学び、ふさわしい権能を持つ父親がバプテスマと確認の儀式を施し、後には神権を授けてくれました。生活の中で御霊の影響を感じてはいましたが、贖いが真実であるという証を得たのは、10代のある年、復活祭を迎えたときのことでした。

夜明け前、セミナーの生徒が数百人、証会に集いました。わたしもそのとき自分の証を述べたと思いますが、はっきりとは覚えていません。分かっていることは、復活祭の日、朝日が昇る中で開かれた証会の間に御霊がわたしの心に訪れて、イエス・キリストが実在しておられること、またその生涯や教え、贖い、復活がすべて真実であることを証してくださったということです。その証が真実であることを、これまで30年以上にわたり何度も確信してきました。時には宣

教師として、父親として、友として、また教会指導者として、イエス・キリストについて証する度に、確証を得てきたのです。しかし、これまでわたしにとって錨<sup>いかり</sup>となってきたのは、あの復活祭の朝、御霊から受けた証でした。

## 未来の宣教師を育成する

七十人

キース・K・ヒルビッグ長老



ウイスコンシン州ミルウォーキーワードの一員として、わたしは献身的な指導者たちから教えを受けました。ワードの

活動は社交術を身に付けるすばらしい機会となりましたし、10代特有のぎこちなさを克服する助けにもなりました。しかし、中でも一つのミューチャル活動が、わたしの少年時代を方向付ける特別な経験となりました。それは54年前の1956年の出来事で、今でも鮮明にわたしの心に残っています。

わたしたち若い男性は、毎週水曜日のミューチャルの時間に、美しいソルトトレイク神殿の模型を共同で製作しました。高さが1.2メートルもある、精密な作品です。また、モルモン書の目的や物語を詳しく説明する大きなポスターも作りました。

わたしたちのワードのボーイスカウト隊は、街で年に1度開かれるスカウト技術の発表で人目につきやすい場所をブースとして確保していました。何百人もの訪問者がわたしたちのブースを通りかかり、展示を見て行きました。多くの人足が止めて、スカウトの制服を着た若いアロン神権者たちに、神殿の展示物の目的を尋ねました。

モルモン書について質問した人もたくさんいました。年若いアロン神権者であるわたしたちは、精いっぱい説明した後、ペーパーバックのモルモン書をプレゼントしました。

仲の良かったスカウト仲間とわたしは(二人とも同じ教師定員会に属していました)20歳の宣教師のような気分でした! そのとき二人とも口にはしませんでした。ふさわしい生活をして専任宣教師として奉仕しようと決意したのです。結局、二人ともその決意を実現しました。それができたのも、一つにはミューチャルや献身的な青少年の指導者のおかげだと感謝しています。



活動の規模にかかわらず、ミューチャルは、教会の青少年だけでなく、家族をも強める重要な鍵であるとわたしは心から信じています。これらの活動では、打ち解けた雰囲気の中で福音を教えることができますし、指導するよう召された人々が生活の中で福音を実践する姿を見せることもできます。

活動について考えるときは、恐らく信仰箇条第13条の言葉を少し変えて考えた方がよいでしょう。「どのようなことでも、徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値することがあれば、わたしたちはこれらのことを提供するものである。」

中央若い女性会長 イレイン・S・ダルトン



## 小さな、簡単な手段 によって

中央若い女性会長  
イレイン・S・ダルトン



青少年の若いころの経験について考えると、小さな、簡単なことが幾つも積み重なってわたしの証を強めてくれたように

思います(アルマ 37:6-7 参照)。当時わたしが集っていたワードは、まるで一つの大きな家族のようでした。ワードの食事会には全員が参加しましたし、扶助協会のバザーや初等協会のパレードのときも、いつでも全員がやって来ました。ワードは社会生活そのものでした。

初めてワードで催した演劇を思い返すと、様々なことがよみがえります。何日も重ねた早朝練習や祈りの数々、出番を待つ間に交わした仲間との会話、ともに背景を描いたり、練習したり、学んだりしたときに感じた友情など、今もはっきりと覚えています。現実に生きている人たちの現実の生活で福音がどのように影響を及ぼしているかを実際に目にする機会となりました。若い女性のアドバイザーが問題を解決したり、指導者がプレッシャーの中で様々なことに対応したりする姿、また夫婦が心を通い合わせる様子を見ました。その結果、わたしは日曜日に学ぶ原則に従って生活していこうとひそかに決意したのです。自分のせりふを覚えられるように、仲間の一人が元気になるように、奇跡を求めて皆で祈ったとき、わたしは御霊を感じました。

演劇の自分のせりふや、そのほか細かいことはすべて忘れてしまいました。でも、演じているときの気持ちや、

### ミューチャルとは何ですか

**若**い男性と若い女性は、定期的にかかれるミューチャルという活動を持つべきです。英語で「ミューチャル」という言葉は、互いに尊敬し、助け合いながら、様々な経験を分かち合うということの思い起こさせます。青少年は、ミューチャル活動を通して人に仕え、霊的、社会的、身体的、知的そのほか様々な面で成長する機会を得るべきです。

ミューチャルは日曜と月曜以外の日中または夕べに行われます。通常、週に1度行いますが、交通手段や人材、あるいはそのほかの理由で集会を毎週開くことに支障があると神権指導者が判断したら、もっと少ない回数でもかまいません。

各ワードや支部の若い男性会長会、若い女性会長会は、ビショップリックまたは支部会長会の指示の下に、ミューチャルを監督します。

さらに詳しい情報は、LDS.orgのウェブサイト上で“Serving in the Church”(教会で奉仕する)[英語]を参照してください。

ワードの会員たちの顔をじっと見つめ、彼らが自分のことを認め、愛してくれていると感じたときの気持ちを、今もはっきりと覚えています。

## 招きに応じる

中央若い男性会長  
デビッド・L・ベック



青少年のときに参加した活動の中で最も思い出深いのは、大規模なダンスフェスティバルです。そのような活動には自分から進んで参加したことはなかったと思います。最初はダンスなど気乗りしませんでした。度々熱心に誘われたので参加することにしました。

わたしたちは度々練習を重ね、ダンスを覚えようとしたのですが、なかなか上達しませんでした。熱心に教えてくれた指導者や忍耐強く練習に付き合ってくれたダンスのパートナー、また衣装を縫ったり、最善を尽くすよう励ましたりしてくれた母に感謝しています。

ダンスフェスティバルはフットボールスタジアムで開かれました。そのような大規模な催しに参加したのは初めてでした。グループごとに色鮮や

かな衣装に身を包み、様々な振り付けのダンスを披露して観衆を楽しませました。そして、出演者全員が参加して最後のダンスが演じられたとき、フットボールスタジアムはダンスをする若者たちに文字どおり埋め尽くされ、感動的なショーが繰り広げられました。

わたしは自分が考えていたよりもずっと楽しくダンスフェスティバルに参加することができました。教会の違う側面を見るきっかけにもなりました。膨大な数の青少年が、すばらしい時を過ごすのを目の当たりにしたからです。新しい友達も何人かできましたし、新しい技術も身に付けられました。何千人をも魅了する大きな催しで、ささやかながらも役割を果たすことができました。

フェスティバルでダンスを踊る招きに応じたり、教会で与えられたそのほかの勧めを受け入れたりすることによって、わたしの人生は祝福されてきました。さらに、ほかの人を祝福する機会にもあずかりました。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として数々のすばらしい経験をしてきたことを、大きな特権と感じています。■

### 注

1. サラ・ジェーン・ウィーバー, “Building on a Firm Foundation for Young Women,” *Church News*, 2009年11月28日付, 3参照

## お父さん、バプテスマを施して!

**あ**る夜、玄関を開けて家に入ると、6歳の娘のジェシーがキッチンの丸いすに腰かけていました。わたしは娘の表情を見て心配になり、何があったのか尋ねました。

「お父さん、わたしは悪魔の子だってほんとう?」娘はとても心配そうに尋ねてきました。

娘の質問を聞いて、バケツの冷水を浴びたような衝撃を受けました。ジェシーの友人の生後3か月の妹はすでにバプテスマを受けたというのです。ジェシーは驚き、なぜそんなに幼いときにバプテスマを受ける必要があるのか尋ねました。友人は、すべての赤ちゃんはバプテスマを受ける必要があると答えました。

「あなたはまだバプテスマを受けていないの?」と友人が尋ねてきました。ジェシーがまだだと答えると、友人はジェシーが悪魔の子であると言い張ったのです。

「お父さん、バプテスマを施して!」ジェシーは懇願しました。「悪魔の子になんかなりたくない!」

わたしはこの問題をすぐに解決しなければならないと思いました。バプテスマの重要性と、子供は8歳になるまでバプテスマが必要ないことを説明しました(モロナイ8:11-23参照)。ジェシーはまだ6歳だったので、バプテスマまでもう少し待つ必要があることを伝えました。彼女が神の子供であり、神が愛してくださっていることを伝えました。娘の質問は、モロナイが「すべてのことの真理」を見極める方法を教えているモ

ロナイ第10章4節から5節にわたしたちを導いてくれました。

これらの節を読んだ後、二人で話し合ったことが真実かどうか、天の御父に祈って尋ねてみたいかと聞きました。娘はそうしたいと答えました。

わたしたちはひざまずき、ジェシーは頭を下げて祈りました。「天のお父様、わたしはお父さんが教えてくれたことがほんとうかどうか知りたいです。イエスキリストの御名により、アーメン。」

わたしは人生で最も重要な祈りをささげるように娘を導くことができた実感しました。娘の祈りにこたえてくださるように、わたしは心の中で天の御父にいまだかつてなかったほど懇願し始めました。

数分たってから、娘は言いました。「何も聞こえなかったよ。」わたしは

**娘**の祈りに  
こたえて  
くださるように、  
わたしは心の中で  
天の御父に  
いまだかつて  
なかったほど  
懇願し始めました。

彼女を腕に抱き、こう言いました。「天のお父様は聖霊を送ってくださっているよ。聖霊の答え方はね、……」そう言いながらわたしは自分の手を胸に当てました。すると娘はわたしの言葉を遮って言いました。「心の中にあったかい気持ちがある! このことなんだね、お父さん!」

わたしは娘を強く抱き締め、天の御父が彼女の祈りにこたえてくださったことを感謝しました。自分の胸の内にも熱く燃えるものを感じました。わたしは彼女が感じたものが祈りの答えであるとジェシーに教えました。また、自分が神の娘であると知ったので、8歳になってからバプテスマを受けるべきだと伝えました。彼女はそのときまで待つと言いました。

それから何年もたちましたが、その経験は天の御父が約束を果たされるということをも今でも思い起こさせてくれます。■

ホセ・アルマンド・ゴンサレス・モンドラゴン  
(メキシコ)







「こんにちは。」  
小さいけれども  
親しみのある声で  
言いました。  
「わたしはアシュリーよ。」

## 恐れを愛と置き換える

**大**学から帰るバスの中で毎日彼を見かけていました。彼はいつも同じだぶだぶのTシャツを着て、ぼろぼろのテニスシューズを履き、満面に笑みをたたえていました。そしていつも独りで座っていました。彼は特別な乗客でした。精神的な障がいを抱えていたのです。

あいさつするよう御霊が毎日わたしに働きかけました。しかし毎日プライドがじゃまをしました。みんなと違う人と親しくしているのをだれかに見られるのを恐れていました。つまり周りの目を気にしていたのです。

ある冬の午後、御霊を特に強く感じ、いつもより勇気を出してバスに乗りました。いつもの場所にいる彼を見ると、隣に座りました(しりごみしてしまったときのために近すぎない距離でしたが)。降りるバス停が近づいたとき、目を閉じ、心の中で祈り、彼の方を向きました。

「こんにちは。」小さいけれども親しみを込めた声で言いました。「わ

たしはアシュリーよ。」

彼がわたしにほほえんだとき、恐れとプライドはたちまち消えていきました。

「ほくはレニー。」彼は恥ずかしそうに答えました。

そうした幾つかの言葉を交わして、わたしたちの友情が始まりました。

次の日もレニーの隣に座りました。今度はもっと簡単でした。もう友達になったからです。わたしが座ると、彼はリュックサックから手作りのバレンタインカードを取り出しました。そこには「毎日バスで見るかわいい女の子へ」と書いてありました。

バレンタインデーはとくに過ぎていました。でもレニーはこの特別なカードをわたしのために作り、渡すチャンスをずっと待っていたのです。涙が頬を流れ落ちるのを止められませんでした。御霊がわたしを見放さずにくださり、そのおかげでプライドを捨てて勇気を出し、レニーに話

しかけることができました。そのことにどれほど感謝したでしょう。

現在彼は毎週日曜日、我が家で夕食を共にして、家族の一員のようになっています。プライドを捨てて、勇気をもって正しいことをすれば祝福があるということを、レニーは毎日思い出させてくれます。毎日彼に会うと「愛には恐れがない。完全な愛は恐れをとり除く」というヨハネの第一の手紙第4章18節の聖句を思い出します。■

アシュリー・ジョンソン・エバンソン  
(アメリカ合衆国ユタ州)

## 兄のフレンチホルン

**わ**たしは兄が練習するフレンチホルンの音を聞いて育ちました。来る日も来る日も、兄のフレンチホルンの音がわたしたちの家から聞こえるのでした。小学校から歩いて下校するときに、何区画先からさえもその音を聞くことができました。

もし文句を言われたとしたら、わたしは自分の兄がこれまでにない最も上手なフレンチホルン奏者であると間違いなく強く主張していたことでしょう。けれども、絶えることのない兄の演奏に恥ずかしい思いをすることもあり、以前兄の演奏をやめさせるよう母に頼んだことがありました。兄はフレンチホルンを旅行先にまで持って行っていました。

数年後、兄とわたしは、それまでわたしが行ったことのなかった、北カリフォルニアのある大きい大学の構内で開かれた音楽コンクールに参加しました。そこでわたしの高校の合唱団は最高ランクを受賞しました。それは、同じ

日に、後ほどわたしたち合唱団がアンコール演奏する機会を得たことを意味していました。わたしたちは集合する場所と時間の指示を受け、解散しました。間もなくわたしは独りきりになってしまったことに気づきました。わたしはそびえ立つたくさんの建物を目の前に、構内の真中に立っていました。知っている人をだれ一人見つけることはできませんでした。しかしそのとき、迷子になったときのために母が教えてくれた言葉を思い出しました。「そこでじっとしていなさい。」

わたしはその場を離れませんでした。が、恥ずかしさのあまり道を尋ねることができませんでした。それに、自分がどこへ行こうとしているのかも分かりません。集合場所と時間について言われたことを何も覚えていませんでした。けれども突然、天の御父に助けを求めることを思いつきました。そのころわたしは教会員ではありませんでしたが、末日聖徒の友達と欠かさず教会に出席していて、天の御父が祈りにこたえてくださるということ教えられていました。

そこでわたしはその場に立ったまま心の中で静かに祈りをささげました。「アーメン」を言い終える前から、耳をそばだてました。ずっと遠くで、とても静かに、自分の人生の大半聞いてきたなじみ深い音が聞こえました。その曲の方へ歩き始めると、音は次第に大きくなってきました。やはり兄のフレンチホルンの音でしょうか。わたしはそうだと確信しました。

しかしその後、ほかのフレンチホルンの音がし始めました。わたしはためらいました。ほんとうにわたしは、すべてのホルンの音の中から兄の音を聞き分けることができたと思ったのでしょうか。けれども、疑う度に兄のホルンの音が聞こえました。それは

わたしを招いているかのようでした。建物に入って階段を上り、音に近づいて行くと、わたしは怖くなりました。間違ったドアを開けて知らない人がいることを思うと、顔が真っ赤になりました。わたしは3階にたどり着くと、もう一度その音を聞きました。それから決意を固め、深呼吸してからドアを開けました。兄はそこにいたのです！

わたしたちが孤独で置き去りにされたと感じるときに、天の御父は御霊を与えてわたしたちを教え、<sup>あかし</sup>証し、守り、安全な場所に導いてくださいます。わたしたちは御父の声をよく聞き、よく慣れ親しむことによってその声を覚えます。それによって、わたしたちを道に迷わせるほかの多くの声の中から御父の声を聞き分けることができるのです。

御父の声を聞くことを恥ずかしがったり、従うのをためらったりするべきではありません。天の御父に助けを求めて耳を傾け、従う備えができていならば、御父の声を聞くことができるわたしは知っています。■

サンディー・ローダーテール・ケーン  
(アメリカ合衆国ミズーリ州)

## パーティーを出なさい！

**何**年も前のことです。わたしは高校の水泳選手が参加するオハイオ州での全国大会で、ユタ州の代表を務めるチャンスがありました。

大会には、選手のために様々なパーティーも盛り込まれていました。わたしは初日の夜、あるパーティーに行きました。ルートビアを飲んだり、ゲームをしたり、故郷で行っていたような楽しいパーティーになるだろうと思っていました。

しかし、パーティーの部屋に入った途端、現実に直面しました。

「教会員があなただけのとき、あなたは人目を引くことになるでしょう」と教会の機関誌に書かれていた記事が何を言っていたのか、すぐに理解できました。どういうわけか仲間の選手たちは、わたしが末日聖徒であることをすでに知っていました。部屋は静まり返り、わたしがボウルのポテトチップスに手をつけると、みんながじっと見ているように思われました。

「ねえ、君モルモンなんだって？」だれかが尋ねてきました。わたしは誇らしげにほほえみ、こう答えました。「ええ、そうよ。モルモンで

**自**分の水泳バッグを手にとってドアに向かうと、一人の少年が大声でこう言いました。「やあ、怖くなったのかい？」





あることをうれしく思っているわ。」

それからパーティーは再開したものの、皆の目がわたしに向いていて、わたしのあらゆる動きを監視しているように感じました。しばらくして、パーティーは乱れてきました。どれほどひどくなるかは分かりませんでした。その場にいたくありませんでした。もしそこにい続けたら、自分の標準について皆に誤った印象を与えてしまうのではないかと心配になりました。それに、その場を去るようという御霊の促しを感じました。自分の水泳バッグを手にとってドアに向かうと、一人の少年が大声でこう言いました。「やあ、怖くなったのかい？」

わたしはただほほえみ、「みんなまたあしたね」と言って部屋を出ました。主の標準を擁護しながら同時に自分の存在を意識してもらうことができ、

気持ちよく部屋を後にしました。

次の日、代表者の集会の間に代表の一人が立ち上がって厳しく警告しました。「夕べ、もう二度と起きてほしくないことが起こりました。皆さんは自分の州の代表としてこの場にいるんです。ですから、その責任をよく果たし、ふさわしい行動を取ってください。」

それから、彼はこう付け加えました。「中にはその場を後にして、起こったことに関与しなかった人たちがいます。ありがとうございます。」

その週の残りの間、わたしはこれまで受けたことがないほどの敬意と親切を受けました。わたしがユタ州の代表をよく務めたという理由で、合衆国中から集まったコーチの多くから、西部の州の選手代表に立候補するよう勧められました。

パーティーで何が起こったのかわかりませんが、わたしはパーティーを出るよう御霊が促してくださったことに感謝しています。■

ソマリサ・オールス・ハッセルバック  
(アメリカ合衆国カリフォルニア州)

## あなたを誇りに思います

**ガ**ーナの宣教師は準備の日に分たちの服を手で洗います。合衆国から来たばかりの同僚のモス長老は、そのような方法で洗濯をしたことがありませんでした。けれどもガーナ出身のわたしは、それに慣れていました。

毎週月曜日にモス長老は自分の服をごしごしと洗い始めるのですが、途中で手と指の関節から出血してしまうのでした。そうなる、わたしは自分の洗濯を終わらせることに加えて、彼の分まで引き受ける必要がありました。

ある月曜日、洗濯の時間が近づく

と、モス長老は少し心配そうに見えました。わたしがその前日に手を痛めてしまったため、洗濯を手伝えないことを彼は分かっていたのです。わたしは自分の洗濯さえもできそうにありませんでした。モス長老は自分の洗濯を始めましたが、いつものように途中で助けが必要になりました。

わたしは実際に洗って同僚を助けることができなかったので、我慢するように彼を励まし、一度手を休めてそれからまた努力し続けるように勧めました。彼は一時休んでからまた洗濯を続けました。わたしは彼に、何とかして終わらせることができると言いました。彼の手と指の関節にはまだ痛みがありましたが、彼は頑張り続けました。そして洗濯を終えるとこう言いました。「わたしは自分のことを誇りに思います。アサンテ長老、あなたはわたしを誇りに思いますか。」

わたしは「はい、もちろんあなたを誇りに思います」と答えました。

この出来事について考えたとき、わたしは天の御父がわたしたちの可能性を御存じであることに気づきました。けれども、わたしたちが勤勉と忍耐と忠実さを身に付けることができるように、御父はわたしたちを試されます。わたしたちが義にかなった選びをし、試練に耐えられるということを証明するとき、御父はわたしたちのことを喜んでくださるのです。

わたしたちは一生懸命に努力し、目の前に置かれた試練を堪え忍ぶとき、「天のお父様、わたしのことを誇りに思われますか」と言うことができず。わたしたちが堪え忍ぶとき、天の御父とイエス・キリストは喜んでくださり、いつの日かみもとに帰るとき、その喜びを伝えてくださることを知っています。■

リチャード・ドメング・アサンテ(ガーナ)



# 自分とは違う人

自分がどれほどキリストに近づいたかを知る成長の尺度として重要なのは、人との接し方、特に自分とは違う人に対する接し方です。神の祝福によってこれを悟れますように。



七十人  
マーリン・K・  
ジェンセン長老

わたしが1942年に生まれる2年前、母は兄のゲーリーを出産しました。ゲーリーはとても特別な人です。出生時の酸素不足のために脳に障がいが残ったのです。精神面では6、7歳程度以上に成長することはありません。

60年以上にわたって、わたしは両親がゲーリーを世話する姿を見てきました。歯を磨き、髪をとかし、日曜日にはネクタイを結んであげていました。馬やカウボーイが大好きなゲーリーを、両親はロデオや西部劇映画に連れて行ってあげていました。兄のために、愛にあふれる親切な行いを数え切れないほどしていたのです。

残念なことに、世間の人には、自分とは違う人に対して必ずしも親切だというわけではありません。言にくいことですが、子供たちの中には(活発な末日聖徒の家族の子供ですら)兄に意地悪な子もいました。兄は遊びから締め出されたり、ひどいことを言われたり、容赦なくからかわれたりしました。

ゲーリーは幼子おきなごのような人で、いつでもすぐに人を救ゆるしました。どんな人でも愛し、受け入れました。わたしの子供時代、両親は別としてこの特別な兄ほどわたしの人生観に影響を与えた人はいません。アルマが述べているように、復活して「すべてのものが本来の完全な造

りに回復される」ときの様子をわたしは時々想像してみます(アルマ40:23)。そのときわたしたちはゲーリーの本来の姿を知り、彼にしてあげた善いことについてはすべて深い満足を覚え、彼の特殊な状況に対して愛と思いやりに欠ける行動を取ってしまった場合については深く悲しむのだらうと思います。

## 愛と思いやりの必要性

世の中にはゲーリーのような人がほかにもたくさんいます。教会の中にも、「大方の人とは違う」と見なされるような兄弟姉妹がいて、わたしたちの愛と思いやりを特に必要としています。彼らに愛と思いやりが必要な状況を生み出している原因の一部は、神が人のためにお立てになった計画に従って生きようとする文化の中にあります。ほかの文化と同様、イエス・キリストの福音に従って生きようとする文化は、一定の期待と拘束力のある道徳面での慣習を伴います。例えば結婚と家族が非常に重要視され、父親と母親には、果たすべき使命が神から与えられています。子供や青少年は一定の標準に従って生活し、示された道を歩んで、教育面や霊的な面での目標を達成するよう奨励されます。

福音を中心にした生活の成果が理想として掲げられ、わたしたちは皆それを目指して努力



するよう勧められます。そのような理想は教義に基づいており、永遠の命を目指すわたしたちにとって望ましい目標となっているのですが、生活が理想とは異なっている人にとっては、時にこれが失意や苦しみの原因となることがあります。

例えば、離婚した教会員、結婚できる年齢なのに独身でいる人、うつ症状や摂食障害に苦しむ人、不従順な子供を持つ親などは、戸惑いや、期待どおりにならないもどかしさを感じることもあるでしょう。教会の文化の中で目立つ人の中には、このほかにも少数民族の人たち、同性愛に苦しむ人たち、理由はどうあれ一定の年齢に達しても伝道に出る選択をしていない若者たちなどがいます。また、悔い改めの過程を歩んでいる会員で、その背罪が教会の正式な懲戒の対象となる人は、そのことが人にも知れ、教会員との付き合いが非常にぎこちなくなる人が多いのです。

ふさわしい会員ですら、理想どおりの生活をしていないために「大方の人とは違う」とされた場合には、肩身の狭い思いや後ろめたさを感じることがあります。わたしたちが兄弟姉妹として十分な思いやりを示し、細心の注意を払わないと、このような感情は悪化します。例えば、子供の誕生を望みながらも長い間子供に恵まれない夫婦に向かって、事情を知らない教会員が、いつ子供を産むのかと聞いた場合のことを考えてみてください。悪気がなかったとはいえ、その夫婦はどのように感じるでしょうか。

このような難しい状況に対処する場合には、理想を捨てることも理想を低くすることも、解決にはならないということを肝に銘じることが大切です。預言者と使徒は、理想に向かって努力するよう教え、勧める義務を常に持っています。救い主もそうでした。単に「楽しく過ごさない」ではなく、「それだから……あなたがたも完全な者となりなさい」と命じておられるのです(マタイ5:48)。



**わたしたちはだれでも  
何らかの点で  
迷い出た1匹の羊です。  
だれにでも欠点があり、  
人生は何らかの点で  
理想どおりには  
進みません。  
だれもが  
異なっているのです!**

#### 人は皆異なる

数年前、羊が1匹迷い出てしまった人について救い主の教えを読んでいたとき、あることに気がつきました。救い主はこう尋ねていらっしゃいます。「九十九匹を山に残しておいて、その迷い出ている羊を捜しに出かけないであろうか。」(マタイ18:12)

わたしは神権指導者として、自分のことを「羊飼い」だと長年思っていました。迷い出た羊を捜し歩いていると思っていたのです。しかし、よく考えると、わたしたちはだれでも何らかの点で迷い出た1匹の羊なのだということが分かったのです。だれにでも欠点があり、人生は何らかの点で理想どおりには進みません。だれもが異なっているのです! このことに気づいてへりくだる思いがし、勉強になりました。

また、救い主は理想を教える際、それが必ずしもすぐに達成できるものではないことを御存じだったということも覚えておくとよいでしょう。聖霊が与えてくださるすばらしい御霊の賜物<sup>みたま たまもの</sup>について、救い主はこうおっしゃいました。「それらは、わたしを愛してわたしのすべての戒めを守る者たち……のために与えられる。」御霊の賜物を頂くためには、すべての戒めを守らなければなりません。これは達成不可能な高い標準のように思えます。しかし、ありがたいことに救い主は、「そうしようと努める者たち」の



ためにも、御霊の賜物は与えられると付け加えてくださっているのです(教義と聖約 46:9。強調付加)。時には失敗しようとも、すべての戒めを守るよう努めることはわたしたちにもできますし、天の御父もその努力を受け入れてくださいます。

わたしたちは皆、バプテスマのときに「悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを望」む(モーサヤ 18:9)という聖約を交わしていますから、特別な状況にある人(大方の人とは違う人)に思いやりを示し、彼らの気持ちを大切にすることは、キリストの弟子となるために努力すべきことの一つです。イエスについてニーファイはこう書き記しています。「主は、世のためになることでなければ何事もなさない。」(2 ニーファイ 26:24) 救い主が神の子供たちをさらに苦しめたり傷つけたりするようなことをなさるとは思えませんし、そのようなことをおっしゃるとも思えません。現にアルマは、<sup>あがな</sup>贖いの一部として、キリストは自ら進んでわたしたちの痛みや病、弱さを体験して下さったと教えています。それは、「御自分の民を……どのように救うかを肉において知ることができるように」するためでした(アルマ 7:12)。

キリストは、わたしたちが経験することに関与する力、つまり思いやりという特質をお持ちです。これはわたしたちにとって大きな慰めと

**特別な状況にある人  
(自分とは違う人)に  
思いやりを示し、  
彼らの気持ちを  
大切にすることは、  
キリストの  
弟子となるために  
努力すべきことの  
一つです。**

なります。キリストがなさった業の記録は、自分とは違う人々に対する思いやりと優しさを示す言動であふれています。

現在初等協会で使われている『子供の歌集』が1989年に編さんされたとき、大方の人とは違うために特別な愛と理解を必要とする人について、子供たちに(つまりはすべての人に)訴えかける歌が必要でした。「友達」という素朴な歌は、どうすれば愛と理解を示せるのかを非常に簡潔に教えてくれます。

きみの あるきかたを  
わらうひと いても  
ぼくがいるよ

あなたの はなしかた  
わらうひと いても  
わたしいるわ

みんなは ともだち  
あいで むすばれた

イエスさまのように  
へだてなくひとを  
あいしましょう

みことば まもり  
ただしく おしえに  
したがいましょう

あいしあおう  
みんなは ともだち  
あいで むすばれた<sup>1</sup>

自分がどれほどキリストに近づいたかを知る成長の尺度として重要なのは、人との接し方、特に自分とは違う人に対する接し方です。神の祝福によってわたしたちが、このことを理解できるようになりますように。そして、わたしたちは皆、何らかの点で異なっていることを記憶にとどめることができますように。■

2008年9月7日、ユタ州ユタ郡において放送されたステーキ大会の説教より。

注

1.「友達」『子供の歌集』78 - 79



# 家族の一員

レーチェル・ニール

**ヤ**ングシングルアダルトの人たちと付き合い合っていて気づいたのですが、自分が独身であることにこだわりすぎると、周りの人に関心を向けなくなってしまいがちです。例えばわたしは、独身ワードではなく家族ワードに通い始めたころ、自分は独身なので要らない注目を浴び、同情され、あれこれと世話を焼かれるものだと思込んでいました。でも、そのような態度が良い結果を生じたためしはありませんでした。

ほかの思い込みも、その多くが根拠のない話だったことが、このワードに通い始めてから1年の間に分かりました。既婚者も独身者と友達になれること、自分にも人々の生活に良い影響を及ぼすことができることを知りました。母親の中には、夫が仕事や教会の責任で家にいないときに友達が遊びに来てくれることをとても喜ぶ人もいます。また、大人が自分の子供に個人的な関心を寄せてくれることを感謝する親も多いのです。そして、たいいていの親は、子供を「貸し出して」、ゼヒ映画などの活動に連れて行ってほしいと思っています。

それに、独身なのは自分だけ

ではないことも分かりました。また、ワードの会員の中には子供が巣立ってしまった人や離婚した人、<sup>ほんりよ</sup>伴侶を亡くした人などがいて、わたしと同様、それぞれの悩みに独りで取り組んでいるのです。また、既婚者の方が幸せだと決めつけていたのですが、結婚していてもうつや失業、子供の障がいや反抗に悩んでいる人に出会いました。このような悩みを抱えている人の話に耳を傾けると、必ず感謝されます。

でも、すぐにこうした事情を理解して、友情をはぐくむことができたというわけではありません。時間と努力が必要でした。一貫して教会の集会に出席し、召しを果たし、奉仕の機会を求めたのです。ビショップから6歳児を教える召しの話を受けたとき、自分には無理だと感じました。しかし、1か月ほどたつと、子供が喜んでクラスに行っているとか何人かの親から感謝されました。現在、ワードにいる親友の何人かはわたしの教え子の家族です。

わたしは常にワードの人たちの役に立てるよう努めてきましたが、時折、自分が奉仕を受ける側になることもありました。あるとき、転居する

わたしは絶対にワードの会員には受け入れてもらえないと思っていました。でも、そうではないことが分かりました。

前に部屋の壁を塗り替えなければなりませんでした。そのときわたしは期末試験の真っ最中で、しかも結婚式に出るため町を離れることになっていました。ワードのある姉妹にそのことを話すと、ほかの姉妹たちと協力して部屋を塗り替えてあげると言ってくれました。この姉妹たちの奉仕のおかげで時間とお金を随分節約することができました。

ワードの会員がわたしを独身ということで特別扱いしないのは、わたし自身が自分を特別扱いしていないからだと思います。会話の中で伴侶がないことを自分からは言い出しません。代わりに仕事や勉強、趣味、家族のことを話します。このような話題を提供すると、わたしには欠けているものよりも持っているものの方が多いと思ってもらえることが多いようです。

友情とは持ちつ持たれつなのだと、友人がうまいことを言っていました。何かを与えれば、必ず何か返ってくるということです。伴侶や子供が与えてくれるような経験が友情からは得られないことは分かっていますが、天の御父が、御自分のすべての子供たちを愛しておられることもわたしは知っています。人生でどんな状況にあろうとも、愛され、受け入れられていると感じることはできるのです。■



## 「教会員であること、また自分の標準を守ろうとしていることで、あざけられたときには、どのように対応すればよいでしょうか。」

# キ

リストの光があることで、神の子供たちは何が正しく、何が間違っているかを知っています。しかし残念なことに、正しいと知っていることを無視して、正しい選択をしようと努力している人をばかにすることを選択する人たちがいます。そのような人には、できるときはいつでもあなたの証を伝え、福音の標準を守ることのできた祝福を話してみてください。

あざけられたときにどのような態度を執るかで、あなたや教会に対する人々の見方が変わります。決して、言い争ったり、怒りや不親切な態度で反応したりしないでください。相手の言葉に反応せず、ただ彼らを愛して彼らのために祈りなさいと言われた救い主の勧告に従うことが必要な場合があります(3 ニーフай 12:44 参照)。「言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範」にならなければならないことを覚えておきましょう(1 テモテ 4:12)。

最後に、福音の証を恥じないでください(ローマ 1:16 参照)。あなたの毅然とした模範は周囲の人々に対して、福音が真実であることの力強い証となります。寛大で自信に満ちた態度で自分が信じることを守る姿は、正しいことをする勇氣に欠けている人々を強めることもできるのです。

### 信じていることを説明する



以前、わたしはバスケットボールチームに入っていて、試合はいつも土曜日にありました。でも日曜日に試合があるときは参加せず、そのことでチームメートにからかわれていました。日曜日に出ない理由を聞かれて、わたしはこう答えました。「ぼくは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員で、安息日は聖く過ごすように、そしてスポーツはしないように教えられているんだ。神様はぼくたちに最良の祝福を与えたいと望んでおられるって知っているから、福音の原則を守っているんだ。」その後は、チームメートもわたしの信仰を尊重して、からかわなくなりました。

ニコラス・B, 19歳 (アルゼンチン, コルドバ)

### 彼らのために祈る

信じていることをばかにされれば、悲しくなります。でもわたしは、からかっている人たちは福音の祝福を逃しているということを忘れないようにしています。それで天のお父様に、彼らの心を変えて福音の大切さを理解で

きるよう助けてくださいと祈っています。わたしが良い模範となるような生活を送ることで、彼らが変わるのに役立つことを知っています。

イタオボン・O, 20歳 (ナイジェリア, リバース)

### 恥じてはいけません

あなたが教会員だからということであざけられたら、自分には教会の証があり、教会に行くことが好きだ、と伝えてみましょう。天のお父様を近くに感じることを話してください。正しいことを言うのを恥ずかしがったり、怖がったりしないでください。

ローラ・A, 12歳 (ドイツ, ヘッセ)

### 優しく話す



ぼくは、クリスチャンが持つべき勇氣と、教会に反対する人たちに対して怒りではなく、愛をもってこたえることについてのロバート・D・ヘイルズ長老の話を読みました。<sup>1</sup>

あなたが相手を心にかけていることを示すなら、ほとんどの人は、あなたにつらく当たることはしなくなるでしょう。いつも人には尊敬と愛をもって接しましょう。その態度がそのままあなたに返ってくるからです。標準に反することをするように言われたら、落ち着いてこう言ってください。「わたしは末日聖徒の教会の会員で、そうすることがよいとは思いません。」それだけでなく、自分の標準に反しない、別の活動を提案することもできます。

ルーカス・H, 15歳 (アメリカ合衆国アリゾナ州)

### 良い友達になる

わたしがまず思うのは、主の模範です。主が御自分の命をわたしに与えてくださったとき、主には、その苦しみに値するような過ちも理由もありませんでした。その次に、ジョセフ・スミスの模範を思い浮かべます。ジョセフ・スミスは、どうし



たら強く、勇気を持てるか知っていました。ですから今日、わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることを誇りに思います。第3に、人にはいつも親切にして、奉仕することで自分の信念を守ることです。相手にとっていちばんの友人と模範であることによって、愛を示そうと思います。福音の原則に従うことで得られる祝福を示します。何といても、わたしたちは皆、愛と憐れみに満ちた御父の子供なのです。

オーガステ・R, 15歳 (フランス領ポリネシア、タヒチ)

### あなたの光を輝かせなさい



覚えておくべきことは、なぜ、だれのために標準を守っているのかということです。救い主の模範をいつも心に留めていれば、柔らかな態度で、争う気持ちを持たず、自ら選択して守っている標準を恥じることなく、そのような状況に耐える備えができます。このように振る舞うとき、わたしたちは人々の前に光を輝かして、それによって人々はわたしたちの善い行いを見て天におられる御父をあがめるようになります(マタイ5:16参照)。

ララ・M, 21歳 (ブラジル、パライバ)

### 証を述べる



以前通っていた大学で、わたしが教会員であるという理由でしつこく質問してくる若い男性がいました。いつも論争を仕掛けてくるその人を、わたしはただ避けようとしていました。ある日、わたしは彼に証しました。すると彼は嫌がらせをしなくなったのです。わたしたちはいつも確固とした態度を保ち、どのように証を得てきたのかを忘れてはなりません。人が何を言おうと、どう考えようと、わたしたちは自制して対応すべきです。

そうすれば聖なる御霊がいつもともにいて、わたしたちを強くしてくださるでしょう。彼らもいつかイエス・キリストを受け入れることができるように、彼らのために祈りましょう。

プレスカ・E, 21歳 (チリ、バルパライソ)

### 教会の友達と話す



わたしは、祝福師の祝福を読むことが大きな助けになることを知りました。祝福文を読むことで、自分がどのような存在か、また、自分の長所や短所が何かをよく理解できるようになります。そうすれば、このような試練に対してもっとうまく対処できるようになります。わたしには、親しい教会員の友達は何人しかいませんが、その二人とは試練への対処の仕方についてよく話をします。これはあなたにとっても絶対に役に立つと思います。この問題に対する良い方法がもう一つあります。それは、親切にして、すべての行いにおいて模範となることです。人の気持ちを力づくで変えることは絶対にできません。教会があなたにとってどれほど大切であるかを示すいちばんの方法は、親切であって、すぐに怒らないようにすることではないでしょうか。

ウィリアム・L, 17歳 (アメリカ合衆国ネバダ州)

### 次回の質問

「神を見ることなどだれにもできないと言う友達に対してどのように答えたらよいでしょうか。」

注

1. ロバート・D・ヘイルズ「クリスチャンらしい勇気——弟子としての犠牲」『リアホナ』2008年11月号, 72; "That Is Christian Courage," *New Era*, 2009年7月号, 2参照



言い返してはいけません

「信仰を問題視されたり批判されたりするのは、この世の大きな試みの一つです。そのよ

うなときに、議論に備えて強気の構えをしなくなるかもしれません。しかし、そのようなときこそ、思慮深くあり、祈り、救い主の模範に従う大切な機会なのです。……報復しないで、もう一方の頬を向け、怒りを抑えるとき、わたしたちも救い主とともに立っているのです。主の愛を示すことは、反対者の心を和らげ、非難してくる人に非難せずに応じる唯一の力です。それは弱さではありません。それこそクリスチャンらしい勇気なのです。」

十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ長老  
「クリスチャンらしい勇気——弟子としての犠牲」  
『リアホナ』2008年11月号, 72

あなたの意見を聞かせてください。2010年9月15日必着で下記まで郵送か電子メールでお送りください。

Liahona, Questions & Answers 9/10  
50 E. North Temple St., Rm. 2420  
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA  
電子メールアドレス—— [liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org)

掲載される際、誌面の都合上、あるいは明瞭な表現にするために編集されることがあります。

電子メールまたはお手紙には、以下の情報と署名入りの許可文を必ず明記/同封してください。(1)氏名、(2)生年月日、(3)ワードまたは支部、(4)ステークまたは地方部、(5)意見と写真の掲載を許可する、あなた自身の署名(18歳未満の場合は、保護者の署名)。

# おはよう

「元気にしていれば、  
日没の空をいつも日の出の空に変えることができますでしょう。」

十二使徒定員会  
マービン・J・アシュトン長老（1915 - 1994 年）  
「元気を出しなさい」

『聖徒の道』1986年7月号, 67





# 教義と聖約 1:38

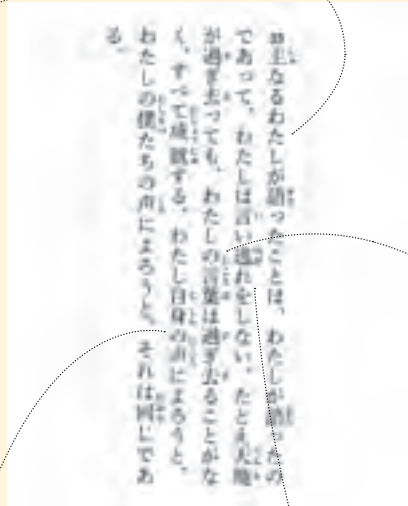
神からの啓示について

聖文が教えていることが幾つかあります。

## 主なるわたしが語ったこと

神からの啓示について聖文が教えていることが幾つかあります。

- 人は神の口から出る一つ一つの言葉によって生きる (申命 8:3; マタイ 4:4; 教義と聖約 98:11 参照)。
- 「預言がなければ民はわがままにふるまう [。]」(箴言 29:18)
- 主は預言者にその隠れたことを示さないでは、何事をもなされない (アモス 3:7 参照)。
- 神は教えに教え、訓戒に訓戒を加えて、それを人の子らにお与えになる (2 ニーファイ 28:30; 教義と聖約 98:12 参照)。



- 何であろうと、神の僕が<sup>しもべ</sup>聖霊に感じて語ることは、主の声となる (教義と聖約 68:4 参照)。



## わたしの言葉は過ぎ去ることがない

主の預言者によって語られる預言と祝福は、いつも人が願う時や方法どおりに成就するわけではありません。思いがけないときに、思いがけない方法で成就した預言や祝福の例を幾つか考え、あなたの生活の中でこの原則がどのように当てはまるかを日記に書いてください。



## わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと

「兄弟姉妹、神の預言者がわたしたちに与えられているのは、決してささいなことではありません。預言者を通して与えられる主の御言葉に耳を傾けるならば、わたしたちには偉大ですばらしい祝福が与えられます。……教会の預言者の言葉を通して示される主の勧告を聞いたなら、わたしたちは前向きに、即座に従う必要があるのです。いにしへのニーファイがそうであったように、預言者の勧告に従うとき、安全と平安、繁栄と幸福がもたらされることは、歴史から明らかです。『わたしは行って、主が命じられたことを行います。』(1 ニーファイ 3:7)」

十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード長老  
「彼の言葉を受け入れなければならない」『リアホナ』2001年7月号, 80



## わたしは 言い逃れをしない

「人々にあざけられ、敵の侮り、冷笑家のさげすみを受けるとき、わたしの心の中に、全能者のこのすばらしい御言葉が思い浮かんできます。主は自ら語られたことや行われたことに対して、言い逃れをなさるような御方ではありません。主の約束、預言はすべて果たされ、成就されます。」

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長 (1910 - 2008 年)  
「神の方式と御旨」『聖徒の道』1989年8月号, 3

編集者注 — このページの目的は、聖句の完全な解釈を示すことではありません。このページを参考にして各自で学習を深めてください。

# 主は彼をわたしたちが通る

だれがわたしたちのメッセージを聞く準備ができているのかわたしたちには分かりません。ですから、出会う人たちに福音を伝える必要があるのです。

ジョニ・ラーセン・マーシャル

**台** 湾台北市シリンのある暖かい晴れた日、同僚のバーハゲン姉妹とわたしは自転車で会員の家に向かっていました。にぎやかな道路はいつものように渋滞していて、様々な方向に向かう車やスクーター、自転車でいっぱいでした。

わたしはいつものように、ほかの車が通れるように路肩すれすれに走っていました。突然、何かにぶつかり、地面に放り出されました。見上げると、しきりに謝っている男性が目に入りました。その人は道の端に止めた車の中にいたようでした。彼が外に出ようとドアを開けた瞬間、わたしはそのドアに激突しました。わたしは彼のことが見えておらず、彼もわたしを見ていなかったのです。

右脚を見ると、衝突したために大きくへこんでおり、はれ上がってあざができています。すぐ後にいた救急車が止まると、わたしはその場で診察を受け、そのまま病院に運ばれました。骨折の有無を診るためにレントゲン検査が行われました。加害者の男性もわたしを心配して病院まで来ていました。

レントゲンの結果を待つ間、バーハゲン姉妹とわたしは、その男性、チャン・ウェイと話をしました。彼は何度も何度もわたしに大丈夫ですかと尋ね、このようなことになったことを謝りました。わたしも謝り、けがをしたのが片脚だけだったのは幸いだったと伝えました。

チャン・ウェイは大学でバイオリンを勉強している学生でした。しばらく話をした後で、わたしたちは言いました。「無理にとは言いませんが、もしメッセージをお聞きになりたいのなら、あなたが長老たちと会っていただけるように計画したいのですが。」彼は一瞬ためらいましたが、すぐに同意してくれました。わたしたちは連絡先を交換し、彼が長老たちと会う時間を設定しました。

レントゲンの結果が出ました。幸いにも脚は折れていませんでした。ただひどく痛んで、不格好になっていただけでした。

その週の後半、長老たちがチャン・ウェイと会ったことをクリドル長老から聞きました。レッスンは順調に進み、2週間後、彼が2度教会に出席

してバプテスマを受ける計画が進んでいることが分かりました。とてもうれしくて、興奮しました。

2002年4月27日、チャン・ウェイはバプテスマを受けました。天母ワードでいちばん新しい会員となったのです。別のワードへ転任していたわたしはバプテスマ会には出席できませんでしたが、とてもよいバプテスマだったと聞きました。

その後、彼にバプテスマ面接をした宣教師のパッカー長老と会いました。パッカー長老は彼に、なぜレッスンを聞き始めたのか、そしてなぜバプテスマを受ける決心をしたのかと尋ねたそうです。するとチャン・ウェイは、彼に対するバーハゲン姉妹とわたしの態度に感銘を受けたからだと答えました。わたしたちが彼に親切で、事故のことを怒らなかったことで、この教会が真実の教会であるに違いないことを知ったと言いました。その後レッスンの中で御霊を感じ、証を築くことができましたのです。

チャン・ウェイが備えられていた人であったことに心から感謝しています。



# 道に置かれました

彼が車の外に出ようと  
ドアを開けた瞬間、  
わたしはそのドアに  
激突しました。  
わたしは彼のことが  
見えておらず、  
彼もわたしを  
見ていなかったのです。



彼が御霊の促しに従ってバプテスマを受け、今、イエス・キリストの福音を手に行っていることをうれしく思います。

あの日、天の御父がわたしが通る道にチャン・ウェイを置かれたことを

わたしは知りませんでした。彼が福音を聞く用意ができていたことを知りませんでした。でも、わたしたちはいつでもキリストの弟子として、キリストがなさるであろうことを行う努力をす

る必要があることをよく知っています。福音を聞くようにと主がだれを備えておられるのか、わたしたちには分かりません。ですから出会う人たちに福音を伝えることが必要なのです。■

# セミナーを取る？ それともスポーツ？

もはやバランスが取れていませんでした。  
これ以上、教会と学業とスポーツを  
平行してこなし続けることはできませんでした。

カロリーナ・テノリオ・ピカード

**高**校に入ったとき、わたしは学校の運動部に入りました。陸上が好きでした。わたしは9歳のときから走っていて、熱心に練習していました。少なくとも週3日は夕方の練習に参加しました。コスタリカの全国大会で町を代表して出場したこともありました。

練習で夜遅くなることがよくありました。おかげで朝5時からのセミナーに間に合うように起きるのがさらに難しくなりましたが、犠牲を払い続けました。

ところが高校生活も半分を過ぎた16歳のとき、自分がセミナーに真剣に取り組んでいないことに気づきました。出席していましたが、本来よりも睡眠や準備、注意力が欠けていました。夜遅く寝て早朝に起きることで疲労がたまり、運動能力にも影響が出ていることも知っていました。そんな状態ではチームに迷惑がかかります。

多くの活動に参加し、その時点まで教会と学業とスポーツをうまくこなしてきたものの、もはやバランスが取れていませんでした。何かをあきらめる必要があるのだろうかと思いはじめました。陸上は健全で健康的であり、得意なことでした。自分の才能を伸ばし、自制を

学ぶ機会となっていました。我が校では運動選手であることは荣誉あることでした。チームには良い友達がいたので、退部した後、疎遠になるのが残念でした。

一方で、セミナーを卒業するという目標も掲げていたので、チームに残った場合、セミナーを卒業できないだろうと思いました。

二つの選択肢をはかりにかけながら、生活のあらゆる面で、すなわち高校時代と残りの生涯の両方において最も有益なものはどちらだろうと考えました。自分の長期的な目標について思い巡らしました。そして、セミナーに取り組む態度がわたしの残りの人生に、実に永遠にわたって影響を及ぼすことに気づきました。こうして自分のなすべきことが分かりました。

高校2年の終わりに、わたしはコーチやチームメイトに陸上を辞めることを告げました。彼らは衝撃を受けました。それまでの人生の半分をささげてきた大好きな陸上競技を「朝5時に教会に行くために」あきらめることをだれも理解できませんでした。わたしは彼らに、それがわたしの義務であり最優先事項であって、





正しい選びをすることによってさらに幸福になれると説明しました。幸い、わたしの選択を理解できなくても、ほとんどのチームメートは敬意を示してくれました。

その後の2年間、わたしは聖典を読み、深く考える時間をもっと持つことができるようになりました。あまり時間に追われることがなくなったので、もっと頻繁に靈感を受けられるようになりました。すると、かつてないほど生活の中でバランスが保て、また平安、幸福を感じました。

高校の終わりにセミナーを卒業しました。卒業できたことはわたしにとって大きな意味がありました。聖文と聖文の物語、教訓を好きになり、朝早く起きることで自制を学び、毎朝1時間を友達とともに過ごすことではぐくまれた、よい友情に恵まれました。しかし、何よりもセミナーを通して主を常に第一にすることを学びました。

そのことは大学に進学した今も祝

福となっています。高校のときよりも授業が難しくなりました。教会で果たす責任が増えました。しかし、主を第一にする習慣を身に付けたおかげで、正しい優先順位をつけやすくなりました。この優先順位を生涯ずっと持ち続けたいです。■



### 優先順位をつける

「……時間をどう過ごすか選択するうえで、単に良いことのために利用できる時間を使い切ってしまう、より良いことや最も良いことを行う時間がなくならないように気をつけなくてはなりません。」

十二使徒定員会  
ダリン・H・オークス長老  
「良いこと、より良いこと、最も良いこと」  
『リアホナ』2007年11月号、105

# 一人のために、 みんなのために

ドイツ・フランクフルトステークの青少年は団結する方法を知っています。  
しかし、必要なときには独りでも立つことができます。

教会機関誌

デビッド・A・エドワーズ

**ド**イツ・フランクフルトステークのシャルロッテ・パウマンは、ステークで行われたユースカンファレンスの終わりに、証をしようと立ち上がりました。彼女が語った経験は、ほかの10代の若人が共感できるものでした。

「生物学の授業で人体へのアルコールの影響について話していました。わたしは、アルコールは毒、すなわち神経を侵す毒であって、人がそれを飲むのはそれが楽しいと思込んでいるからだと言いました。クラスみんなは理解してくれませんでした。そこで、わたしの意見を述べると、どうしてそう思うのか尋ねられました。ある男子は、『君はモルモンと同じように考えているのか』と尋ねました。わたしは『だって、わたしはモルモンだもの』と言いました。初めは信じてくれず、おもしろかったです。」

それから次々と質問され、休み時間になってからも廊下で質問に答えていると、シャルロッテはあることが頭をよぎりました。「携帯用の『若人の強さのために』を持っていることをふと思い出したのです。みんなに回して、読んでもらいました。そのとき何人かの子は理解してくれたようでした。一人でも二人でも良い影響を及ぼせればと思います。」

シャルロッテのように、ドイツ・フランクフルトステークのほかの青少年もユースカンファレンスやその他の活動に参加して、経験を分かち合うのをいつも楽しみにしています。ほとんど

の子は普段から、独りでしっかりと立たなくてははいけません。そのため、活動では皆が集まり、楽しい時間を過ごし、霊的に強め合うのです。

## ともに団結する

青少年は皆、ドイツ・フランクフルト神殿の近くで開かれたユースカンファレンスで得た最大の実は、福音を学び、神殿に参入し、証を述べることによって受けた霊的な高揚だと口をそろえて言います。

ベンヤミン・ユーリックは、青少年が団結する必要性を感じています。「ぼくたちは共同体で、とても邪悪な



シャルロッテ——  
「『若人の強さのために』を持っていることをふと思い出したのです。みんなに回して、読んでもらいました。」







ベンヤミン・U —  
「主の業のために青少年として地上でともに闘っていることは、とても美しいことだとぼくは思います。」

アイダ —  
「友達を選ぶときは、自分にとって模範となるほんとうの友達を選ぶ必要があると思います。友達と一緒に神殿に行き、そこで一緒に霊的な経験をします。」

ドラーは語ります。「亡くなったたくさんの人々を助けているからです。すべてのことが神殿への道の通過点なので、神殿はいつもユースカンファレンスの頂点なのです。」

### 独りで立つ

青少年が互いから得る力は各自の福音の証を増し加えてくれます。時々、その証は学校生活やそのほかの場で試されます。教会の標準を擁護しなくてはならないことは日常茶飯事です。

「ぼくは学年で唯一の教会員です」とヨナタン・フィンゲールレは言います。「だから、今はどこへ行ってもいつも『モルモン』として見られています。福音を信じている人が一人もいない倫理の授業で、クラスメートの前で教会について話し、証を述べる機会がありました。よかったことは、授業の後、休み時間になってからも何人かが質問をしに来たので、ぼくの証を心から伝えられたことです。」

教会の標準を守っていると、孤独を味わうこともあります。フィンセント・ニューサムはしばしば、純潔の律法を守るために孤立することがあります。「学校の友達はぼくが純潔を守っていることを不思議に思っています。彼らは純潔と無縁の生活をしていて、早い

時代に闘う同志です。学校に行くと、あらゆる方向から傷つけられます。邪悪な影響力は至る所にありますが、ユース（青少年）の仲間が心の支えとなっています。主の業のために青少年として地上でともに闘っていることは、とても美しいことだとぼくは思います。」

アイダ・ユーリックは教会の友達について考えるとき、神殿についても考えます。アイダのワードは神殿から遠くないため、定期的に死者のためのバプテスマを受けます。「友達を選ぶときは、自分にとって模範となるほ

んとうの友達を選ぶ必要があると思います。友達とは一緒に神殿に行き、そこで一緒に霊的な経験をします。」

「死者のためのバプテスマを行うのは良いことです」とミハエル・フィー



ミハエル —  
「すべてのことが神殿への道の通過点なので、神殿はいつもユースカンファレンスの頂点なのです。」



ヨナタン——  
「ぼくは学年で唯一の教会員です。だから、今はどこへ行ってもいつも『モルモン』として見られています。福音を信じている人が一人もいない倫理の授業で、クラスメートの前で教会について話し、証を述べる機会がありました。」



時期から両親に違うことを教わってきたからです。娘が14歳になると婦人科医に連れて行って、避妊薬を処方してもらおう母親さえいます。」

しかし、フィンセントは主の戒めを守ることから得られる力を知っています。「純潔の律法に従って生活することで強くなれます。負けてしまうことは簡単ですが、何の得もありません。なぜなら、誘惑に負けて世の人が普通だと思っていることをしてしまうと、世の流れに飲まれて自分の行動についてあまり考えなくなるからです。純潔を守る方が良いことを知っています。そうでなければ落ちて行くだけですから。」

教会の標準を守ると、敵を味方に

変えられることがあります。入学したとき、カーリーナ・シュルツはほかの生徒からいじめられ、悪口を言われました。「ほかの人は、わたしに宗教と標準があること、そしてたばこを吸わず、アルコールも飲まないことを受け入れられませんでした。でも、初めはそれを許せなかった彼らも、幸いなことに4年後の今は受け入れてくれ、わたしの標準をカッコいいと思っています。わたしを心から応援し、ほかの子から守ってくれます。」

### 力を見いだす

力は様々な方法で得られます。ベンヤミン・ルンバツハは、好きな聖句のニーファイ第一書第3章7節から力を得ています。「ここはニーファイの決意の固さと福音に対して抱こうとしていた勇気を教えてくれます。戒めに従順になる力や、より上手に誘惑に打ち勝つための力が必要なときに助けてくれます。自分が守りたいと思えば、すべての戒めを守れることを知っています。」

シャルロッテ・パウマンの場合、携帯用の『若人の強さのために』から力を得ました。「どうやって説明すべきかわからないことがあっても、そこには青少年に関係のあるすべてのテーマについて何かしら載っています。だ

から、とても助けになっています。周りから変わっていると思われたり、理解したりしてもらえなくても自分の原則を擁護することが大切であることを確かに知っています。そのおかげで、強くなることができています。」

アイダ・ユーリックはユースカンファレンスに参加したり神殿に参入したりすることで、力を感じ勇気づけられます。「聖霊をよく感じます。ユースカンファレンスでは御霊がともにいて、神殿の中でも肌で感じるすることができます。イエス様に感謝しています。また主のもとへ戻りたいです。」

カーリーナ・シュルツの場合、確固と

ドイツ、フランクフルトの近く、フリードリヒスドルフから見た風景。



フィンセント——  
「学校の友達にぼくが純潔を守っていることを不思議に思っています。彼らは純潔と無縁の生活をしていて、早い時期から両親に違うことを教わってきたからです。」





カリナ——  
「たくさんの誘惑に取り囲まれても、決してあきらめてはいけなかったことを知りました。」

した態度と祈ることで強くあり続けることができました。「たくさんの誘惑に取り囲まれても、決してあきらめてはいけなかったことを知りました。落ちて行かないように確固として、神の言葉にしっかりとつかまらなければなりません。教義と聖約第 88 章 126 節には常に祈るべきだとあります。問題があるときや、助けが必要なときには答えを受けます。」

みんなでいるときも一人のときも、ドイツ・フランクフルトステークの青少年はイエス・キリストの福音の中で強くなっています。そしてその強さは、一生大きな助けとなるでしょう。■



## 伝道に備える

フランクフルトの若い男性たちは将来伝道に出ることについて、またどのように伝道に備えるかについて考えています。パスクワレ・ピケットはこう語ります。「ぼくは学校を出たら伝道に出ます。どこに行くか、どの国に行くか分かりませんが、人に話しかけ、教会に興味がある人を見つけることに備えなければなりません。いちばん大切なのは、祈りと信仰です。」



パスクワレ

ベンヤミン・ルンバッハもいろいろな面で準備しています。「クラスメートはぼくが教会に行っていることを知っていて、質問してくることがあります。いつもはつきりと証を述べるわけではありませんが、そうするときもあります。宣教師と一緒に街頭で福音を紹介する活動をしたこともあります。楽しかったです。」

最も大事なものは霊的な備えだとベンヤミンは言います。「強い証を得てそれを述べ、福音の中で喜びをはぐむ必要があります。そしてそれを人に見せると、彼らは『彼は幸せそうだ。わたしも彼のようにになりたい。彼には特別な何かがある』と言ってもらえるからです。」



ベンヤミン・R

備える中で、ベンヤミンは伝道に関連ある経験をしました。そのときのことについて彼はこう語ります。「帰りの列車で座っていたとき、ぼくは近くに座っていた乗客と話始めました。彼女に福音について話しながら、教会がどのように回復されたか説明するのにジョセフ・スミス—歴史第 1 章 15 – 24 節の聖句が思い浮かびました。彼女に聖句を読み聞かせていると、ぼくの目に涙が浮かび、自分が話していることはとても特別なことだと感じました。彼女もそれを感じたようでした。そのことについて後で一緒に話したいとどちらも思ったのは確かです。いずれにしても、ぼくの証を、特に回復についての証を強めてくれる経験でした。」



ジョセフ・スミス—歴史第 1 章 15 節で最初の示現について読むことは、ベンヤミンが回復について説明する助けになりました。

「わたしは光を見た」ジョン・マクナトソン画



# ぼくたちは みんな くつつを はいている

サラ・カトラー、  
ライアン・ジョンソン  
実話をもとに書かれました。

「主なる神は理解力に光を  
おあたえになる……。  
主なる神は、人々が理解できるように  
かれらの言葉にならって語られる。」  
(2 ニーフアイ 31:3)

ライアンが新しく引っこし  
て来たところには、様々  
な国から来た子供たち  
が住んでいました。子供たちはオ  
ーストラリア、カナダ、エジプト、イングラ  
ンド、インド、クウェート、メキシコ、サ  
ウジアラビア、スコットランド、アメリ  
カ、そしてベトナムから来ていました。  
ライアンはいろいろな国から来た  
人たちがいておどろきましたが、公

園にいる子供たちのほとんどが同じ  
言葉で話す人として遊んでいないこ  
とに気づきました。どうしてみんな  
は、どこから来たかとか、どの言葉  
を話すかとかに関係なく、一緒に遊  
ばないのかライアンは分かりません  
でした。時々、別の国から来た子供  
たちに意地悪をする子供たちもいま  
しました。ライアンはそれを悲しく思っ  
ていました。

ライアンは何ができるかとあれこ  
れ考えましたが、なかなかいいアイ  
デアが思いつきませんでした。友  
達になろうと言おうと思っても、み  
んなちがう言葉を話すので、通じな  
いのです。

ある日、ライアンの家族が散歩し  
ているときのことでした。普段意地  
悪をしている男の子たちが何人か  
外に出ていました。その中の一人  
はサッカーボールを持っていました。  
ライアンもサッカーは大好きでした。





ゆうきを出して、ライアンは男の子たちのところまで歩いて行きました。ライアンはその男の子たちの言葉を少し知っていて、男の子たちもライアンの言葉を少し知っていました。ライアンと男の子たちは、がんばっておたがいの言葉で話そうとしているうちに、笑顔になり、笑い出していました。そこでライアンはサッカーボールを指して言いました。「ぼくと一緒にサッカーしない？」ライアンは男の子たちが分かるようにゆっくり話しました。そして満面のえみをうかべました。

男の子たちはまずライアンを見て、その後おたがいに顔を見合わせました。そしてしばらく話し合いましたが、何を話しているかライアンには分かりませんでした。少しすると、男の子たちはライアンの方を向いてうなずきました。ライアンはにっこり笑い、みんなで近くの公園に

走って行きました。ライアンが英語を話す友達たちに手をふると、ちょっとはずかしそうにしながらも近づいて来ました。一人の男の子がボールを置き、試合が始まりました。しばらくした後、ライアンはちょっと休憩して、水を飲むために家に走って行きました。

「みんなどうしてる？」お母さんは聞きました。

「最高だよ！」ライアンは言いました。「聞いて、ママ。ぼくたちはみんなくつをはいているんだよ。」

「くつ？」お母さんは聞きました。

「そう、ぼくたちはみんながっているけど、みんなくつをはいているんだ。サッカーするのに必要なのはそれだけなんだよ。」

「いいところに気づいたわね。」お母さんは言いました。「あなた

たちはみんな天のお父様の子供で、自分たちが思う以上におたがいが似ているのよ。」

ライアンはドアを飛び出すと、新しい友達に手をふり、また遊ぶために走って行きました。

その日から、近所の子供たちは毎週木曜日、一緒にサッカーをするた



**わ** たしたちは人々に親しい交わりの手をのべなければなりません。もっと親切(に)……ならなければなりません。」

ハワード・W・ハンター大管長(1907 - 1995年)  
『最も優れた道』『聖徒の道』1992年7月号, 66

めに公園に行きました。どの言葉も話そうと、どこの出身だろうと関係ありませんでした。みんなくつをはいていたのです。それで十分だったのです。■

バービー・ミランダ、ジョージ・ミランダ  
実話をもとに書かれました。

# 10才の先生

「わたしはあなたがたをわたしの手に使われる者として  
多くの人を救おう。」(アルマ17:11)

**車**での長い旅が終わると、チャンスは親戚のおばさんの家へかけこんで行きました。チャンスとチャンスのお母さんと弟はおばさんの家に行くのを楽しみにしていたのです。「こんにちは、バービーおばさん！」チャンスはおばさんにだきつきながら大きな声で言いました。「ねえ、クレヨンとはさみを持ってない？」

バービーおばさんにはにっこり笑い、チャンスは台所のテーブルに着かせてクレヨンとはさみをわたしました。

バービーおばさんは夕飯の支度をしながら、チャンスのやっていることをちらっと見ました。「何をかいているの、チャンス？」おばさんは聞きました。

「初等協会でもらった絵に色をぬっているんだよ」とチャンスは言いました。チャンスは白黒の絵にあざやかな色をていねいにぬっていききました。「夕飯の後、家庭の夕べをしてもいいかな？」チャンスは聞きました。「レッスンを教えたいんだ。」

「それはいいわね」とバービーおばさんは言いました。「ありがとうね、チャンス。」

夕食の後、バービーおばさんはルームメイトを家庭の夕べにさそいました。ルームメイトは教会員ではありませんでしたが、その家族の集まりに興味をもっていました。

チャンスはレッスンの初めに「わたしたちはどこからやって来たのでしょうか」とたずねました。その後、

それまで色をぬっていた霊界の絵をみんなに見せました。そしてほかにもいろいろ質問をして、天のお父様の計画についての色とりどりの絵を見せました。最後に、チャンスはこう聞きました。「だれかこの計画の名前を知っている人はいますか。」

「知らないわ。どんな名前なの？」とバービーおばさんのルームメイトは言いました。

「救いの計画です」とチャンスはにっこりほほえみながら言いました。「救いの計画のおかげでぼくたちはみんな、家族と永遠にいられます。」

レッスンの後、バービーおばさんはチャンスと呼んで言いました。「チャンス、わたしのルームメイトに天のお父様の計画のことを教えてくれてありがとう。」

チャンスは少しの間だまっていた。そしてしばらくしてからこう言いました。「何か不思議な気持ちができるんだけど、何でなんだろう。あつたかくて、幸せな気持ちができるんだ。」

「あなたが教えたことが真実だっていうことを、聖霊があなたにあかしているのよ」とバービーおばさんは言いました。「きっと天のお父様はあなたのことをとても喜んでくださっているわ。」

チャンスは大きな笑みをうかべました。そして天のお父様の幸せの計画について教えることができたことをうれしく思いました。■

## 救いの計画

「10才の先生」の話の中で、チャンスは救いの計画について教えました。このページにある絵を見て、別の紙に自分で絵をかいてみましょう。かいたものを切りぬき、聖文を調べたら、救いの計画について家族や友達に話してください。または、家庭の夕べでそのことについて話していか両親に聞いてみてください。

### 救いの計画とは何ですか？

わたしたちは生まれる前、れいの子供として天のお父様と一緒に住んでいました。わたしたちは天のお父様の計画を受け入れたので、この地上に生まれ、肉体を持ち、ためしを受けることができるようになったのです。天のお父様は、ご自分の息子でありわたしたちの救い主であるイエス・キリストをつかわして、死に打ち勝ち、わたしたちの罪をあがなうようにしてくださいました。天のお父様の計画に忠実に従うことによって、わたしたちは天のお父様のところに帰ることができます(アブラハム3:23-28参照)。

### わたしはどこからやって来たのでしょうか？

わたしたちは前世で天の両親と一緒に住んでいました。悲しいことに、天のお父様の子供のうち3分の1は、天のお父様の計画を受け入れませんでした。かれらは当時ルシフェルと呼ばれていたサタンに従うことを選びました。ルシフェルはわたしたちが自分で選択できるようになることを望みませんでした。意見のちがいをめぐって天で戦いが起こり、ルシフェルとかれに従った人は追放されました。みなさんがこの地球上にいるのは、天のお父様の計画を選んだからなのです(黙示12:7-9参照)。



ぜんせ せいかつ  
前世での生活  
教義と聖約 138:55-56



わたしはどうして  
ここにいるのでしょうか？

この地球にやって来るとき、わたしたちは肉體を得て、家族と住み、天のお父様がわたしたちのために用意してくださった計画に従うときに喜びを得ます。ここにいる間、わたしたちは天のお父様のところに帰る助けとなる儀式を受けなければなりません。それには、バプテスマ、確認の儀式、若い男性の神権の聖任、永遠の結婚などの神殿の儀式があります。

わたしたちが天の家からはなれている間、正しいことができるように聖霊がわたしたちを導いて助けてくださいます(2ニーファイ32:5参照)。



復活  
教義と聖約 88:14-17

ちきゅう せいかつ  
地球での生活  
教義と聖約 59:23



死んだらどこに行くのでしょうか？

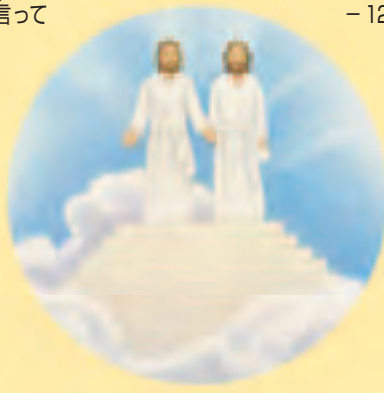
みなさんの体が死んでも、れいは生き続けて、霊界に行きます。霊界はすばらしいところで、ここでは、なくなった家族とまた一緒にになれるのです。預言者アルマは霊界のことを、義人のための「安息の状態、平安な状態」だと言っています(アルマ40:12)。

れい かい  
霊界  
教義と聖約 138:5-15



イエス・キリストのあがないによって、すべての人は復活します。復活とは、肉體とれいがまた一緒になることです。福千年と呼ばれる平和な時間が終わると、主がすべての人を裁き、ほとんどの人が3つの栄光の王国、星の栄え、月の栄え、そして日の栄えのうちの一つに入ります。イエス・キリストに反抗して戦い、聖霊を否定した悪い人たちは外の暗やみというところに送られてしまいます

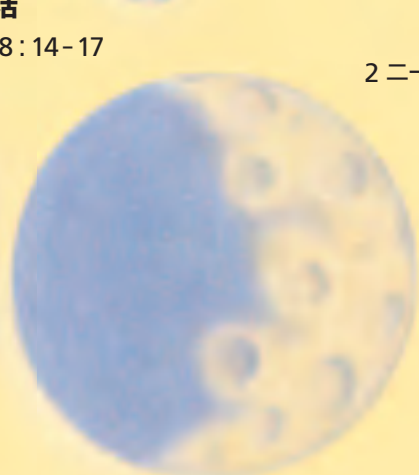
(2ニーファイ9:15, アルマ40:11  
- 12 参照)。■



最後の裁き  
2ニーファイ9:15-17



星の栄えの王国  
教義と聖約 76:98-102



月の栄えの王国  
教義と聖約 76:77-79



日の栄えの王国  
教義と聖約 76:50-53







# イエス・キリストは かみの おん子, そして きせきの かみです。

サンドラ・タナー,  
クリスティーナ・フランコ

**多**くの画家たちは  
イエス・キリストの  
絵をかくとき、  
イエス・キリストについての  
ちしきと しんこうや ぎ  
じゅつ、そうぞう力などを  
つかっています。このような  
絵を とおして イエスさま

にたいする しんこうや りかいを  
ふかめることができます。せいぶ  
んを 読んでいるとき 画家と 同  
じように そうぞう力をはたらかせ  
ると イエスさまの 教えを りかい  
しやすくなります。

新約聖書には イエスさまが ち  
きゅう上に いたときに 行われた  
きせきについての お話があります。  
そのうちの 一つに マルコによるふ  
くいん書だい4しょう 35せつから  
39せつのお話があります。その  
お話を 読んでください。そうしたら  
イエスさま そして イエスさまの  
でしたちと いっしょに ガリラヤの  
海で 船に のっている ところを  
そうぞうしてみてください。大きな  
あらしを そうぞうしてみてください。  
船は ゆれて 風は ヒューヒューと  
うなり声を 上げ、なみは おそい  
かかっています。あなたなら どんな  
ことを 考えたり、かんじたりするか  
そうぞうしてみてください。ここで  
でしたちが イエスさまを おこして  
いる ところを そうぞうしてくだ  
さい。しゅが おき上がって どん  
な声で 「しづまれ、だまれ」と



言ったか 考えてみてください。風が  
やんだとき、海のようには どうだっ  
たか、また、風と 海が イエスさまに  
したがったとき、でしたちが どれほど  
おどろいたか そうぞうしてみてください。

この お話を 読み それについ  
て 考えることで、イエス・キリストを  
もっとしんじることが できるよう  
になります。それは どうしてだと思  
いますか。

イエスさまが 行われた きせき  
についての 絵を かき、その 絵を  
つかって ほかの 人たちに 自分が  
学んだことを 教えるとき、わたし  
たちも 画家に なることができ  
ます。そして イエスさまに たい  
する しんこうと りかいをしめす  
ことができます。

## 2010年8月 せいぶん日記

2ニーファイ27:23を 読みま  
しょう。

イエス・キリストが「きせきのかみ」  
で あることが 分かるように 天の  
お父さまに おいのりしましょう。

2ニーファイ27:23を おぼえま  
しょう。

下の かつどうの中から  
一つを えらぶか、自分で  
考えた かつどうを しま  
しょう。

- ほかの人が 2ニーファイ  
27:23を おぼえるのを  
手つだいましょう。
- キリストが 行われた き  
せきについて せいぶん  
から べつのお話を

思いうかべてください。そのとき  
じっさいに どのような ようす  
だったか そうぞうしてみましょう。  
つぎに そのときに おこったことを  
絵に かいてください。そうしたら  
かていの夕べで そのお話と  
絵を しょうかいしてみましょう。

- 今月の せいぶんを おぼえて  
だれかに それを はっぴょうする  
ことによって、イエス・キリストに  
たいする あかしを 分かち合  
いましょう。
- 63ページにある 絵は イエスさ  
まが あらしを しずめる きせき  
を 行われた ばめんを ある画  
家が そうぞうして かいたもので  
す。絵を 切りとり、あつ紙に は  
りつけて ください。それを か  
ていの夕べや 友だちに お話を  
おし 教えるときに つかってください。

自分で えらんだ かつどうを す  
ることによって 2ニーファイ27:23を  
もっとよく りかいできましたか。

日記に 自分が したことを  
書きましょう。■







# エホバの たみを すくった おうひ エステル

ダイアン・L・マンガン

**エ**ステルは、どきどきしながら スサにある こうだいな きゅうでんに入<sup>はい</sup>って 行<sup>い</sup>きました。高<sup>たか</sup>いはし<sup>はい</sup>らには、うつくしいはたが かかげられ、大理石<sup>だいりせき</sup>の ゆかは、赤<sup>あか</sup>や 青<sup>あお</sup>、黒<sup>くろ</sup>、白<sup>しろ</sup>に 色<sup>いろ</sup>どられて いました。コップまで 金<sup>きん</sup>で 作<sup>つく</sup>られています。そして ごうかな ぎよくざに おうさまが すわっているの<sup>み</sup>が 見<sup>み</sup>えました。

そのころ アハシュエロス王<sup>おう</sup>が ペルシャぜんどを おさめていま した。王<sup>おう</sup>さまは、王<sup>おう</sup>くに すむ わか<sup>み</sup>くて ひときわ うるわしい むすめたちを きゅうでんに つれ て来<sup>く</sup>るよ<sup>う</sup>にとい<sup>う</sup> めいれいを出<sup>だ</sup>しました。新<sup>あた</sup>しい おうひを えらぶためです。エステルは、こ<sup>う</sup>うして あつめられた わか<sup>く</sup>うつくしい むすめ<sup>ひとり</sup>の一人<sup>でした</sup>。

エステルは、りょうしんが なく なった後<sup>あと</sup>、いとこの モルデカイに そだてられました。モルデカイは エステルに、ユダヤ人<sup>じん</sup>であることを きゅうでん<sup>なか</sup>の中<sup>なか</sup>で だれにも 言<sup>い</sup>ってはならないと 口<sup>くちど</sup>止<sup>ど</sup>めしま した。ユダヤの たみは エホバを

しんじていましたが、<sup>おう</sup>王<sup>おう</sup>さまは エホバを しんじてい<sup>な</sup>なかつた からです。

エステルを 見<sup>み</sup>た アハシュエロス王<sup>おう</sup>は、すべての じよせい<sup>なか</sup>の中<sup>なか</sup>から かのじよを えら<sup>あた</sup>らんで、新<sup>あた</sup>しい

おうひに しま<sup>し</sup>ました。エステルは、ごうかな ふくを き て、おうひの かんむりを かぶること<sup>に</sup> なりましたが、自<sup>じ</sup>分の 家<sup>いえ</sup>に 帰<sup>かえ</sup>ることも、じゆうに かみさまを れいはい<sup>し</sup>することも でき<sup>な</sup>く<sup>な</sup>って しま<sup>し</sup>ました。

モルデカイは、エステルの ぶ<sup>ぶ</sup>じを たしかめるために、毎<sup>まい</sup>日<sup>にち</sup> 王<sup>おう</sup>の 門<sup>もん</sup>の ところ<sup>ところ</sup>に やつて来<sup>き</sup>ました。ある日<sup>ひ</sup>、王<sup>おう</sup>さまの いちばん えらい 家<sup>け</sup>来<sup>らい</sup>である ハマンが モルデカイを 見<sup>み</sup>て、自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>に ひざまずくよ<sup>う</sup>に めい<sup>め</sup>じました。ところが モルデカイは その めいれいに した<sup>し</sup>が<sup>が</sup>おうと<sup>と</sup>しま<sup>し</sup>せん でした。モルデカイは かみさまに たいしてしか ひざまずくこと<sup>は</sup>は しない<sup>し</sup>と きめていたから<sup>です</sup>。

そのこと<sup>に</sup> ひどくはら<sup>を</sup>を 立<sup>た</sup>てた ハマンは、王<sup>おう</sup>さまに、ユダヤ人<sup>じん</sup>は ほうりつに した<sup>し</sup>が<sup>が</sup>わ<sup>わ</sup>ないの<sup>の</sup>で ころすべ<sup>き</sup>だ<sup>と</sup> う<sup>う</sup>た<sup>た</sup>え<sup>え</sup>ました。すると 王<sup>おう</sup>さまは、国<sup>くに</sup>中<sup>ちゆう</sup>の ユダヤ人<sup>じん</sup>を すべてころすよ<sup>う</sup>にとい<sup>う</sup> おふれ<sup>を</sup>を出<sup>だ</sup>した の<sup>の</sup>です。

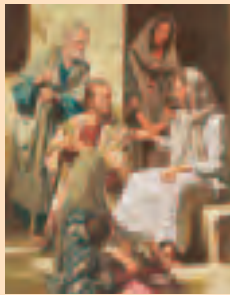
その おそろしい おふれ<sup>を</sup>を 知<sup>し</sup>った おうひ エステルは、モルデカイに 手<sup>て</sup>紙<sup>がみ</sup>を おく<sup>く</sup>って、ど<sup>う</sup>す<sup>す</sup>ればよ<sup>い</sup>か<sup>を</sup>を た<sup>た</sup>ず<sup>ず</sup>ね<sup>ね</sup>ました。

すると モルデカイは エステルに、ユダヤの たみの いのち<sup>を</sup>を すく<sup>く</sup>つて<sup>く</sup>れるよ<sup>う</sup>に 王<sup>おう</sup>さまに たのみ<sup>のみ</sup>なさいと つた<sup>た</sup>え<sup>え</sup>ました。エステルは とくべつな はたらき<sup>を</sup>を

## きゅうやくせいしよの かみ

**天**のお父<sup>とう</sup>さまである かみ<sup>かみ</sup>さまは、わたしたちの れい<sup>れい</sup>のお父<sup>とう</sup>さまです。天<sup>てん</sup>のお父<sup>とう</sup>さまは、いつも わたしたちを あいし、見<sup>み</sup>まも<sup>も</sup>って<sup>て</sup>く<sup>く</sup>だ<sup>だ</sup>さ<sup>さ</sup>い<sup>い</sup>ます。それ<sup>それ</sup>に たい<sup>たい</sup>して わたしたち<sup>は</sup>、天<sup>てん</sup>のお父<sup>とう</sup>さまを れい<sup>れい</sup>はいし、おい<sup>おい</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>を さ<sup>さ</sup>さ<sup>さ</sup>げ<sup>げ</sup>ます。

エホバとは、イエス・キリストの もう一つの 名<sup>な</sup>前<sup>まえ</sup>です。イエスさまは 天<sup>てん</sup>のお父<sup>とう</sup>さまの 長<sup>ちやう</sup>子<sup>し</sup> (い



ちばん上<sup>うえ</sup>の むすこ)です。天<sup>てん</sup>のお父<sup>とう</sup>さまは イエスさまに、せかい<sup>せかい</sup>を そうぞうし、人<sup>ひと</sup>人<sup>ひと</sup>が 自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>の みも<sup>も</sup>とに 帰<sup>かえ</sup>るよ<sup>う</sup>に たすけ<sup>たす</sup>け<sup>け</sup>なさいと おめい<sup>めい</sup>じに な<sup>な</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>した。エホバは、天<sup>てん</sup>のお父<sup>とう</sup>さまの みこ<sup>みこ</sup>ころ<sup>ころ</sup>に した<sup>し</sup>が<sup>が</sup>つ<sup>つ</sup>て 人<sup>ひと</sup>人<sup>ひと</sup>に 語<sup>かた</sup>り<sup>り</sup>かけ<sup>け</sup>られ<sup>れ</sup>ます。

きゅうやくせいしよの 中<sup>なか</sup>で、エホバは よく「しゅ」と あらわ<sup>あ</sup>され<sup>れ</sup>て<sup>て</sup>いま<sup>ま</sup>す。ベツレヘム<sup>ベツレヘム</sup>で お生<sup>う</sup>まれ<sup>ま</sup>れた<sup>た</sup>後<sup>あと</sup>、しゅは イエス・キリスト<sup>イエス・キリスト</sup>として 知<sup>し</sup>られ<sup>れ</sup>るよ<sup>う</sup>に<sup>に</sup>な<sup>な</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>した。

エステルの話<sup>はなし</sup>は、  
エステル書<sup>しよ</sup>  
だい2しょうから  
だい9しょうに  
記<sup>しる</sup>されて<sup>て</sup>いま<sup>ま</sup>す。

左「キリストと金持ちの若者」役人の一部(ハインリッヒ・ホフマン画) C. ハンソン「モロイ社の扉意」(より複製)

右「絵/サム・ローラー



## 親の皆さんへ

『旧約聖書視覚資料DVD』には、旧約聖書を教える際に役立つよう

300を超えるマルチメディアが取り入れられています。3枚一組になったセット(アイテム番号00492)



には、音楽やビデオ、表、教会指導者の話の引用文、子供向けの『旧約聖書物語』などが収められています。現在英語版、ポルトガル語版、スペイン語版が配送センターから購入できます。

するように  
さだめられていて、  
エホバを しんじるたみを  
すくうために おうひに えらばれた  
のだ というのです。

エステルは とても こわくなり  
ました。おさまから まねかれていな  
い人が かつてに おうさまに 会いに  
行こうものなら、たとえ おうひでも  
ころされてしまう おそれが あっ  
たからです。エステルは ゆうきと  
しんこうを ふりしほって 考えた  
すえに、すべての ユダヤ人に 自  
分と いっしょに 3日間 だんじき  
をするように よびかけてほしいと、  
モルデカイに たのみました。

3日後 エステルは おうひの  
ころもに みを つつんで、ぎよくざ  
のある へやの とびらの 前に

たちました。それを 見た アハ  
シュエロス王は、自分の ところに  
来て 話を するように かのじよ  
を まねき入れました。こうして  
エステルは、王さまと その家来の  
ハマンを、せいだいな しょくじ会に  
しょうたいすることが できました。

その会の せきで、エステルは  
王さまに、ハマ人が ユダヤ人を  
ころす計画を 立てていたことを  
つけました。そして 自分も ユダヤ  
人であることを うち明けたのです。  
ハマンのわるだくみを 知った アハ  
シュエロス王は ひどく はらを

た 立てましたが、いちど 出した  
おふれを 引っこめるわけにはいき  
ません。そこで、ただちに、新しい  
おふれを 手に した つかいを  
ロバやラクダに のせて 国中  
におくったのです。そのおふれには、  
自分たちを ころそうとする人  
にたいして ユダヤ人は 自  
分の いのちを まもるために たたか  
って おいと 記されていま  
した。こうして 多くの ユダヤ人の  
いのちが すくわれたのです。■

# だきしめられた ジェニファー

ジェニファー・リックス

じつわをもとに書かれました。

ジェニファーは しんしつ  
のドアをしめると、ベッドに  
み なげ出しました。  
そして ほおをつたう なみだを  
ぬぐい、 すすりなくのを ひっして  
おさえようしました。

たった今、おにいさんや おねえ  
さんと 口げんかをしてしまったの  
です。お父さんと お母さんは  
スーパーに 買いものに 出かけて  
いましたが、もう帰って来ないのでは  
ないかと さえ思いました。

ジェニファーは うちのめされた  
気分でした。できるだけ くちびるの  
ふるえを おさえようしましたが、  
心は ひどく しずんだままでした。  
「お母さんたちが いたら こんなこ  
とに ならなかったのに」と ジェニ  
ファーは 思いました。

そのとき、しょうきょうかいで  
おいのりについて 学んだことを  
思い出しました。「みなさんは  
いつでも おいのりするこ  
とが できます。楽しい  
ときも かなしいときも  
おいのりすると いい

ですよ」と しょうきょうかいの  
先生は 言っていました。

ジェニファーは ベッドの そばに  
ひざまずき、頭に もうふを かぶり  
ました。だれかが ドアを あけた  
ときに じゃまされたくなかったから  
です。もういちど なみだをふいて、  
うでを組み、おいのりを はじめま  
した。

「天のお父さま、今日 おにい  
ちゃんたちと けんかをしてしまっ  
たことを おゆるください。そして、  
どうか よい 気持ちに  
なれるように



「天のおん父は  
すべての まごご  
ろからの いのりに こ  
たえてくださいます。」

管理ビショップリック第二顧問  
キース・B・  
マクマリンビショップ  
「神は御自身のすべての  
子供たちを愛し、助けられる」  
「リアホナ」  
2008年11月号、76

たすけてください。イエス・キリストの  
み名により アーメン。」

すると、なきたい 気持ちもど  
こかに とんで行ってしまったでは  
ありませんか。きずついた 心は  
少しずつ あたたかく へいあんな気  
もちに かわっていきました。まるで  
だれかに だきしめられ、あいされて  
いるような よい 気持ちでした。

お父さんたちが 帰って来たときには、  
すでに おにいさんたちと なか直り  
をして、いっしょに あそんでいました。  
ジェニファーは 帰って来た お母  
さんの ところに 走って行き、  
お帰りなさいと 言って だき  
つきました。お母さんに  
だきしめてもらうのは、とても  
よい 気分です。でも もう  
しんぱいすることはありま  
せん。お母さんが 家  
にいないときでも、天の  
お父さまの やさしい  
あいを かんじることが  
できると 学んだから  
です。■

絵：シエラ・ソーンソン



# わたしたちのページ



アルマ・F, 11才 (コスタリカ)



**に**ちようびに  
きようかいの  
しゅうかいのあと、く  
るまで おかあさんや  
おにいちゃんたちと  
いっしょにいえに か  
えろうとしていたとき  
のことです。くるま

のかぎが みつからないのです。おとうさんは、ぼくたちのにもつを ぜんぶ くるまに いれてから、いもつとを ベビーカーに のせて、あるいて さきにかえていました。あちこち さがしてみましたが、かぎは みつかりません。ぼくは、しよとうきょうかいかていのゆうべで、たすけが ひつようなときはいつでも おいのりするようにと まなびました。そこで ぼくは おかあさんに、てんのおとうさまに たすけてくださるようお願いのりしようといいました。おかあさんはとても よろこんで、いっしょに おいのりしてくれました。すると とつぜん、おばあちゃんが くるまに のって かぎをもってきてくれたのです。おとうさんが うっかり かぎをもっていってしまったので、おばあちゃんが とどけに きてくれたということでした。ぼくたちを たすけるために、てんのおとうさまがおばあちゃんをおくってくださいました。てんのおとうさまは、いつでも ときには ほかの ひとを とおしてでも たすけてくださいます。

サムエル・K, 5才 (ドイツ)



ネオ・C, 4才 (フィリピン)

「わたしたちのページ」に 絵や しゃ  
**わ**しん、けいけんだんや あかし、手  
紙を おくりたい人は、けんめいの ところ  
に「わたしたちの ページ」(Our Page)  
と書いて、電子メールで おくってください。  
おくり先は [liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org) です。



**モ**ンソン大管長は世  
界中の子供たちに、  
困っている人を助けるよ  
うにと言いました。うちには  
7人子供がいるので、わた  
しは毎朝お母さんの台所の  
片付けを手伝っています。  
お母さんはとても喜んでく  
れます。お手伝いをするとな  
わたしは幸せな気持ち  
になりますし、お母さんも  
とても喜んでいてことが  
分かります。お母さんの手  
伝いをして、両親の言う  
ことをよく聞くようにす  
ると、モンソン大管長も  
イエス様もお喜びにな  
ります。

ミレーナ・L, 11才 (ブラジル, サンパウロ)

**ぼ**くは、よげんしゃ ジョセフ・スミスが モ  
ルモンしょを ほんや  
くしたことを しています。  
ぼくは、せいてんの なかの  
イエスさまに ついての はな  
しが だいすきです。  
イエスさまは ぼく  
や ちいさな こど  
もたちを とても  
あいしておられることを しています。  
しよとうきょうかいで もっと イエスさまに  
ついて べんきょうしたいと おもいます。  
まいしゅう にちようびに かぞくで きょ  
うかいに いくのが たのしみです。ぼくは  
かぞくが だいすきです。



アドリアル・T, 5才 (マレーシア)

応募の際には、必ず子供の氏名と年齢、そ  
れに親の名前、ステーキ、地方部、ワード、支  
部名を明記し、子供の写真や提出物の使用に  
対する許可書(電子メールでも可)を添えて  
ください。紙面の都合上、あるいは明瞭な表  
現にするために、編集されることがあります。

# 新しい友だちと 前からの友だち

「友は いずれのときにも あいする」  
(箴言 17:17)

ジェーン・マクブライド・チョーテ  
じつわをもとに書かれました。

1. 日曜日の朝 リサは ときどき していました。ワードの さかいが  
かわって 今日から 新しい ワードに つどうことになつていたので  
す。お父さんと お母さんには リサが しんぱいしているのが よく分か  
りました。



3. 教会に 行った リサは、しょとうきょうかいの へやに 入って 行きま  
した。前の ワードの 友だちも 何人か いましたが、はじめて 見る 顔も  
たくさん ありました。クラスで リサは ほかの 子どもたちと いっしょに  
おたがいの 名前をおぼえる ゲームを しました。はじめてでしたが みんな  
よい子たちみたいです。



4. クラスの<sup>あと</sup>後 リサは、ホールで まっている  
りょうしんと<sup>おとうと</sup>弟を<sup>み</sup>見つけました。

<sup>かあ</sup>お母さん、わたしの<sup>おたんじょうびに</sup>おたんじょうびに  
<sup>あたらしい</sup>新しい<sup>おとも</sup>お友だちも<sup>うちに</sup>うちに<sup>しょうたいして</sup>しょうたいして  
いい?

それは とても<sup>かんが</sup>いい考えね。



5. その<sup>しゅう</sup>週に リサは おかあさんと、<sup>いま</sup>今までの<sup>ワード</sup>ワードと<sup>あたらしい</sup>新しい  
ワードの<sup>とも</sup>友だちを<sup>しょうたい</sup>しょうたいしました。



6. リサの<sup>たんじょうびに</sup>たんじょうびに<sup>こども</sup>子どもたちが<sup>そろって</sup>そろって<sup>あつまり</sup>あつまりました。  
みんなが<sup>おたがいの</sup>おたがいの<sup>なまえ</sup>名前を<sup>おぼえ</sup>おぼえられるように、<sup>しょうきょうかい</sup>しょうきょうかいで  
した<sup>ゲーム</sup>ゲームを<sup>しま</sup>しました。

7.

<sup>たの</sup>楽しかった?

うん!<sup>まえ</sup>前の<sup>おとも</sup>お友だちの  
ほかに<sup>あたらしい</sup>新しい<sup>おとも</sup>お友だちが  
できたよ!





# 新しい 友だちを 見つけましょう

リサは 新たな 新しい 友だちを つく のが とても 楽しかったので、これからも できるだけ たくさん の 友だちを 見つけたいと おも っています。この 絵に かくれている 子どもたちを 見つけて 丸をつけ、リサの 友だち作りを 手つだててあげましょう。



## 親の皆さんへ

「自分から人々に親しく接してみてください。必ず友達ができます」とゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910 - 2008年）は言っています。1 ここに紹介されている活動を使って、どうすれば友達ができるかを、子供たちが理解できるようにしてください。

「新しい友だちと前からの友だち」(68 - 69) を読んだ後、子供たちがこのページの活動を完成できるようにしてください。子供に、新しい友達を作るにはどのような方法があるか尋ねましょう。皆さん自身の経験を話してあげてください。

友達を作るのに少し助けが必要な子供がいるかもしれません。その場合には、ほかの親たちに声をかけてその子供たちを自分の家に招待し、一緒にゲームをして遊んでもらうようにしてもよいでしょう。かくれんぼはどうでしょうか。鬼を決めて、その子が20 数える間にほかの子が隠れ、数え終わったら、隠れた子を探します。

注

1. ゴードン・B・ヒンクレー「互いを強める」『聖徒の道』1985年6月号, 1



# おうさまに おねがいする エステル



「おうひ エステルが にわに たっているのを みて〔おうは〕 かのじよに  
めぐみを しめし、 その てに ある きんの しゃくを エステルの ほうに  
のばしたので、 エステルは すすみよって その しゃくの あたまに さわった。」  
(エステル5:2)

# 親としての神への務めと 若者への務め

主は「[わたしたちの]子供たちを光と真理の中で育てるように」という命令を与えておられます。  
わたしたちが信仰と断固とした決意をもってこの命令にこたえ、  
若者に対する務めを遂行できますように。

十二使徒定員会

ロバート・D・ヘイルズ長老

**親**の責任の中で最も大切なものの一つは教えることです。「家族——世界への宣言」で宣言されているように、「両親には、[息子、娘たちを]……互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、どこにいても法律を守る市民となるように教えるという神聖な義務があります。」<sup>1</sup>

わたしは、70年前にアメリカ合衆国ニューヨーク州ブルックリンで、母から力強い教えを受けたときのことを今でも覚えています。父がわたしにバプテスマを施した後のことです。母は、バプテスマフォントの前にあった金属製のさびた折りたたみ式のいすに、ぬれたバプテスマ衣装のままのわたしを座らせました。そして、神権の権能によって行われたバプテスマの大切さとイエス・キリストの御名を受けるといふバプテスマの聖約の目的、それに従順の律法をわたしと一緒に復習したのです。そして、どんな気持ちができるのかわたしに聞きました。わたしは体中温かい感じがすると答え、一生こんな気持ちでいられるようにしたいと言ったのを覚えています。

母はわたしの目を見て、数分後に父がわたしの頭に手を置き、わたしを末日聖徒イエス・キリスト教会の会員に確認することを教えてくれました。わたしに聖霊の賜物たまものを与えてくれるのだと母は





言いました。そして、ふさわしく生活し、誠実であって戒めに忠実に従うならば、聖霊はともにいてくださって生涯わたしを導き、行くべき道を示してくださると教えてくれました。この言葉を母から聞いたのはずっと昔のことですが、わたしはその教えを受けた大切なひとときを忘れたことはありません。

わたしたちは親として、子供を教えるひとときが子供の人生に大きな影響を与えることをよく理解しているでしょうか。子供たちが福音の原則を理解し、それに従って生活できるよう指導するのは急務だということ

が分かっているでしょうか。信仰と証<sup>あかし</sup>という土台があれば、子供たちは人生の困難を堪え忍べるようになるだけでなく、天の御父の完全な祝福にあずかることができるのです。

### 自分自身の家を整える

主の業の目的は「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと」です（モーセ1：39）。両親は子供たちに「悔い改め、生ける神の子キリストを信じる信仰、およびバプテスマと<sup>あんしよ</sup>按手による聖霊の賜物の教義」を教えることによって、この偉大な業の達成を助けることができます（教義と聖約68：25）。



預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた示現の中で、主は、大管長会の一員であったフレデリック・G・ウィリアムズ（1787 - 1842年）を叱責されました。子供を教えるという務めを怠ったからです。

「あなたは、戒めに従ってあなたの子供たちに光と真理を教えてこなかった。そのために、あの邪悪な者は今なおあなたを支配する力を持っている。あなたが苦難を受けてきた原因はこれである。

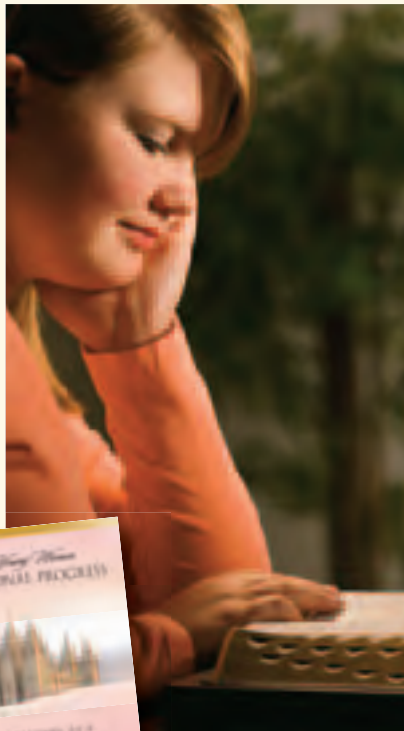
さて、わたしは戒めをあなたに与える。すなわち、あなたは救い出されたいと望むならば、自分自身の家を整えなければならない。あなたの家には、正しくないことがたくさんあるからである。」（教義と聖約 93：42 - 43）

わたしたちには、家庭で光と真理を教える勇気があるでしょうか。それとも、その務めを怠っているために家庭内で苦難を受けているでしょうか。深く考えて祈るならば、霊的な力と導きが与えられ、自分自身の家を整えることができるようになるでしょう。

## 学びの家

聖文には、「学びの家……を建てなさい」という勧めがあります（教義と聖約 88：119）。わたしたちが親として、神と子供たちに対するこの務めを果たすための方法を幾つか提案しましょう。

**子供たちの思いと心を救い主に向けさせる。** 信仰と証は、イエス・キリストとその贖いの犠牲を中心にしたものでなければなりません。わたしたちは救い主に対する自分の気持ちを子供たちに伝え、その証を強めるのに役立つ聖文や体験談を子供たちに話して聞かせるべきです。贖いの大切さと、それが日々の生活でいかに大



「成長するわたし」の変更点についてさらに詳しく知りたい方は、[PersonalProgress.Ids.org](http://PersonalProgress.Ids.org)（英語）にアクセスして、イレイン・S・ダルトン、「What's New in Personal Progress?」 *New Era*, 2010年1月号, 32-35、およびヘザー・ウィットル「徳高い一人の女性が世界を変える」*リアホナ* 2010年1月号, 74-75をご覧ください。

きな祝福となり得るのかを子供たちに理解させるのです。

エノスはイエス・キリストとその福音について知っていました。それは、「父が永遠の命……について語るのを度々聞いていた」からです（エノス 1：3）。若い兵士たちは、「母親から、疑わなければ神が救ってくださると教わって」いました（アルマ 56：47）。わたしたちはニーファイ人の次の言葉に励まされます。「わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、また、どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるために、自分たちの預言したことを書き記すのである。」（2 ニーファイ 25：26；強調付加）

**模範によって導き教える。** いろいろな意味で、言葉よりも行動の方が大きな影響力を持ちます。ブリガム・ヤング大管長（1801 - 1877年）は、次のように教えています。「〔子供たちに〕倣ってほしいと思うことについては模範を示さなければなりません。わたしたちはそのことを十分に理解しているでしょうか。子供には従順、善い行い、穏やかな言葉遣い、そして笑顔と優しい声、輝くひとみと目を要求しておきながら、自分自身はとげとげしい態度で、しかりつけてばかり

りいるような親が非常に多くいます。何と矛盾した、道理に合わないことではないでしょうか。」<sup>2</sup> 子供たちは親の矛盾を察知し、それを口実にして同じような行動を取るようになるかもしれません。

こんな風に自問してみるとよいでしょう。自分は、教会の召しを忠実に果たし、できるだけ定期的に神殿に参入し、キリストのような心配りと哀れみの心をもって人に仕えている人物として子供たちの目に映っているだろうか。自分の行いを見て、福音に従って生活することは重荷ではなく、喜びだと子供たちは受け止めている



だろうか。良い模範となって、信仰と証の土台の上に生活を築くことの大切さを子供たちが理解できるようにしようではありませんか。

**家庭内に義にかなった規範を確立する。**  
わたしたちは、あらゆる機会を活用して主の御霊を家庭の中に招き入れる必要があります。そのための方法の一つは、家族の祈りや家族の聖文学習、家庭の夕べを定期的に行うといった「小さなこと」の実践です。こういったことを家庭生活の規範の中に組み込めば、子供たちの証を育てるうえで大きな効果があるでしょう。ジョセフ・スミスを通して与えられた主の言葉を忘れないようにしましょう。「善を行うことに疲れ果ててはならない。あなたがたは一つの大きい業の基を据えつつあるからである。そして、小さなことから大いなることが生じるのである。」(教義と聖約 64:33)

家庭に確立すべきもう一つの大切な規範は、メディアの利用に関して主の標準に従うということです。デジタルメディアの到来とともに、下品な内容の情報に接する機会が増えましたが、同時に、美しいもの、人を啓発するものに触れる機会も増えてきました。子供たちが「徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値すること」を尋ね求めるよう、訓戒と模範によって導こうではありませんか(信仰簡条 1:13)。

**意義深い個人の祈りと聖文学習を奨励する。**子供たちの信仰と証が育つかどうかは、大部分、子供たち自身が信仰深い行いを実践するかどうかにかかっています。子供たちが目標を立てて定期的な祈りと聖文学習を習慣とすることができるよう助けましょう。

聖文が親の生活の一部となっていれば、それを子供の生活の一部にしてあげることは容易でしょう。子供との交流の場では、様々な場面で聖句を引き合いに出すことができます。そういった場面を利用しようという心構えさえあれば、教える機会はどこにでも見いだすことができるのです。

## 『神への務めを果たす——アロン神権者用』改訂版

**教**会の若い男性を強化する努力の一環として、大管長会は『神への務めを果たす』を改訂することを発表した。

若い男性にとって、神への務めを果たすことは生涯取り組むべき課題である。個々の活動や達成事項を承認してもらうこと以上に大切なのは、ふさわしい父親、ふさわしい神権者になることである。改訂版の『神への務めを果たす』は、若い男性が証を強め、神との関係をしっかりと築き、自分に課せられた神権者の務めを果たせるようになり、『若人の強さのために』に書かれている標準に従って生活できるようになることに重点を置いている。

この改訂版の『神への務めを果たす』は、教義と聖約第 107 章 99 節の「人は皆、自分の義務を学び、任命されている職務をまったく勤勉に遂行するようにしなさい」という言葉を基にしている。若い男性は学習活動を行い、学んだことを実践するために具体的な計画を立て、経験したことを親や定員会の会員、指導者に伝えることになっている。改訂版『神への務めを果たす』には、身体面や教育面、社会面で成長するための活動も含まれている。こうした活動はスカウト活動が行われている地域においては、それと競合するものではなく、むしろ補うものとなっている。スカウト活動が行われていない地域においては、『神への務めを果たす』は、幅広く豊かな経験ができる場を若い男性に提供することになる。

改訂版の『神への務めを果たす』は、若い男性と身近にかかわり、彼らとの関係を緊密にする機会を両親とアドバイザーに提供する。

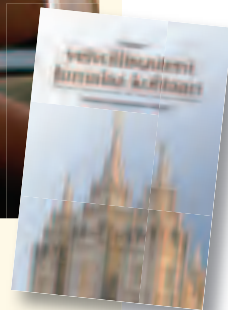


例えば、食事時は、両親と子供たちが考えていることや感じていることを伝え合うのにもってこの場です。親は、聖文学習で何を学んでいるのか子供たちに尋ねることができます。子供たちは聖文を読んでいてどんな疑問にぶつかっているのでしょうか。子供たちの好きな聖句は何でしょうか。わたしたちは自分の好きな聖句を伝えて、なぜその聖句が自分にとって大切なのか話すこともできます。話し合いの中で生ける預言者の言葉も伝え、現代の預言者の言葉も教会の機関誌から読むよう子供たちに勧めるべきです。

**教会が両親に提供している道具を活用する。**家造りの名人は優れた道具の価値を知っているものです。優れた道具があれば、一見手ごわい作業もすんなりと成し遂げることができます。教会では、子供たちが信仰と証の土台を築くの助けをうえて両親が活用できる便利な道具を数多く提供しています。

最近刊行された道具の一つは、若い男性を対象とする『神への務めを果たす』の改訂版です。同じく最近改訂された『成長するわたし』も、若い女性のために作成された有力な道具です。青少年たちが『神への務めを果たす』や『成長するわたし』を達成しようと努めるときに、両親も一緒になって支えてあげれば、その成果は大いに高まるでしょう。

例えば、改訂版の『神への務めを果たす』と『成長するわたし』では、青少年は学んでいることに基づいて計画を立てて活動を行いながら、目標や体験談、感じたことを家族に話すことになっています。両親の皆さん、これは、子供たちと福音について話し、彼らと実りある関係を築くまたとない機会です。福音について話すために形式張る必要はありません。「何かのついでに話す」というような何気ない会話の中に、子供



『神への務めを果たす』についてさらに詳しく知りたい方は、『リアホナ』2010年5月号、136の「新しい『神への務め』プログラムが発表される」および [DutyToGod.lds.org](http://DutyToGod.lds.org) をご覧ください。このウェブサイトには、この冊子のインタラクティブ版があり、若い男性が神への務めの進め方を理解する助けになる資料も収録されています。

たちを強化する絶好の機会が見つかることでしょう。<sup>3</sup>

時間を取って、『神への務めを果たす』と『成長するわたし』の改訂版に精通し、息子、娘たちが目標を立てるのを助けてあげてください。息子、娘たちと一緒にこれを行い、皆さんが自分の経験を話し、彼らが何を学んでいるのか、どんなことを経験しているのか定期的に尋ねてください。子供たちが信仰と証の土台をしっかりと築けるよう、どうかこれらの道具をうまく活用してください。

わたしたちがこれらの勧めに従い、子供たちが信仰と証の土台を築けるよう、教会員の親として導いていけるようにと願っています。その土台があれば、どんな嵐が待ち受けていようとそれに耐えることができるのです。子供たちを導く過程でわたしたち自身も霊的に成長し、子供たちとの愛のきずなは強くなって永遠に続くものとなります。主は「〔わたしたちの〕子供たちを光と真理の中で育てるように」という命令を与えておられます（教義と聖約 93:40）。わたしたちが信仰と断固とした決意をもってこの命令にこたえ、若者に対する務めを遂行できますように。

注

1. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号、49; *Ensign*, 1995年11月号、102
2. 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』(1997年)、191
3. 『神への務めを果たす——アロン神権者用』(冊子、2010年)、98



## 読者からの便り

### 事前にやって来た助け手

わたしは機関誌を隅から隅まで読む目標を立てました。読む必要がないと思った記事も読むことにしたのです。2009年8月号で「産後うつに対処する——福音的な観点」を読んだのはそのためでした。

しかし、その年の10月に娘が生まれたとき、わたしはすぐに産後うつの症状が出ていることに気づきました。そして、記事で読んだ勧めに従って、すぐに必要な助けを求めたのです。おかげで、ほんの2、3か月で回復しました。

『リアホナ』はただの機関誌ではありません。それは、レシピアであり、地図であり、ガイドブックであり、羅針盤でもあるのです。

ベルサ・ピオラ・レティス・エスピノ  
(メキシコ)

### わたしたちが信じていること

わたしは新しいデザインの『リアホナ』がとても気に入っています。特に好きなのは「わたしたちが信じていること」です。新会員や会員でない人にとって、これはすばらしい知識と力の源になるでしょう。新しい機関誌に感謝しています。

ヨナタン・デ・オリベイラ

ご意見、ご感想を

liahona@ldschurch.org に  
お送りください。

掲載されるお手紙は、紙面の都合上、  
あるいは明瞭な表現にするために  
編集されることがあります。■

## 家庭の夕べのためのアイデア

今月号には、家庭の夕べで活用できる記事や活動が掲載されています。以下に幾つか例を挙げます。

### 「神殿に入るふさわしさを

保つ」12ページ——レッスンの一部として、この記事に載っているリストに挙がっている神殿推薦状に関するのテーマについて話し合うこともできます。それを読みながら、それぞれのテーマについて家族によく考えてもらいましょう。神殿で礼拝できるふさわしさを身に付けるよう皆に勧めてください。

### 「リーハイの夢に自分の姿を見いだす」

26ページ——家族と一緒に記事を復習してください。まとめのところで十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長がニーファイ第一書第8章と、救いの計画について教えているモルモン書の別の聖句をもう一度読むよう勧めています。これらの聖句を読んで、パッカー会長が約束している事



柄について話し合ってもよいでしょう。

### 「主は彼をわたしたちが通る道に置かれました」48ページ——この物語

語を読んで家族によく聞いてもらい、車の中の男性が宣教師のレッスンを聞くことにした理由は何かを話し合います。救い主だったらどのように行動されるかを、いろいろな場面を設定してロールプレイしたり、話し合ったりしてもよいでしょう。

### 「10才の先生」58ページ——物語の

内容を伝えた後、自分が教師になった場合のことや福音のどんなテーマについて教えたいかについて家族に考えさせてもよいでしょう。教える練習の機会を与えるために、スケジュールを作成して、家庭の夕べやそのほかの場で家族に教師を務めさせることもできます。

### ふくらむ証と宣教師基金

教会の指導者が青少年に専任宣教師になるためにお金をためるよう勧めました。この話を聞いてから、わたしたちは10歳のアラーナと7歳のウルリックの二人の子供と一緒に特別な家庭の夕べを開きました。わたしたちは専任宣教師になるための貯金をすることの大切さについて話し合ってから、貯金を始められるよう、子供たちに貯金箱を与えました。

その晩以来、信じられないほどお金がたまっています。ウルリックは探せるかぎり硬貨を探して全部貯金します。二人とも、

親戚からもらったお金は必ず貯金します。ウルリックは最初の3か月で伝道の最初のひと月分の費用をためてしまい、アラーナもそれに近い金額をためました。子供たちはお金をもらおうと必ずその什分の一も払っています。そして、わたしたちの家族は、奉仕と犠牲に対する子供たちの証が根を下ろして成長するという大きな祝福を目の当たりにしてきました。

ルイス・ベレイラとアンドレイア・ベレイラ  
(ブラジル、サンパウロ)

### あなたの大好きな家庭の夕べ

あなたの大好きな家庭の夕べについて表した文章を liahona@ldschurch.org までお寄せください。■

# 新しい 地域会長会の 割り当て

大 管長会は、地域会長会の割り当ての変更を発表した。この変更は2010年8月1日から実施される。地域会長会のうち、\*印のない長老はすべて七十人第一定員会、または第二定員会に属している。

## 七十人会長会



全地域を補佐  
ロナルド・A・  
ラスバンド



1. 北アメリカ  
南西地域  
クラウディオ・  
R・M・コスタ



2. ユタ北地域  
3. ユタ・  
ソルトレーク・  
シティー地域  
4. ユタ南地域  
スティーブン・E・  
スノー



5. 北アメリカ  
南東地域  
ウォルター・F・  
ゴンサレス



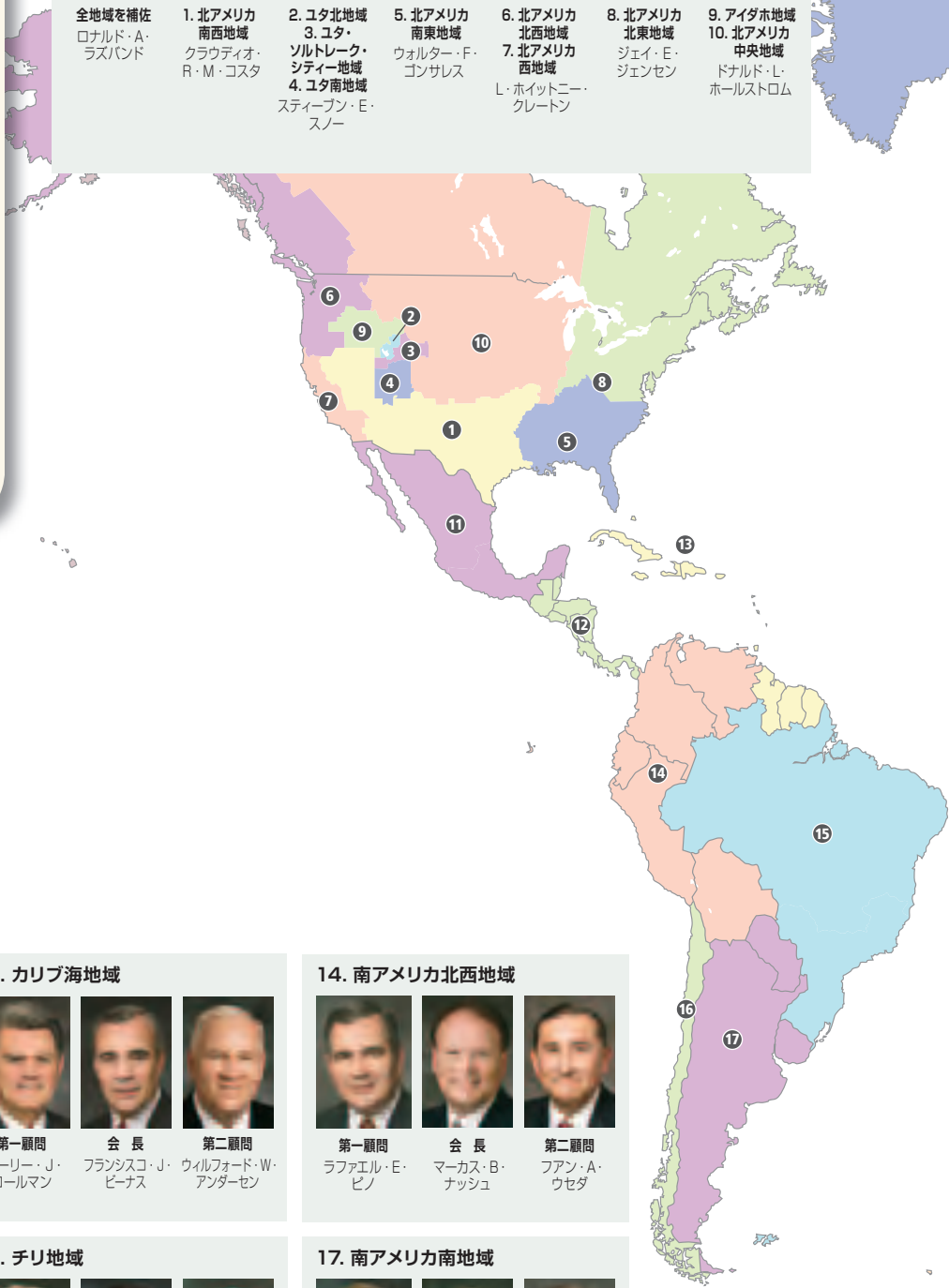
6. 北アメリカ  
北西地域  
7. 北アメリカ  
西地域  
L・ホイットニー・  
クレートン



8. 北アメリカ  
北東地域  
ジェイ・E・  
ジェンセン



9. アイダホ地域  
10. 北アメリカ  
中央地域  
ドナルド・L・  
ホルストロム



## 11. メキシコ地域



第一顧問  
ベンハミン・  
デ・オヨス



会 長  
ダニエル・L・  
ジョンソン



第二顧問  
オクタビオ・  
テノリオ

## 12. 中央アメリカ地域



第一顧問  
エンリケ・R・  
ファラベラ



会 長  
ドン・R・  
クラーク



第二顧問  
ジェームズ・B・  
マルティニ

## 13. カリブ海地域



第一顧問  
ゲアリー・J・  
コールマン



会 長  
フランシスコ・J・  
ピーナス



第二顧問  
ウィルフォード・W・  
アンダーセン

## 14. 南アメリカ北西地域



第一顧問  
ラファエル・A・  
ピノ



会 長  
マーカス・B・  
ナッシュ



第二顧問  
フランク・A・  
ウセダ

## 15. ブラジル地域



第一顧問  
カルロス・A・  
ゴドイ



会 長  
コリス・  
ソアレス



第二顧問  
ジャイロ・  
マサガルティ

## 16. チリ地域



第一顧問  
ローレンス・E・  
コーブリッジ



会 長  
カーロス・H・  
アマード



第二顧問  
ホルヘ・F・  
セバコス

## 17. 南アメリカ南地域



第一顧問  
マルコス・A・  
アイドカイトイス



会 長  
マービン・B・  
アーノルド

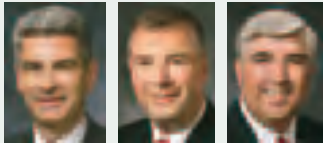


第二顧問  
ケント・F・  
リチャーズ

\*地域七十人



### 18. ヨーロッパ地域

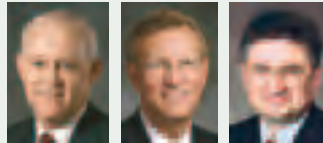


第一顧問  
ジェラルド・コゼー

会長  
エリック・W・コビシュカ

第二顧問  
ジョセ・A・ティシエラ

### 19. ヨーロッパ東地域



第一顧問  
ラリー・R・ローレンス

会長  
グレゴリー・A・シュワイツァー

第二顧問  
アレクサンドル・N・マンゾフ\*

### 20. 中東／アフリカ北地域

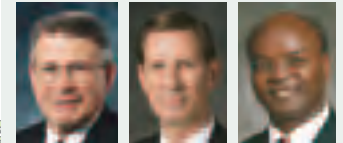


本部の管理下

ブルース・D・ポーター

ポール・B・パイパー

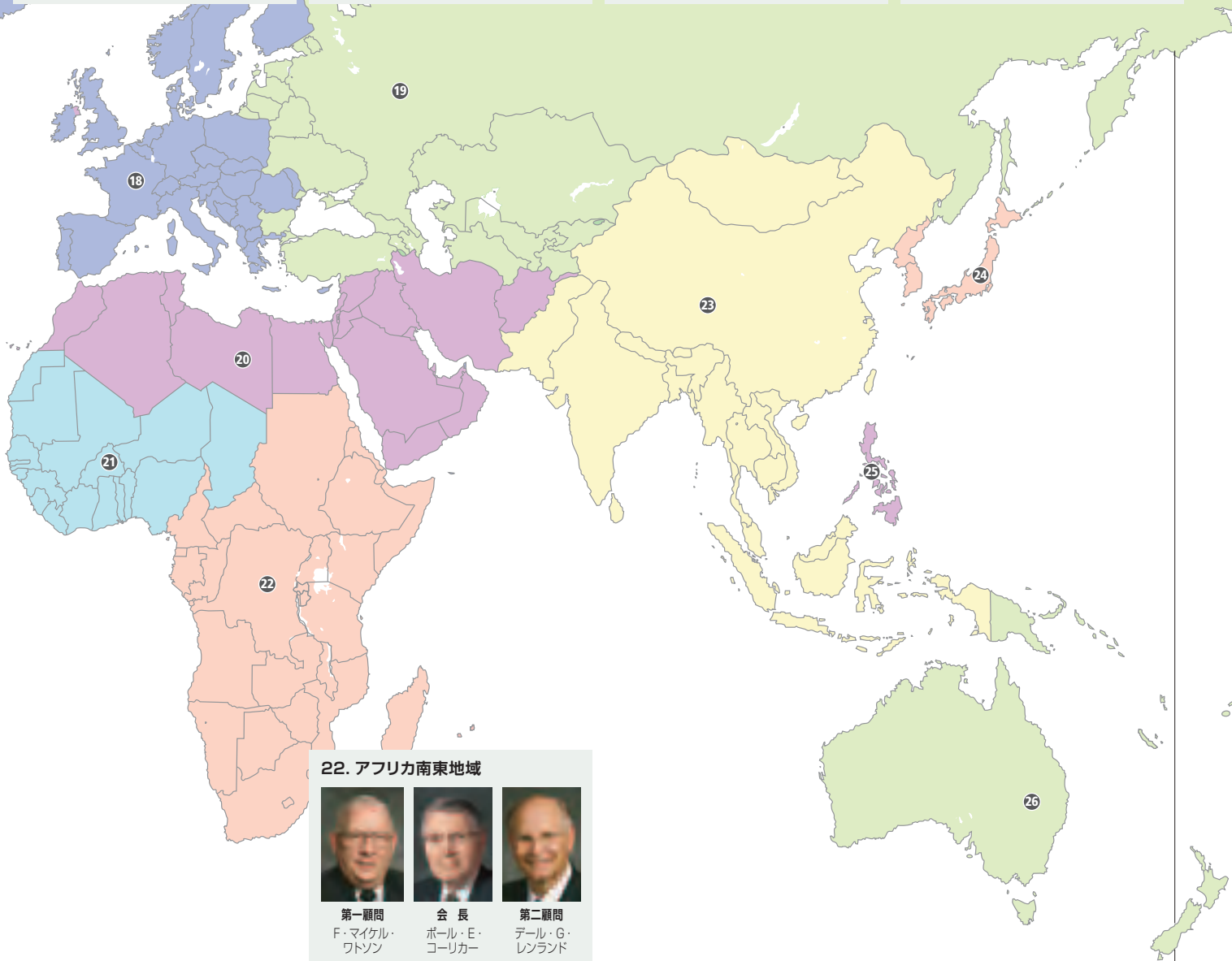
### 21. アフリカ西地域



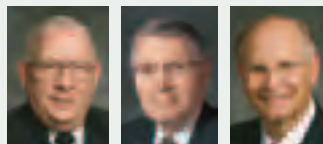
第一顧問  
ジョン・B・ディクソン

会長  
クレーグ・A・カードン

第二顧問  
ジョセフ・W・シターティ



### 22. アフリカ南東地域

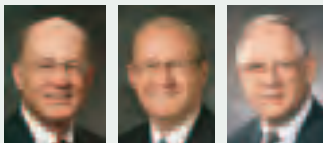


第一顧問  
F・マイケル・ワトソン

会長  
ポール・E・コーリカー

第二顧問  
テレル・G・レンランド

### 23. アジア地域



第一顧問  
ケント・D・ワトソン

会長  
アンソニー・D・パークINS

第二顧問  
カール・B・プラット

### 24. アジア北地域



第一顧問  
崔 善煥

会長  
ゲアリー・E・スティーンホルン

第二顧問  
青柳 弘一

### 25. フィリピン地域

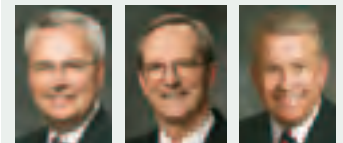


第一顧問  
高 元龍

会長  
キース・R・エドワーズ

第二顧問  
マイケル・ジョン・U・テー

### 26. 太平洋地域



第一顧問  
ジェームズ・J・ハムラ

会長  
タッド・R・カリスター

第二顧問  
ブレント・H・ニールソン

## 結び目を作って しっかりつかまっていなさい

カレン・ポール

**わ**たしはカナダの小さな町で育ちました。13歳のとき、父が失業したために、家族は生活の糧を求めてエドモントンに移り住みました。引っ越してから数か月して両親が激しく言い争いをし、その結果、母は6か月間入院する羽目になりました。しばらくして母は、父が家に戻ることを許しましたが、それを機にわたしの生活は荒れていきました。心の内にわき上がる怒りから気を紛らわせるために、アルコールと薬物にのめり込んでいったのです。

ちょうどそのころ宣教師と出会いました。地元のワードに集う家族を目にしたわたしは、夫婦が互いに尊敬し合い、親が愛をもって子供たちに接する光景を見て心を打たれました。そして16歳のときバプテスマを受けたのです。

教会員になってからの1年間は、成長痛に耐えなければならないような時期でした。わたしは、家庭内暴力から気を紛らわせるためにつきあってきた友達や生活習慣から縁を切っていました。しかし残念なことに、そのギャップを埋めるために新しく友達になってわたしを温かく迎え入れようとする雰囲気は、ワードにはありませんでした。自分は受け入れられていないと感じたわたしが、元の生活に戻ろうとしていたときのことです。宣教師がわたしに、バプテスマのときに交わした聖約に忠実になるようにとチャレンジしたのです。洪々やり直そうと思ってみたものの、まるで今にも指の間からすり抜けそうなロープにしがみついているような気分でした。

間もなくしてわたしは、ローレルクラスの会長に召されました。自分はあまりにも力不足だと思いました。自分よりもずっとふさわしい人が何人もいました。召しが発表されたとき、少女たちの一人が不満をあらわにしました。「何であなたなんか召されたのかしら。ろくに教会に来てないのに。あなたに何が分かるの。」

彼女の言うとおりでした。わたしは何も知らなかったのです。わたしが召しを果たすことになれば、自分も含めて多くのローレルの少女が教会に来なくなるのではないかと思いました。どう見ても耐えられそうにありません。ロープの端にぶら下がっている人間がいるとしたら、それはわたしでした。

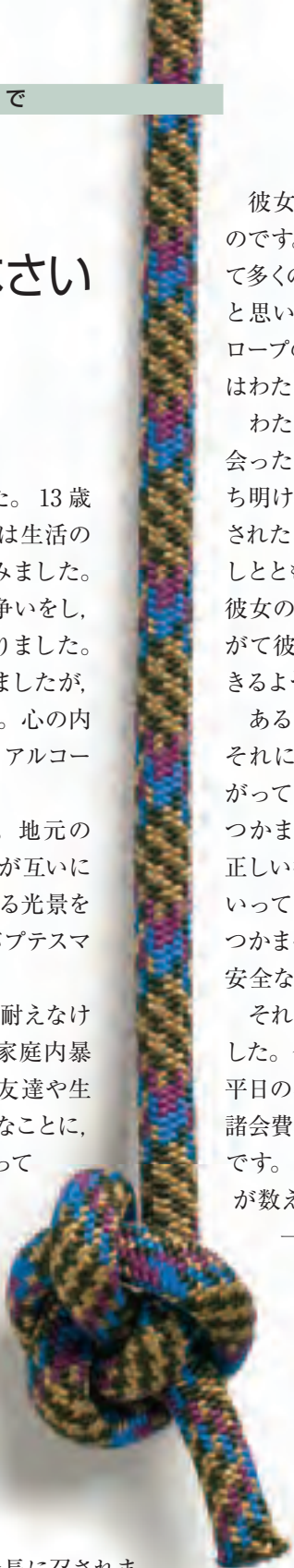
わたしはクラスアドバイザーのマーリーン・エバンズに会ったときに、だれかが大きな勘違いをしたと思うと打ち明けました。すると彼女は、理由があってわたしが召されたと確信しているということです。そして辛抱強くわたしとともに召しを果たしてくれました。わたしは定期的に彼女の家に行き、会長の責任について学びました。やがて彼女の励ましもあって、自信をもって集会を管理できるようになりました。

あるときエバンズ姉妹がわたしにカードをくれました。それにはこう書かれていました。「ロープの端にぶら下がっていると感じる際には、結び目を作ってしっかりつかまっているものよ。」ロープは人生を表していて、正しい行動を取らなければ人生が指の間からすり抜けていってしまうというのです。結び目は、福音にしっかりつかまっていようとする決意を表し、福音はわたしを必ず安全な所に導いてくれるということでした。

それからというもの、わたしはその教えを胸に生きてきました。全日制の高校に通いながら通信教育も受けました。平日の夜と土曜日に働き続けました。授業料のほかに、諸会費や、書籍代、衣料費、部屋代、食費を自分で払うためです。その間ロープの端にぶら下がっていると思うことが数え切れないほどありました。わたしがそれをすべて一人で乗り越えるほど、際立ってすばらしい人間だったと思いますか。とんでもない。ただ結び目を作って、そこにしがみついていただけです。

その後大学を卒業したわたしは、現在社会福祉士として働いています。神殿結婚をして4人の子供を授かり、その子供たちは皆神殿に参入して伝道に出ました。わたしはこれまで何度か若い女性の組織で指導者としての責任を果たしてきました。その都度エバンズ姉妹から贈られた言葉を、機会あるごとに若い女性たちに分かち合うようにしています。彼女の心遣いと言葉がわたしの人生を変えてくれたからです。

もし結び目を作ってしっかりつかまっていることを学んでいなければ、今日頂いているあふれるばかりの祝福を受けることはなかったと思います。■







「ルビエ」大学美術部の許可を得て複製

## キリストの言葉

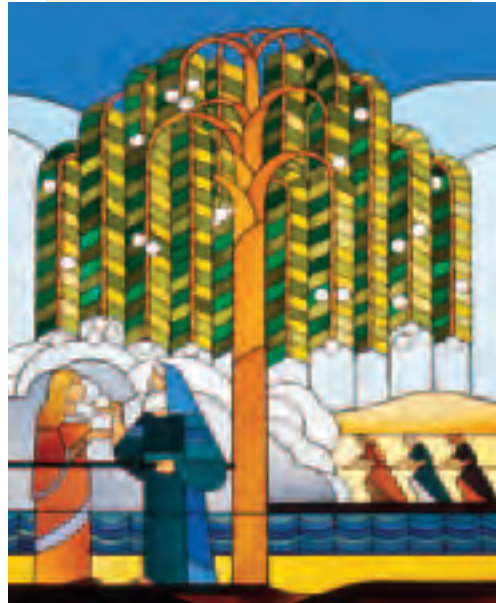
### 「失われた羊」 N・C・ワイス画

「あなたがたのうちに、百匹の羊を持っている者がいたとする。その一匹がいなくなったら、九十九匹を野原に残しておいて、いなくなった一匹を見つけるまでは捜し歩かないであろうか。

そして見つけたら、喜んでそれを自分の肩に乗せ、家に帰ってきて友人や隣り人を呼び集め、『わたしと一緒に

に喜んでください。いなくなった羊を見つけたから』と言うであろう。

よく聞きなさい。それと同じように、<sup>つみびと</sup>罪人がひとりでも悔い改めるなら、<sup>くいあらた</sup>悔改めを必要としない九十九人の正しい人のためにもまさる大きいよろこびが、天にあるであろう。」  
(ルカ 15 : 4 - 7)



「リーハイの夢すなわち示現は、皆さんにとって何ら特別な意味はないと思われるかもしれませんが」と十二使徒定員会会長のボイド・K・パッカー会長は書いています。「そうではありません。その示現は皆さんに、そしてすべての人に当てはまるのです。」「リーハイの夢に自分の姿を見いだす」26ページ参照